清水山古窯跡

（古窯址群）

（中世墓址群）

発掘調査報告書

1994年3月

中野市教育委員会

清水山古窯跡

（古窯址群）

（中世墓址群）

発掘調査報告書

1994年３月

中野市教育委員会

序

草間丘陵一帯に、古代の大窯業生産地が存在していたことは全国的広く知られています。中野市はこうした古代の窯跡の保存と都市開発の調和に鋭意努力しておりますが、近年の高速道建設に伴う周辺開発等によって、やむなく記録保存するケースが増加する傾向にあります。ここに、報告する清水山古窯跡もそのひとつであります。清水山古窯跡の保存については関係機関と慎重に協議を重ね、記録保存することとなりました。

今回の調査では須恵器窯が検出されるであろうと予想しておりましたが、中世の集団墓群が検出されるという思いがけない調査結果を得ることなりました。中野市には高梨氏館跡をはじめとして、多くの中世の遺跡が確認されており、当時の姿が偲ばれますが、今回の調査でまた新しい知見を加えたことなります。　本報告書が活用され、郷土の歴史の新しい一頁を開き、市民の皆様の研究や郷土学習の一助になること願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた関係諸機関、地元区民、調査団の皆様にあつく御礼申し上げます。

中野市教育委員会

凡　　例

本書は長野県中野市立ヶ花清水山遺跡の縄文時代、奈良時代古窯址群、中世墓址群の報告書である。報告にあたっては、清水山の北斜面を清水山第１地点とし、南斜面を清水山第２地点とし、第１地点は古窯址群、第２地点は中世墓址群である。なお、第１地点は前年度長野県埋蔵文化財センターによって調査された清水山古窯址群の西側隣接地であり、第１号窯・第３号窯の灰原部分に当たる。

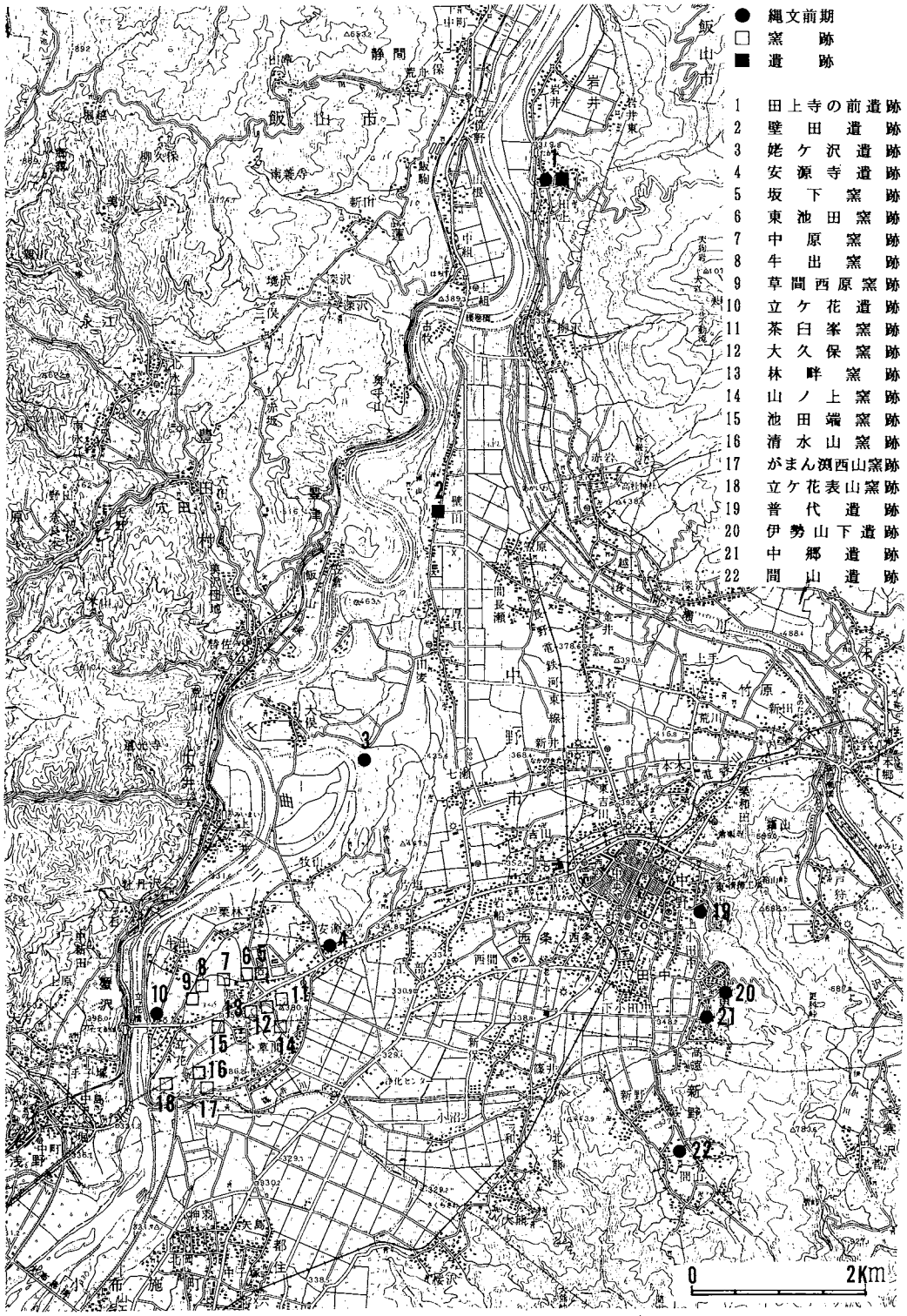
１．遺跡所在地：長野県中野市大字立ヶ花字清水山657－１
２．遺跡面積：2000㎡　　調査面積　2000㎡
　調査期間：清水山第１地点　1993年７月27日－1993年９月29日
　　清水山第２地点　1993年11月24日－1993年12月22日
　遺物整理・報告書作成期間：1993年9月30日－1993年11月23日、1993年12月23日－1994年３月31日
３．調査主体：中野市教育委員会
４．調査団組織：調査責任者　教育長小林治己　　調査団長　金井汲次
　　調査主任　中島英子　　調査員　檀原長則　池田実男
　　事務局　教育次長　佐藤嘉市
　　社会教育課長　小古井嘉幸　　社会教育課長補佐　山口耕一
　　学芸員　徳竹雅之
　調査協力：黒岩隆
　発掘作業（第１地点）：秋山恒巳　池田きよ子　池田正子　池田幸男　今井侃　金井英男　小林緑　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　竹田保夫　竹内盛太郎　田中幸太郎　檀原みち江　出川信美　常田誠　中島宏　西山精治　宮本公次　樋口義勝　樋口義政　山岸弘喜　湯本栄一　（学生）浦野貴光　小林茂樹　小林弘和　小林充　笹沢祐史　佐藤利也　関谷和人　鈴木隆信　鈴木貴　須藤エミ　高橋宏行　田中悟　吉永英明
　　（第２地点）：池田きよ子　池田正子　池田米夫　今井侃　小林緑　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　竹田保夫　檀原みち江　出川信美　中島宏　宮本公次　樋口義勝　樋口義政　山岸弘喜　湯本栄一
５．本報告の編集：中島英子
　本報告の執筆：中島英子
　調査協力・助言：千々和到　小山丈夫　垣内光次郎　芝田悟　永井久美男　湯本軍一　笹沢浩　関孝一　郷道哲章　土屋積　鶴田典昭　望月静夫　田村硯城　常盤井智行　長野県埋蔵文化財センター中野調査事務所　江里口省三　関武
　遺物実測：小林緑　実延章子　竹田保夫　出川信美　中島宏　山岸弘喜　松野良子
　拓本：宮本公次　中島英子
　トレース：山崎のり子　中島英子
　整理作業：今井侃　小林緑　小林のぶえ　酒井今朝吉　実延章子　須田有子　竹内盛太郎　竹田保夫　田中幸太郎　出川信美　中島宏　山岸弘喜　山崎のり子　松野良子

目　　次

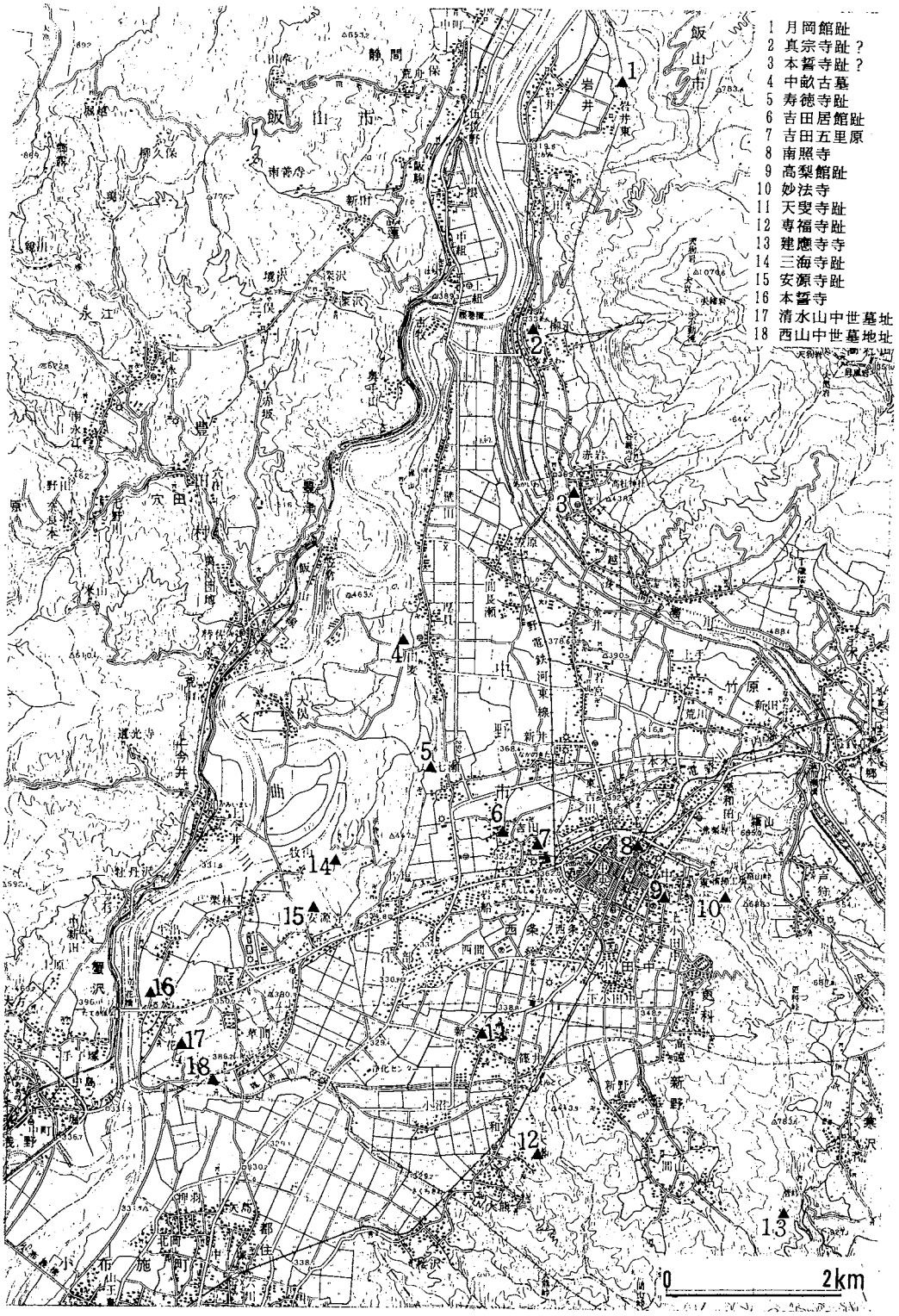
序
凡例
目次
第１節　位置と地形……４
　１．位置と地形……４
　２．基本層序……４
　３．周辺の遺跡……４
　４．調査区……５
第２節　縄文時代……５
　１．遺構……５
　２．遺物……９
第３節　奈良時代……14
　１．遺構……14
　２．遺物……16
第４節　中世……17
　１．遺構……20
　２．遺物……21
第５節　まとめ……44
　１．縄文時代……44
　２．奈良時代……45
　３．中世……56
第６節　結語……57
表目次
第１表　須恵器属性（１）……18
第２表　須恵器属性（２）……19
第３表　須恵器属性（３）……20
第４表　中世墓址群区域別表……33
第５表　火葬土壙属性……33
第６表　火葬骨埋設ピット表（１）……34
第７表　火葬骨埋設ピット表（２）……35
第８表　火葬骨埋設ピット表（３）……36
第９表　中世墓址出土遺物属性（１）……41
第10表　中世墓址出土遺物属性（２）……42
第11表　古銭……45
第12表　鉄製品属性……45
第13表　五輪塔属性（１）……52
第14表　五輪塔属性（２）……53
第15表　五輪塔属性（３）……54
第16表　五輪塔属性（４）……55
図版目次
第１図　縄文時代前期、古代関係遺跡……１
第２図　中世墓関係遺物発見位置図……２
第３図　清水山遺跡調査区……３
第４図　第１地点全体図……６
第５図　第１地点遺構図（１）……７
第６図　第１地点出土遺物（１）……８
第７図　灰原位置図……10
第８図　窯跡灰原土層図……11
第９図　第１地点出土遺物（２）……12
第10図　第１地点出土遺物（３）……13
第11図　第１地点出土遺物（４）……14
第12図　第１地点出土遺物（５）……15
第13図　第１地点出土遺物（６）……16
第14図　第１地点出土遺物（７）……17
第15図　第２地点遺構図（１）……22
第16図　第２地点遺構図（２）……23
第17図　第２地点遺構図（３）……24
第18図　第２地点遺構図（４）……25
第19図　第２地点遺構図（５）……26
第20図　第２地点遺構図（６）……27
第21図　第２地点遺構図（７）……28
第22図　第２地点遺構図（８）……29
第23図　第２地点遺構図（９）……30
第24図　第２地点遺構図（10）……31
第25図　第２地点遺構図（11）……32
第26図　第２地点出土遺物（１）……37
第27図　第２地点出土遺物（２）……38
第28図　第２地点出土遺物（３）……39
第29図　第２地点出土遺物（４）……40
第30図　第２地点出土遺物（５）……43
第31図　第２地点出土遺物（６）……44
第32図　第２地点出土遺物（７）……46
第33図　第２地点出土遺物（８）……47
第34図　第２地点出土遺物（９）……48
第35図　第２地点出土遺物（10）……49
第36図　第２地点出土遺物（11）……50
第37図　第２地点出土遺物（12）……51
付図　　清水山第２地点全体図

写真図版目次

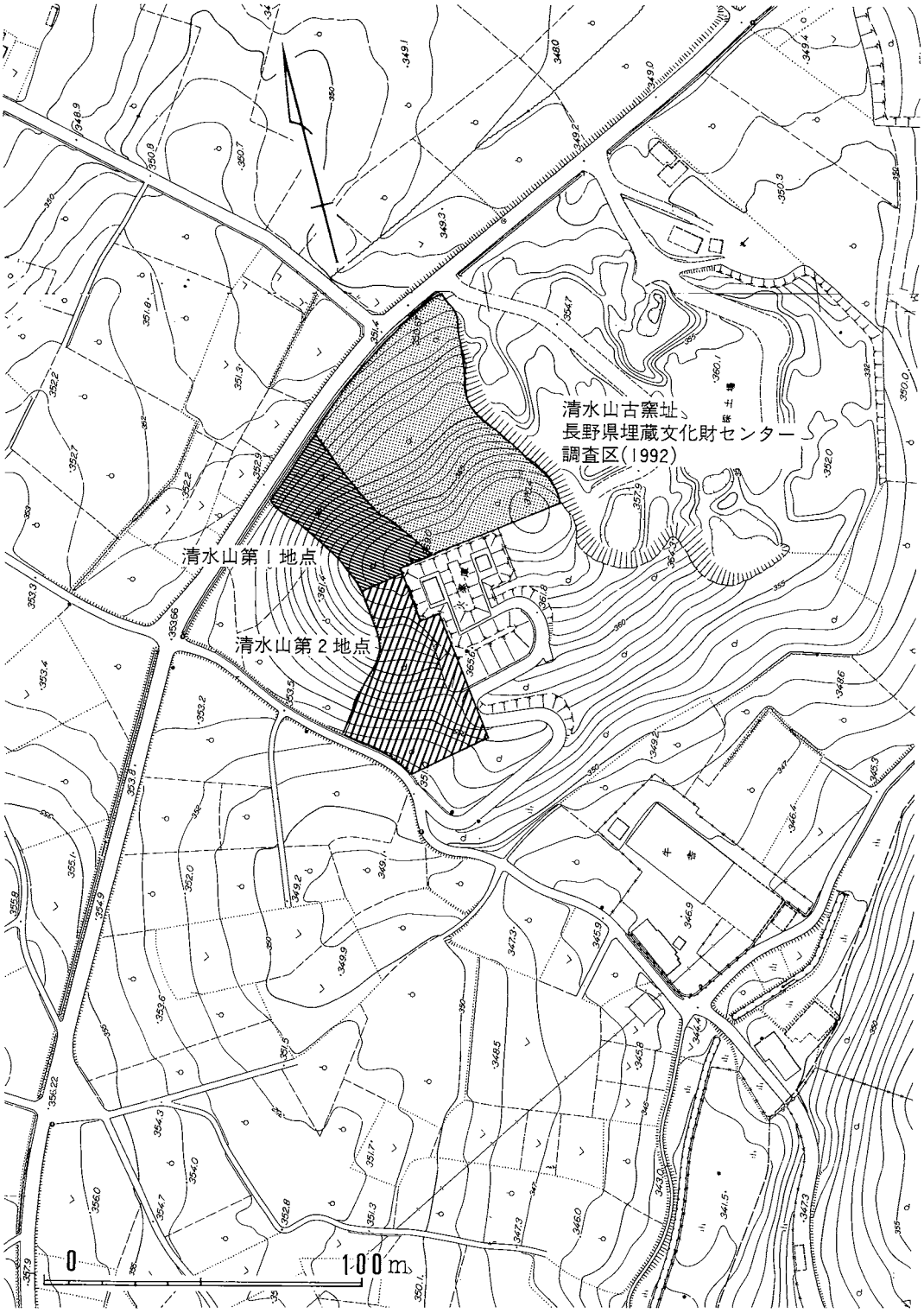
ＰＬ１：１．清水山第１地点遠景　２．清水山第１地点ＳＫ３断面　３．清水山第１地点ＳＫ４断面
ＰＬ２：１．清水山第１地点ＳＫ４出土状況　２．清水山第１地点Ｄ４灰原出土状況　３．清水山第１地点通称すり鉢出土状況
ＰＬ３：１．清水山第２地点遠景　２．清水山第２地点作業風景　３．清水山第２地点第３区墓域出土状況
ＰＬ４：１．清水山第２地点第３区墓域下部施設　２．清水山第２地点第７区墓域出土状況　３．清水山第２地点第７区墓域ＳＫ５検出状況
ＰＬ５：１．清水山第２地点第５区墓域出土状況　２．清水山第２地点斜面中腹遺物出土状況　３．清水山第２地点第16区墓域骨蔵器出土状況
ＰＬ６：１．清水山第２地点第17区墓域骨蔵器出土状況　２．清水山第２地点第12区墓域出土状況　３．清水山第２地点第15区墓域片口鉢出土状況
ＰＬ７：１．清水山第２地点第18区墓域出土状況　２．清水山第２地点第18区墓域刃子、火葬骨出土状況　３．清水山第２地点第９区墓域出土状況
ＰＬ８：１．清水山第２地点第25区墓域出土状況　２．清水山第２地点第25区墓域板碑出土状況　３．清水山第２地点第25区墓域板碑出土状況
ＰＬ９：１．清水山第２地点第25区墓域下部施設　２．清水山第２地点上方第25区墓域下方第26区墓域骨蔵器出土状況



第１図　中野市の縄文時代前期、古代関係遺跡



第２図　中世墓関係遺物発見位置図



第3図　清水山遺跡調査区

第１節　位置と地形

1　位置と地形（第１図・第２図）

長野県の善光寺平の最北端にあたる蛇行する千曲川に沿うように丘陵（長丘丘陵）が形成されている。

この丘陵は、豊野層（泥岩砂岩凝灰岩を含む）が規則正しく層理を形成している。この豊野層の撓曲や段丘によって小さな起伏や小さな谷が形成されている。特に豊野層の中でも立ヶ花の沢田鍋土・池田端、草間の丘陵、高丘の安源寺には良質の粘土層が堆積している。

清水山は、この長丘丘陵の南端部（立ヶ花地籍）上の小さな起伏のある地形に位置している。標高は約370mで比高差は17mである。

この丘陵上には、安源寺古窯址群、草間古窯址群、池田端古窯址等多くの窯跡が存在する。この丘陵は現在でも良質な粘土が採掘できることとして知られ、郷土玩具中野土人形の産地としても有名である。

2　基本層序

第Ⅰ層　表土層。第Ⅱ層　褐色土層（やや粘性を持つ）・中・近世層。第Ⅲ層　暗褐色土層・縄文時代層。第Ⅳ層　黄褐色土層（粘土質層）。第Ⅴ層　黄褐色砂礫層

3　周辺の遺跡（第１図・第２図）

A　縄文時代前期の遺跡（第１図）

中野市の遺跡は、縄文時代前期と中期の遺跡がよく発見される傾向にある。中野市東部（日野地区）の間山遺跡・裏の山遺跡では前期前半の土器が出土しており、中央部（中野地区）では普代遺跡で前期中半、姥ヶ沢遺跡では前半、西南部（高丘地区）では安源寺遺跡、立ヶ花遺跡では中半の土器が出土している。中野市の前期前半の土器は有尾式の土器が多く発見されている。

B　古代の遺跡（第１図）

立ヶ花の沢田鍋土遺跡や池田端遺跡において、古墳時代、あるいは奈良時代の粘土採掘抗（1993　長野県埋蔵文化財センター）が発見されている。沢田鍋土においては奈良時代の住居跡が発見されている（1993　中野市教育委員会）。池田端で奈良時代の須恵器窯跡と瓦窯跡が検出されている。沢田鍋土遺跡は清水山の南西側に当たり、池田端遺跡は清水山の北東側に位置する。1993年中野市教育委員会の調査では、草間がまん淵遺跡では奈良時代初期の窯跡が確認された。この他にも立ヶ花、安源寺、草間地区には多くの窯跡が確認されている。長丘高丘古窯址群とよばれるところである（1988　笹沢浩）。

立ヶ花表山窯跡群（平安？）、林畔窯跡・大久保窯跡群（奈良・平安）、茶臼峯窯跡群（奈良・平安）、上の山窯跡群（平安）、牛出窯址群（平安）、西原窯跡（平安）、安源寺窯跡群（古墳・奈

良)、中原窯跡、東池田窯跡、坂下窯跡等この長丘高丘古窯址群は２kmにわたる狭い範囲内において多くが発見されている。

この地域は千曲川の左岸に当たり水運の便に良い地区であり、良質な粘土の採取場であり、起伏に富んだ地形なため、窯を作るのに適しているものと思われる。このような適性条件のため須恵器の工人はこの地域を選択したものと思われる。

Ｃ　中世の遺跡（第２図）

中野市には多くの中世の遺跡が発見されている。高梨氏居館址、鴨ヶ嶽城跡等高梨氏に関係する遺跡。岩船氏居館址、大久保館跡（伝：草間氏)、牛出城跡（伝：高梨一族）等の中世の居館址が発見されている。立ヶ花、草間（伝草間氏)、安源寺（伝：高梨氏山城)、茶臼峯砦跡等の城跡も清水山周辺にはみられる。墓址関係の遺跡では、上小山田経塚、吉田宮脇遺跡（珠洲骨臓器)、新井大ロフ遺跡（火葬墓６)、茶臼峯砦跡（火葬墓)、安源寺遺跡（火葬墓12、土壙墓１)、栗林遺跡（宝筐印塔、五輪塔）等がある。中世の寺関係の遺跡は、本誓寺、光海寺（五輪塔)、安源寺（宝筐印塔、五輪塔)、大徳寺（礎石）等がみられる。珠洲系陶器が出土する遺跡としては岩船居館址（甕)、吉田宮脇（骨臓器)、棚畑遺跡（摺り鉢）などがある。

4　調査区（第３図）

清水山遺跡は今回の市の調査区を北斜面について第１地点、南斜面について第２地点とし、調査した。第１地点は前年度長野県埋蔵文化財センターが調査した奈良時代古窯址群の隣接地にあたるため、Ｙ軸とＸ軸を同一方向軸の２ｍ方形にグリットを設定した。第２地点に関しては、斜面に合わせて２ｍ方形にグリットを設定した。

第２節　縄文時代

1　遺構（第４図・第５図）

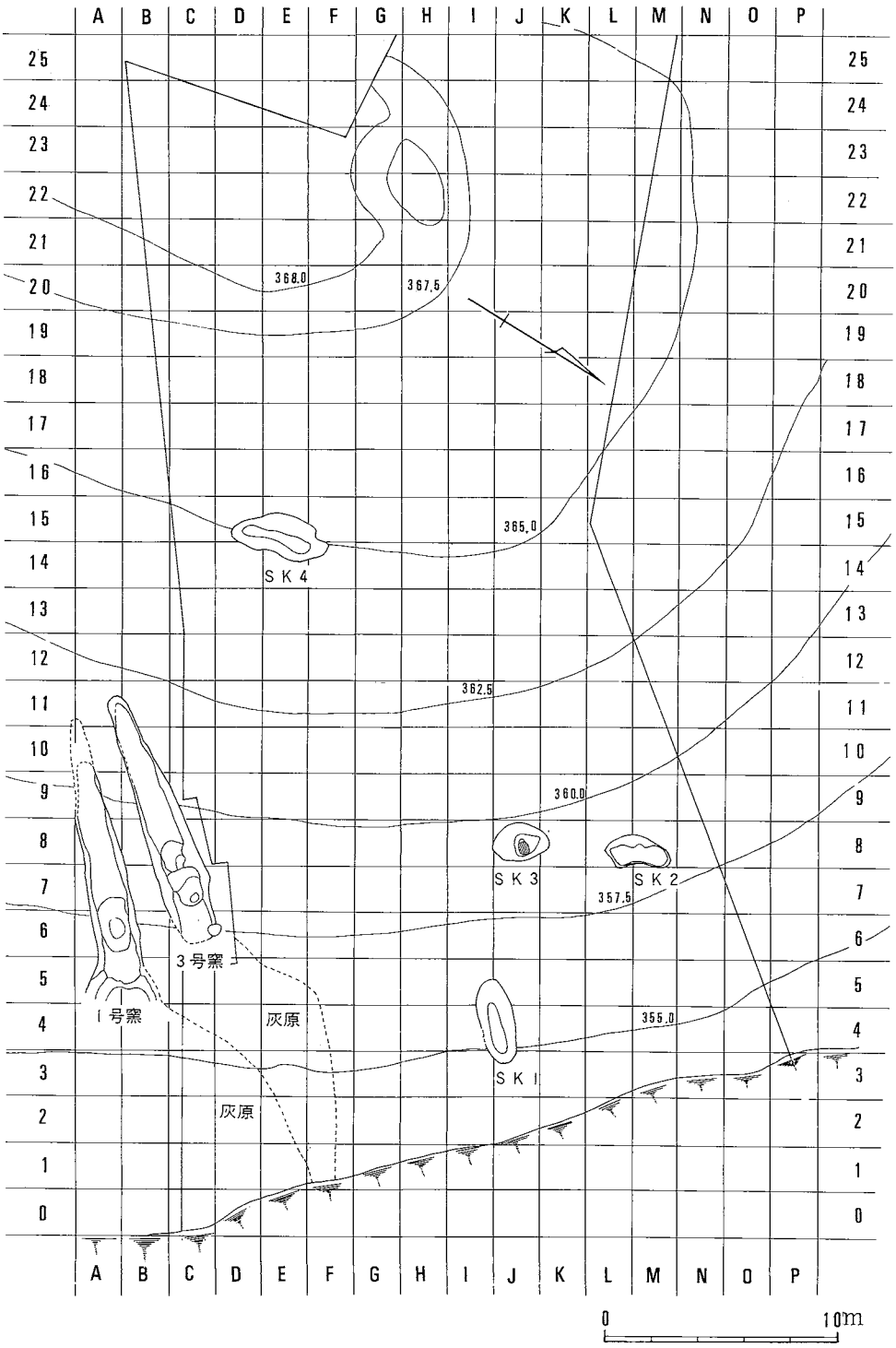
清水山遺跡において、４ヶ所の土壙を検出した。土壙記号はＳＫで表示した。

Ａ　ＳＫ１（第５図１）

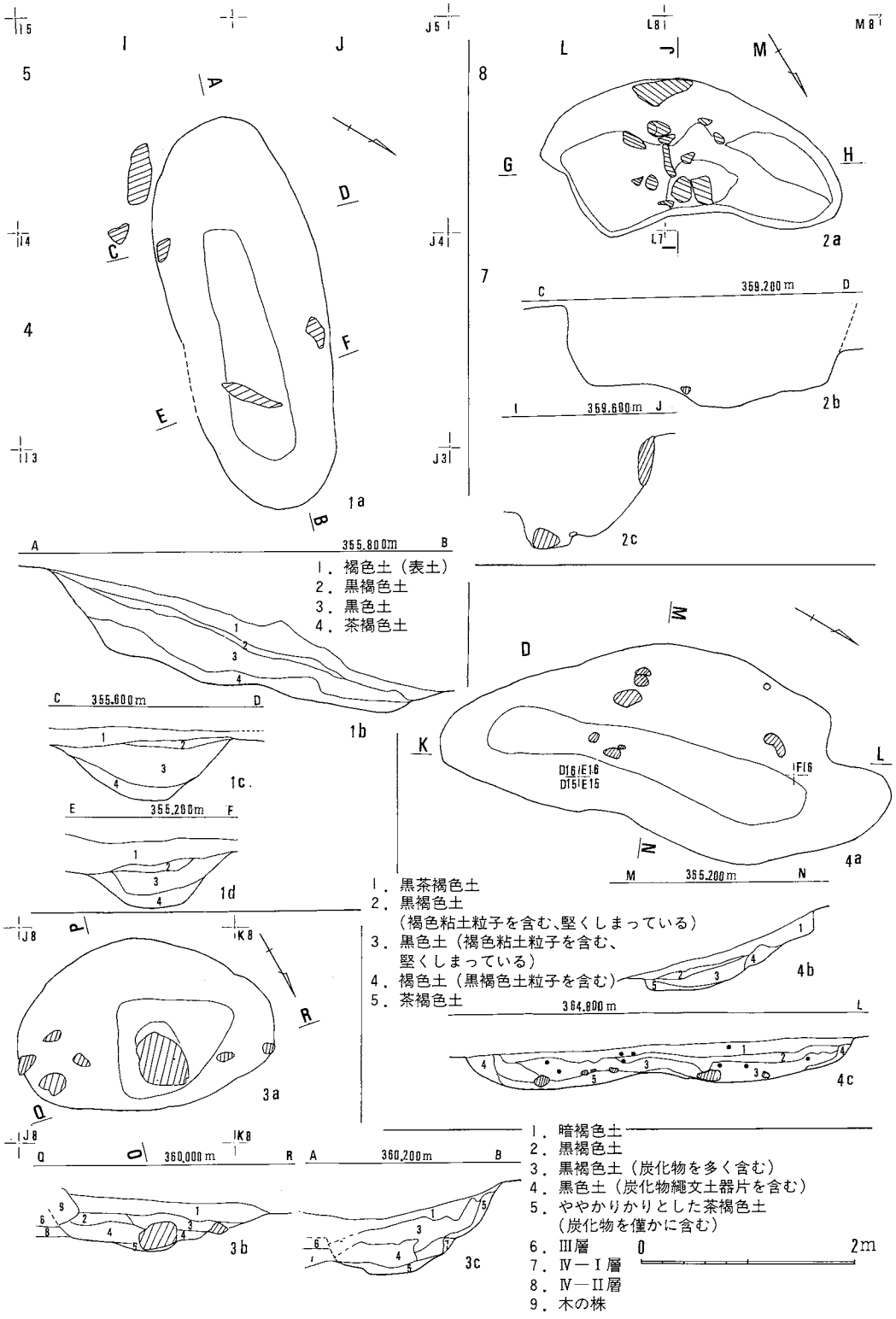
形状は細長い楕円形で、長軸1.35m、短軸0.75mで南北に長軸があたる。深さ0.7mであった。底面はやや凸凹していた。検出面は縄文時代層に当たるⅢ層（暗褐色土）中で、土壙中の遺物は検出されなかった。土壙の性格は不明である。

Ｂ　ＳＫ２（第５図２）

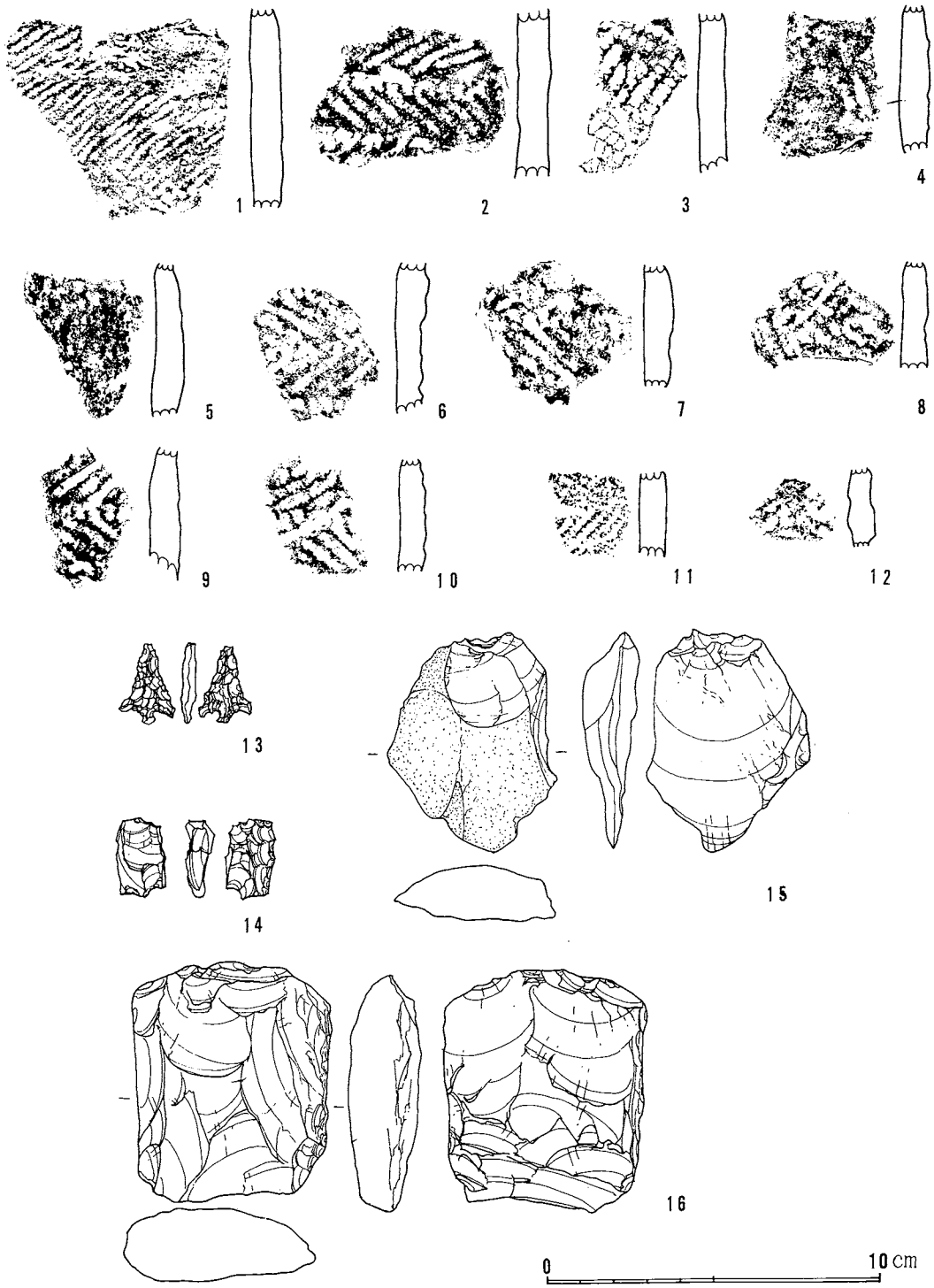
形状は不定形で、長軸0.65m、短軸1.4mで東西に長軸があたる。深さは0.5m、底面は凸凹しており、礫が底面に数点みられた。検出面はⅢ層である。遺物は検出されなかった。性格不明の土壙である。



第4図　清水山第1地点全体図



第５図　清水山第１地点遺構図（１）



第６図　清水山第１地点出土遺物（１）　S＝$\frac{1}{2}$

C　ＳＫ３（第５図３）

形状は不定形で底面が若干摺り鉢形を成し、長軸1.2m、短軸0.8mで東西に長軸があたる。深さは0.4m、底面に大きなボロボロになった焼け礫を配する。検出面はⅢ層であり、土壙上面と中下層面より小さなボロボロした縄文土器片を３片検出した。土壙中の覆土には炭化物粒子を多く検出した。底面や底面付近の壁面はやや赤化しており、短期間火を受けた様相を呈している。

D　ＳＫ４（第５図４）

形状は不定形で長軸2.8m、短軸0.8mの東西に長い土壙である。深さ0.4～0.2mと浅く、検出面はⅢ層である。土壙覆土上部より下部にかけて小さな土器片が８点出土した。覆土中より炭化材や炭化物が多く検出された。土壙底面や壁面はやや赤化し、カリカリとした状態であった。ＳＫ３同様、火を受けた様相を呈している。

ＳＫ１、ＳＫ２は遺構検出面が縄文時代期であったが、遺物の出土がなく、遺構の性格も不明である。

2　遺物（第６図）

A　土器（第６図１～12）

縄文時代の土器片は全点前期前葉のループ文・羽状縄文破片であった

第６図１～12はループ文・羽状縄文の土器片で、胎土に長石が多い。断面の芯は黒色の物が多く内外は赤褐色あるいは褐色である。土器片は非常に脆く文様も摩耗している物が多い。

B　石器（第６図13～16）

石器は石鏃１点、不定形石器１点、剥片１点、打製石器１点、のほかＳＫ４中よりチップが数点出土している。

a　石鏃（第６図13）

黒曜石製。長さ1.4cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm。舌部を有する返しのある石鏃である。出土地は、４Ｅグリット内奈良時代窯跡の灰原下面に混入していた。

b　不定形石器（第６図14）

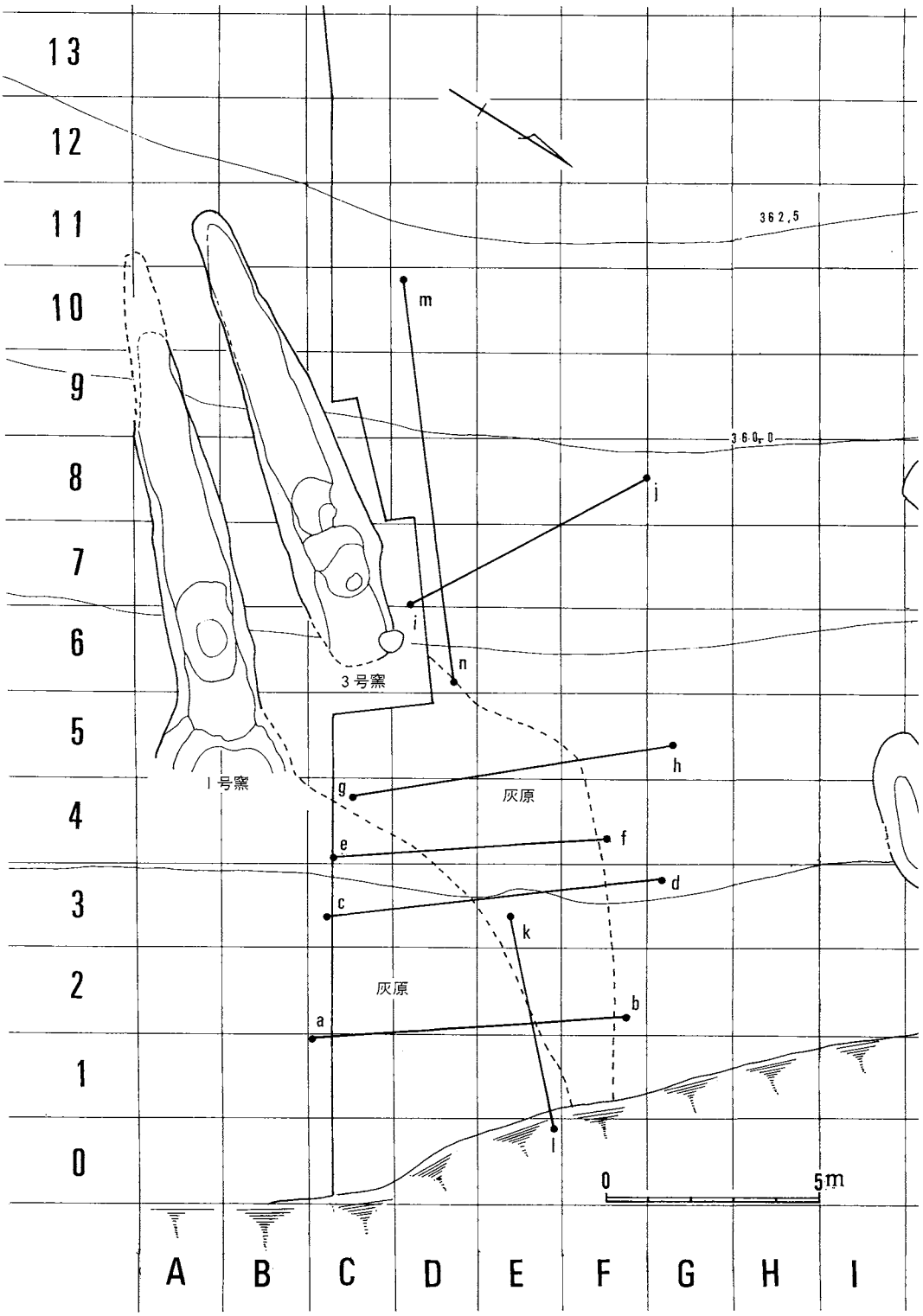
黒曜石製。長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.9cm。不定形の剥片の両側縁を折取り１側縁部に３回の剥離を加えている。出土地はＳＫ４の南西壁面付近の覆土中であり、ＳＫ４中のループ・羽状文縄文土器片と伴出している。

c　剥片（第６図15）

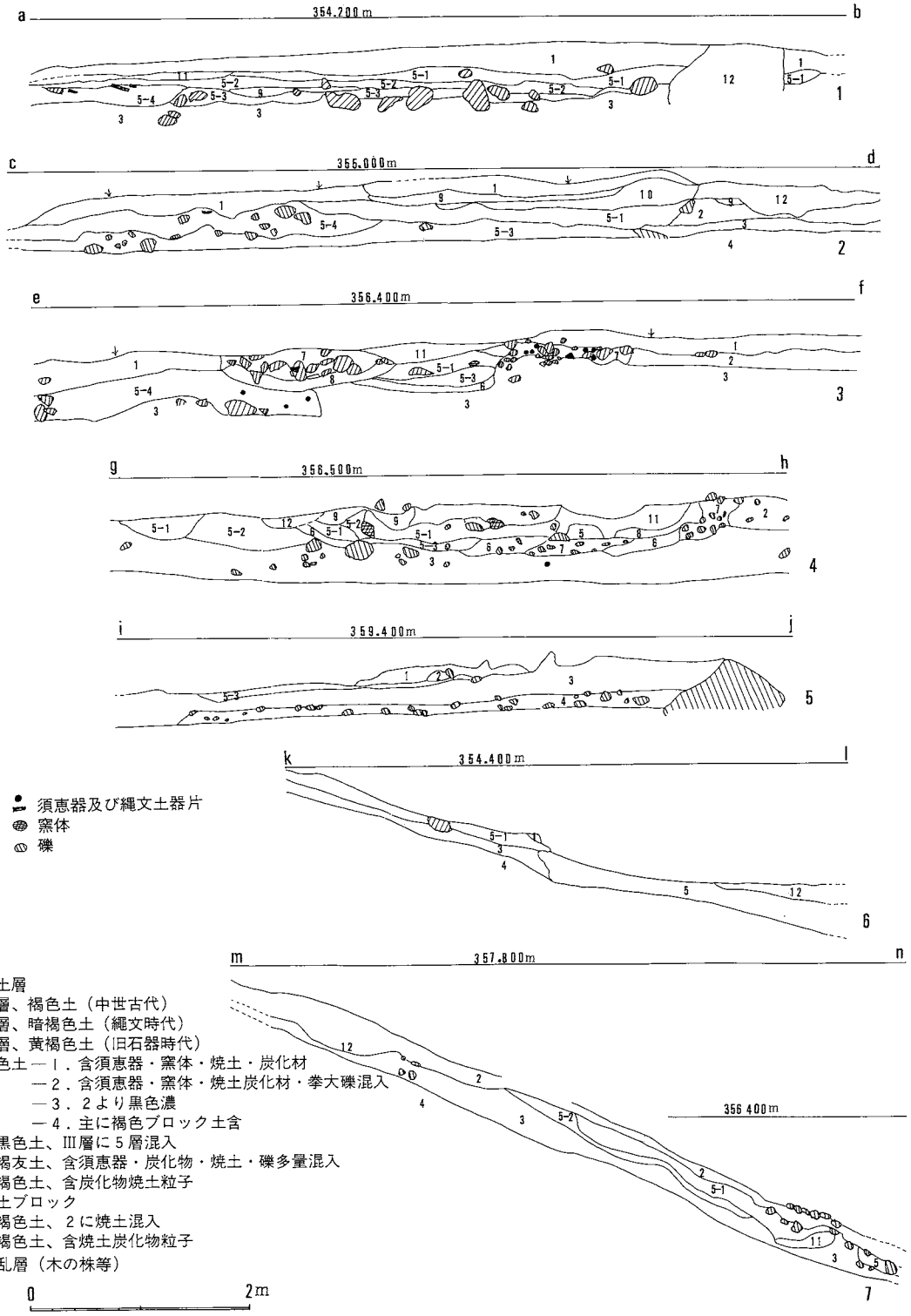
黒色の泥岩製。長さ6.5cm、幅5.2cm、厚さ0.7cm。正面に転石面を残す縦長の剥片である。打面部に正面より３回の剥離を加え打面を取り去っている。出土地は発掘区南西部の頂上部付近の表採品である。

d　打製石器（第６図16）

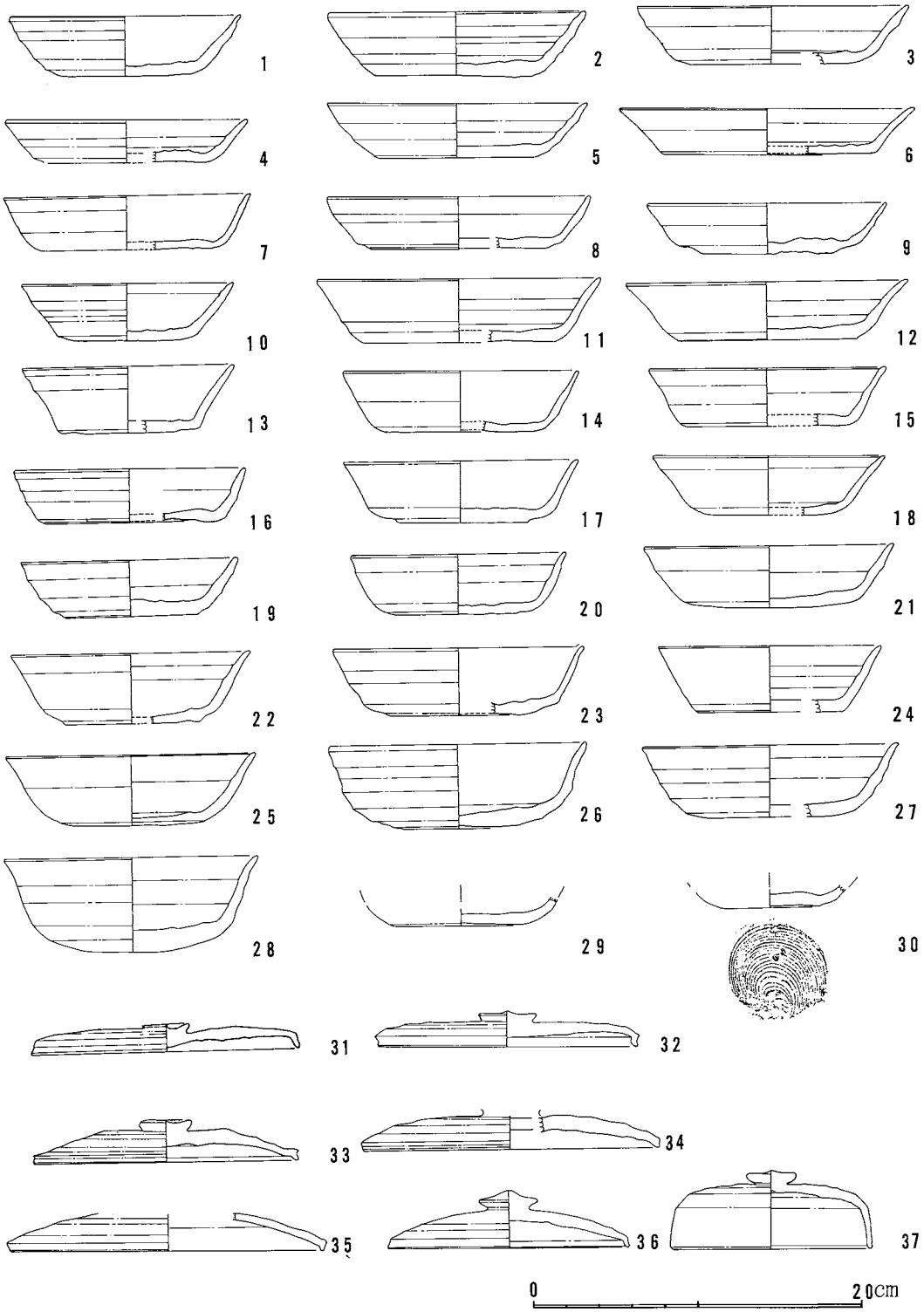
風化した泥岩製。長さ7.0cm、幅5.0cm、厚さ2.1cm。両面に剥離を加えた石器である。正面は



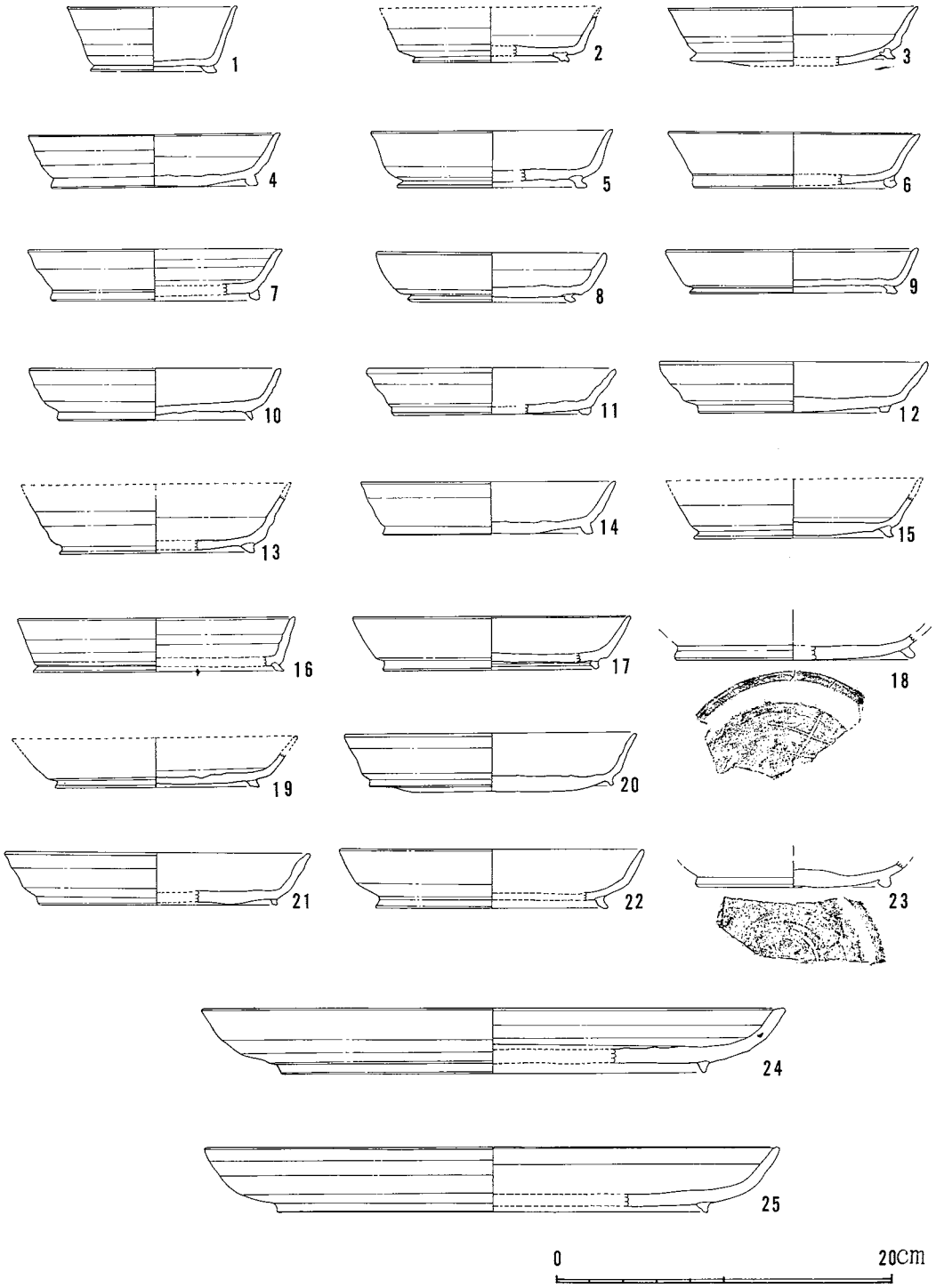
第7図　清水山灰原位置図　S＝$\frac{1}{60}$



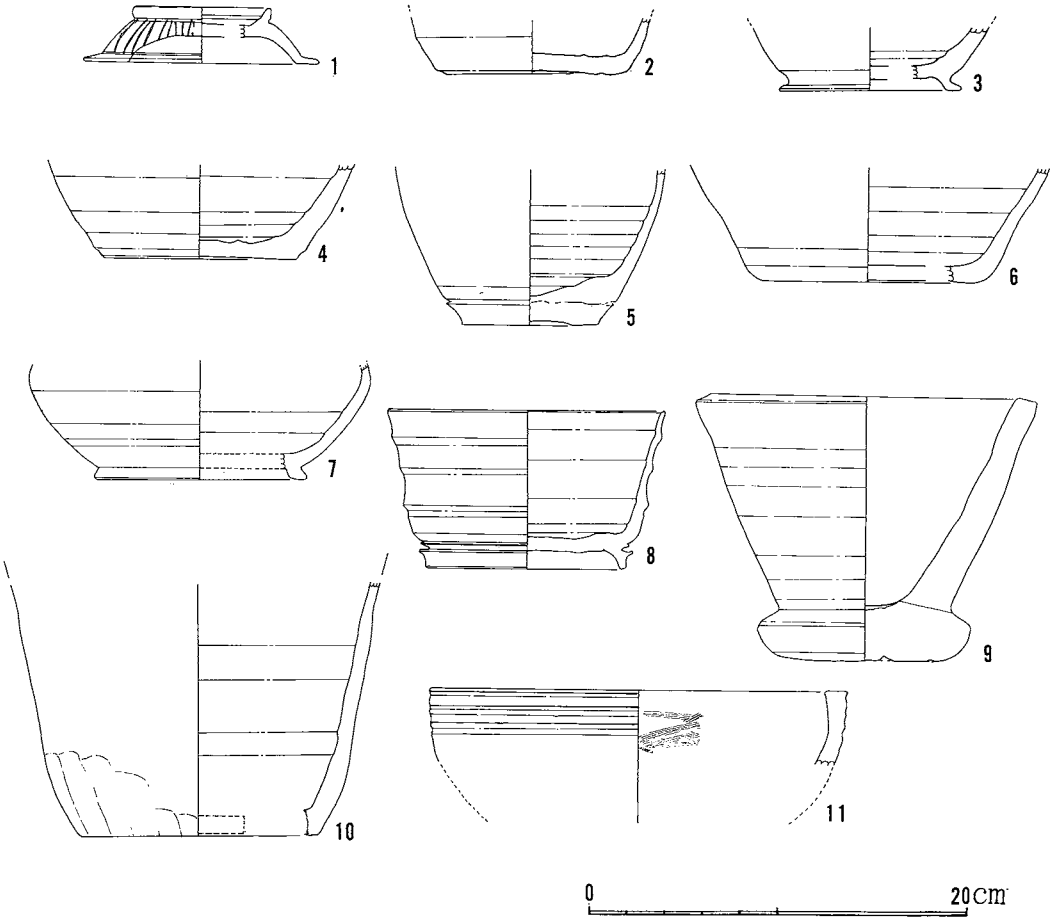
第8図　窯跡灰原土層図　S＝$\frac{1}{60}$



第９図　清水山第１地点出土遺物（２）　S＝$\frac{1}{4}$



第10図　清水山第１地点出土遺物（３）　S＝$\frac{1}{4}$



第11図　清水山第１地点出土遺物(４)　S＝$\frac{1}{4}$

縁片より大きな剝離を加え、裏面は上部より大きな剝離を２度加え、下部は折取られている。側縁には打製石斧のような調整剝離を加えている。出土地は奈良時代窯跡灰原中に混入して発見された。

第３節　奈良時代

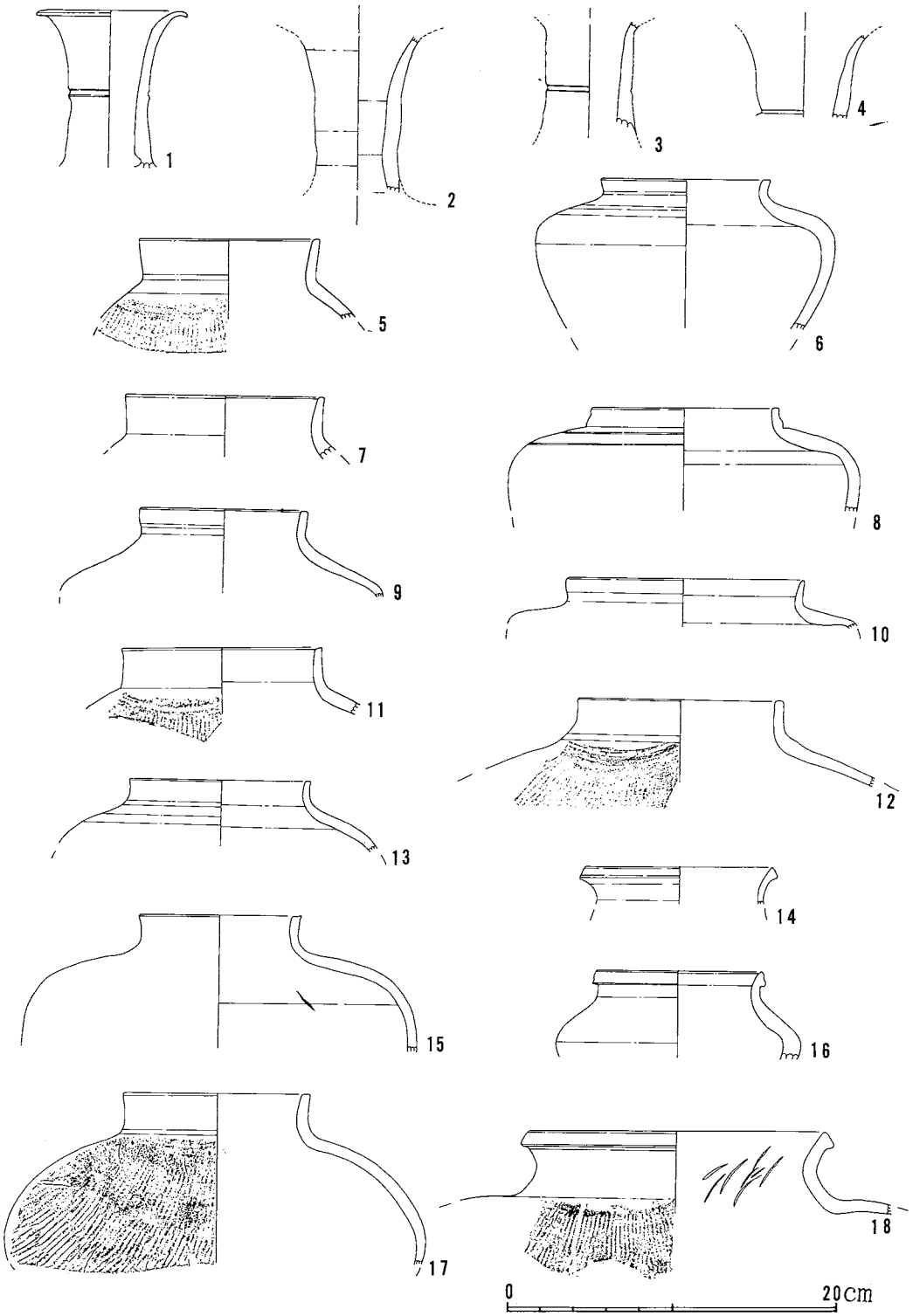
１　遺構（第７図・第８図）

今回の調査では、前年度長野県埋蔵文化財センターが調査した奈良時代の窯跡（1993　鶴田典昭他）の西側隣接地にあたり、第１号窯と第３号窯の灰原部分を調査した。

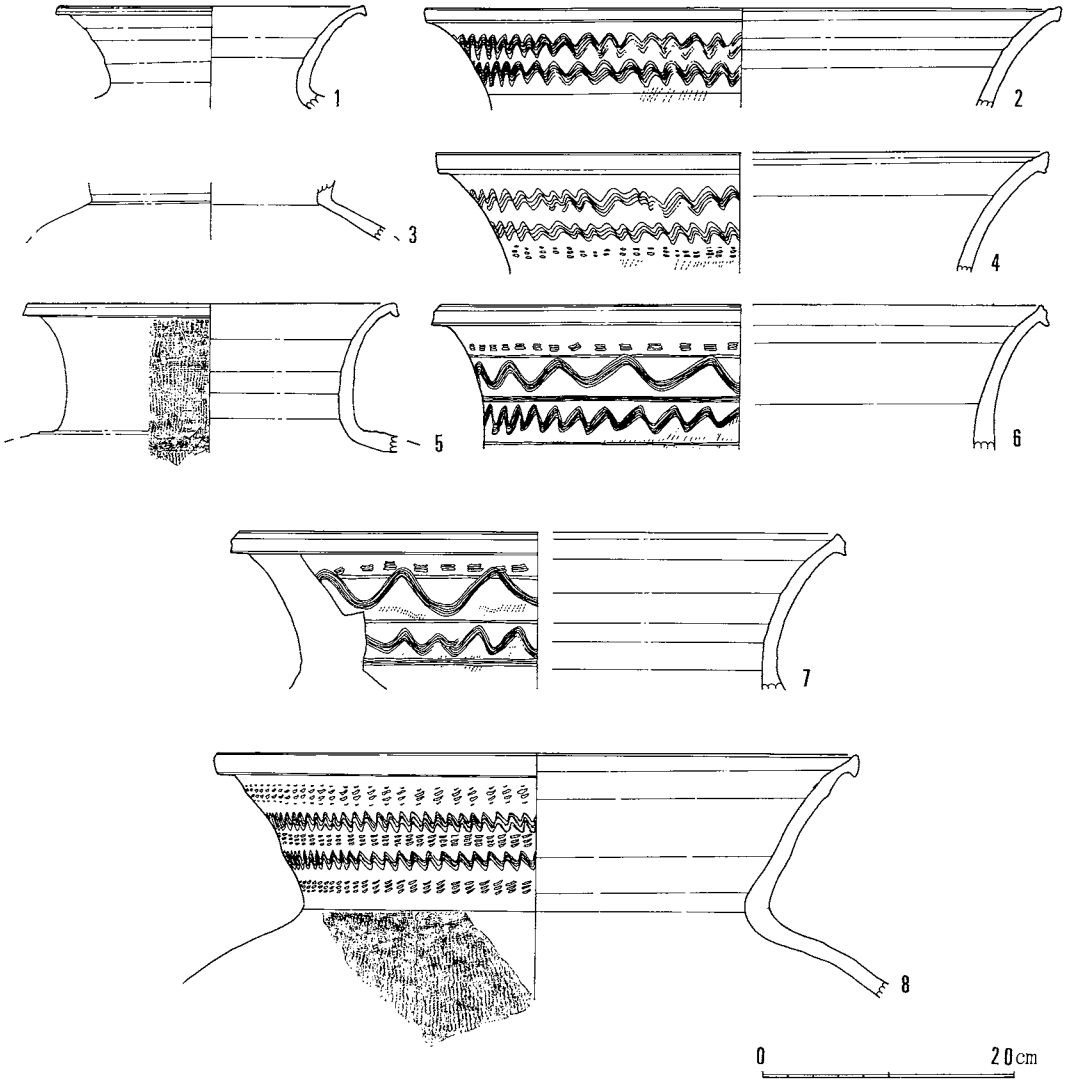
長野県埋文センターにおいて、清水山古窯址の調査本報告が出されていないため、第１号窯と第３号窯の概要を紹介しておく。

第１号窯

全長11.6m、最大幅２m。窯の構造は半地下式登り窯。特徴は「高井」「佐玖郡」の線刻文字



第12図　清水山第１地点出土遺物（５）　S＝$\frac{1}{4}$



第13図　清水山第１地点出土遺物（６）　S＝$\frac{1}{6}$

のある須恵器が出土した。

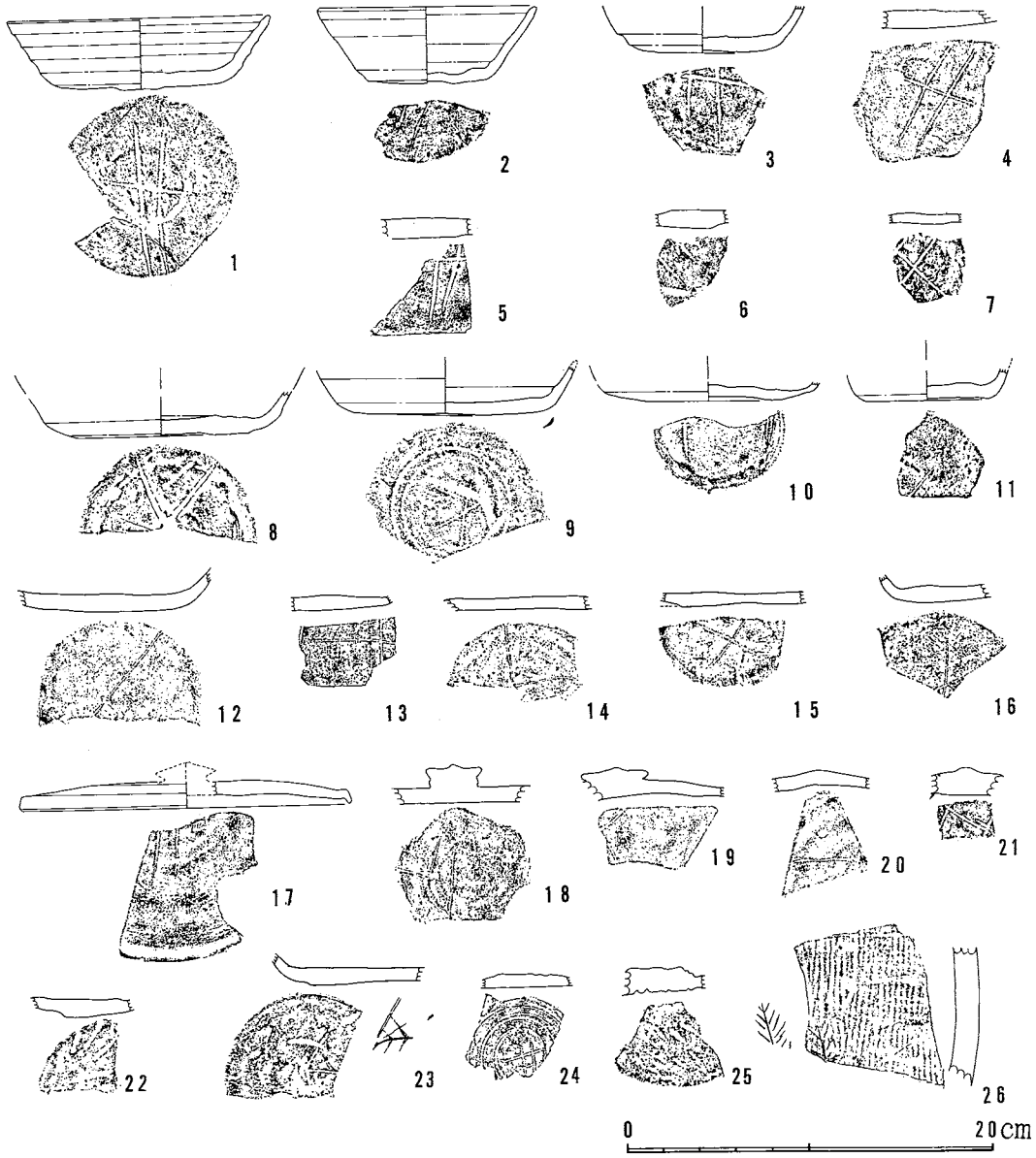
第３号窯

全長11.2m、最大幅2.1m。窯の構造は半地下式登り窯。

第１号窯と第３号窯の灰原部分に関して長野県埋文センターの清水山古窯址群の調査結果と共に分析を加えたいと思う。今回の調査結果は資料提示に止めるものとしたい。

2　遺物（第９図－第11図、第１表～第３表）

当調査区の遺物は、図化と遺物属性表の提示に止めたい。



第14図　清水山第１地点出土遺物（７）　S＝$\frac{1}{4}$

第４節　中世

清水山の南から南西方向斜面の第２地点より中世の五輪塔群を含む墓址群が発見された。

調査では、五輪塔が表土30cmを剝した（第II層）時点より発見され、植林された木の根に挟まれる状態でも検出された。

調査区東側は火薬庫のため山が削られており、火薬庫という特殊な施設のため火薬庫の周囲を整地した後防御壁を築くのにあたり盛り土がされていた。またこの火薬の運搬道路が東斜面より

図版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調　　整	特　　徴	備　　考
9- 1	84	C4	杯A	13.8	6.0	3.6	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 2	70	C4	杯A	15.6	9.0	4.0	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 3	125	D4	杯A	16.3	9.6	3.5	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 4	80	C2-E2	杯A	14.4	14.4	3.1	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 5	46	D4	杯A	15.7	9.6	3.4	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 6	33	C2--E2	杯A	17.9	12.9	2.7	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 7	73	C4	杯A	13.8	10.0	3.3	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 8	76	F4	杯A	15.8	10.8	3.2	底：ヘラ切り後ナデ		
9- 9	8	C3	杯A	14.3	7.8	3.1	底：ヘラ切り後ナデ		
9-10	124	G4	杯A	12.5	5.8	3.4	底：ヘラ切り後ナデ		
9-11	74	B4	杯A	16.8	11.2	3.9	底：ヘラ切り後ナデ		
9-12	55	表採	杯A	17.0	11.2	3.5	底：ヘラ切り後ナデ		
9-13	121	C4	杯A	12.7	5.5	4.0	底：ヘラ切り後ナデ		
9-14	18	D4	杯A	13.9	9.0	5.7	底：ヘラ切り後ナデ		
9-15	15	C3	杯A	14.1	9.6	3.5	底：ヘラ切り後ナデ		
9-16	121	C4	杯A	12.7	5.5	4.0	底：ヘラ切り未調整		
9-17	8	C3	杯A	14.3	7.8	3.1	底：ヘラ切り後ナデ		
9-18	10	C4—G4	杯A	13.8	5.8		底：ヘラ切り後ナデ		
9-19	122	E1	杯A	13.1	8.2	3.4	底：ヘラ切り後ナデ		
9-20	11	C3	杯A	12.9	6.4	3.6	底：ヘラ切り後ナデ		
9-21	53	D4	杯A	15.2	4.4	3.8	底：ヘラ切り後ナデ		
9-22	90	E5	杯A	14.5	8.2	4.2	底：ヘラ切り後ナデ		
9-23	16	C3	杯A	15.0	9.0	4.1	底：ヘラ切り後ナデ		
9-24	123	D4	杯A	13.4	8.8	4.0	底：ヘラ切り後ナデ		
9-25	20	D4	杯A	15.0	8.7	4.2	底：ヘラ切り後ナデ		
9-26	82	C4	杯A	15.4	6.4	5.1	底：ヘラ切り未調整		
9-27	126	E4	杯A	15.5	7.3	4.4	底：ヘラ切り後ナデ		
9-28	52	D4	杯A	15.3	4.2	5.7	底：ヘラ切り後ナデ		
9-29	9	D3	杯A		8.2		底：ヘラ切り後ナデ		
9-30	32	C5	杯A		6.1		回転糸切り未調整		
9-31	49	C4	杯蓋	16.2		2.1	体：一部回転ヘラケズリ		
9-32	50	C4	杯蓋	15.9		2.2	体：一部回転ヘラケズリ		
9-33	92	C3	杯蓋	16.0		2.5	体：一部回転ヘラケズリ		
9-34	89	D4	杯蓋	18.0			体：一部回転ヘラケズリ		
9-35	87	D4	杯蓋	18.8			体：一部回転ヘラケズリ		
9-36	51	D5	杯蓋	14.6		3.5	体：一部回転ヘラケズリ		
9-37	57	C4	壺蓋	11.7		4.7	体：一部回転ヘラケズリ		
10- 1	23	C2	杯B	10.1	7.4	3.9	底：回転ヘラケズリ		
10- 2	26	D4	杯B	12.7	9.3		底：回転ヘラケズリ		
10- 3	29	C4	杯B	14.7	11.5	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10- 4	19	E5	杯B	14.8	11.8	3.2	底：回転ヘラケズリ		
10- 5	24	C4	杯B	14.3	11.2	3.4	底：回転ヘラケズリ		
10- 6	5	E4	杯B	14.6	11.6	3.3	底：回転ヘラケズリ		
10- 7	6	E5	杯B	14.8	12.2	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10- 8	72	E4	杯B	13.4	9.2	3.0	底：回転ヘラケズリ		
10- 9	22	C3	杯B	15.1	12.4	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10-10	4	C4	杯B	14.8	11.3	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10-11	1	D4	杯B	14.6	11.5	2.8	底：回転ヘラケズリ		
10-12	2	D4-E4	杯B	15.4	10.7	3.0	底：回転ヘラケズリ		
10-13	31	E5	杯B	15.2	11.6		底：回転ヘラケズリ		
10-14	19	C3,C2	杯B	14.8	11.8	3.2	底：回転ヘラケズリ		
10-15	34	D4	杯B	15.0	11.8		底：回転ヘラケズリ		
10-16	40	D4	杯B	16.6	14.8	3.2	底：回転ヘラケズリ		

第１表　須恵器属性（１）（坏Aは無台坏、坏Bは高台付坏）

図版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調　　整	特　　徴	備　　考
10-17	44	C3	杯B	15.8	12.7	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10-18	12	D4	杯B		14.2		底：回転ヘラケズリ	底部外面ヘラ描き記号	
10-19	35	C4	杯B	15.4	12.1		底：回転ヘラケズリ		
10-20	13	C3	杯B	17.2	14.5	3.4	底：回転ヘラケズリ		
10-21	3	C3,E3	杯B	17.7	14.1	3.1	底：回転ヘラケズリ		
10-22	37	C4	杯B	18.1	13.8	3.5	底：回転ヘラケズリ		
10-23	43	C0	杯B		11.2		底：回転ヘラケズリ	底部外面ヘラ描き記号	
10-24	42	D4	盤	34.8	25.2	3.8	底：回転ヘラケズリ		
10-25	45	C4	盤	34.3	25.7	3.9	底：回転ヘラケズリ		
11- 1	36	C4-D4	硯	7.0	12.4	3.0	全体をナデ調整		
11- 2	117	D3	瓶底部		9.0		底：ヘラケズリ		
11- 3	120	E2	壺底部		9.5				
11- 4	59	D0	瓶底部		10.2		底：回転ヘラケズリ		
11- 5	67	C2	瓶底部		7.2		底：回転ヘラケズリ		
11- 6	69	C1-G1	瓶底部		12.0		底：回転ヘラケズリ		
11- 7	48	C3	壺底部		11.0				
11- 8	21	C1	椀	14.7	10.4	8.4	底部ナデ調整	金属器模倣	通称沙波理椀
11- 9	25	C3	鉢	16.0	7.0	14.0	内：ザラザラ	底：小凹部数ケ所あり	通称摺り鉢
11-10	71	C2,C3-E3	甑		11.4	13.3	体：下ヘラケズリ 底：ヘラケズリ		孔4ヵ所
11-11	38	C1-G1	鉢	19.6			口縁下内面ハケ調整		
12- 1	27	D0	長頸壺	8.0				頸部沈線1条あり	
12- 2	28	D0	長頸壺						
12- 3	30	C0	長頸壺					頸部沈線1条あり	
12- 4	39	E4	長頸壺					頸部沈線1条あり	
12- 5	75	C0	短頸甕	10.9			体：タタキ		
12- 6	61	C25	短頸壺	9.7					
12- 7	77	C0	短頸壺	12.0					
12- 8	63	C3,E4,D4	短頸壺	11.3					
12- 9	78	C5-D5	短頸壺	10.2					
12-10	64	C1-E1	短頸壺	14.2					
12-11	79	D0	短頸甕	12.1			体：タタキ		
12-12	58	D2	短頸甕	12.6			体：タタキ		
12-13	66	C0	短頸壺	10.9					
12-14	65		短頸壺	11.3					
12-15	62	D3,C4	短頸壺	9.8					
12-16	85	E4	短頸壺	9.9					
12-17	54	D1	短頸甕	20.0			体：タタキ		
12-18	56	C2	短頸甕	20.0			体：タタキ		
13- 1	83	C1	甕	24.0			頸部タタキ後スリケシ		
13- 2	102	D4-D5	甕	50.0			頸部タタキ後スリケシ	頸部櫛描き波状文	
13- 3	81		甕				頸部タタキ後スリケシ		
13- 4	103	D4-E4,C2	甕	46.6			頸部タタキ後スリケシ	頸部櫛描き波状文	
13- 5	60	D0	甕	47.2			頸部タタキ後スリケシ		
13- 6	105	C4,C5,D4	甕	47.0			頸部タタキ後スリケシ	頸部櫛描き波状文	
13- 7	104	C5,C3	甕	47.2			頸部タタキ後スリケシ	頸部櫛描き波状文	
13- 8	119	C4	甕	50.2			頸部タタキ後スリケシ	頸部櫛描き波状文	
14- 1	99	D4	杯A	14.3	9.2	3.9		底部ヘラ描き記号	
14- 2	91	C2	杯A	11.8	3.0	4.2		底部ヘラ描き記号	
14- 3	97	E4	杯A		4.6			底部ヘラ描き記号	
14- 4	86	C5-D5	杯A					底部ヘラ描き記号	
14- 5	95	C4	杯A					底部ヘラ描き記号	
14- 6	100	D1	杯A					底部ヘラ描き記号	

第2表　須恵器属性(2)

図版番号	登録番号	グリット	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調　整	特　徴	備　考
14- 7	94	C3-E3	杯A					底部ヘラ描き記号	
14- 8	101	F5,D3	杯A		9.2			底部ヘラ描き記号	
14- 9	88	C2	杯A		6.0			底部ヘラ描き記号	
14-10	7	C4	杯A		6.8			底部ヘラ描き記号	
14-11	68	D4	杯A		6.6			底部ヘラ描き記号	
14-12	118	E4	杯A					底部ヘラ描き記号	
14-13	93	C3	杯A					底部ヘラ描き記号	
14-14	116	C2	杯A					底部ヘラ描き記号	
14-15	109	D3	杯A					底部ヘラ描き記号	
14-16	115	E4	杯A					底部ヘラ描き記号	
14-17	17	D3	杯蓋					天井部内面ヘラ描き記号	
14-18	108		杯蓋	18.0		2.0		天井部内面ヘラ描き記号	
14-19	107	C3	杯蓋					天井部内面ヘラ描き記号	
14-20	106	E4	杯蓋					天井部内面ヘラ描き記号	
14-21	96	E4	杯蓋					天井部内面ヘラ描き記号	
14-22	113	D3-E3	杯A					底部ヘラ描き文様	
14-23	114	C4	杯A					底部木葉痕	
14-24	98	D4	杯A?					底部ヘラ描き記号	
14-25	41	C1-G1	鉢					底部	通称摺り鉢
14-26	110	C4	甕				体：タタキ	胴部文様	

第３表　須恵器属性（３）

南斜面にかけて通っておりその箇所は削平されていた。

西側は葡萄畑にあたり今回の調査範囲からは外れている。境界部付近に葡萄畑が広がっているため、根を切ることができないため境界部より３ｍ以上内側の調査対象範囲となった。

１　遺構（付図、第４～８表）

第２地点は清水山の南斜面にあたる。集石や五輪塔が中腹上部より中腹下部にわたって集中していた。この斜面は植林されたり火薬庫関係施設のため上面が削平されていたり、中腹部より下部は斜面がやや急であり地滑りしている部分も多く、多くの礫や五輪塔は除去されてしまったものと思われる。

遺構は次のように分類される。（第４表〈特徴〉の項）

A　地輪のみがあるタイプ：第２区

B　地輪を配石が囲むタイプ：第１・３・４区

C　配石や集石で方形のマルンドを構築し地輪が伴うタイプ：第５・６～13・15～20・24～26区

D　方形あるいは円形の配石や集石でマウンドを構築しているタイプ：第21～23区

E　方形の配石があるタイプ：第14区

F　その他：第４・27区（第16図１・２）

各タイプの遺構の下部は次のように分類される。

ア　火葬骨ピットの伴うタイプ：第１・３～22、24～25区

イ　火葬骨土壙の伴うタイプ：第６・７・14・15・17・18・19・20・24・25区

ウ　火葬土壙の伴うタイプ：第３・４・５・10・13・17・18・19・23・24・25区

エ　下部施設のないタイプ：第２区

これらの下部施設はアとイ、アとウといったように２タイプ３タイプを持ち合わせるものもある。

2　遺物

中世墓址群に関係する施設に伴う珠洲系陶器（骨蔵器）、須恵器片、青磁片、古瀬戸片、カワラケ、板碑、古銭、釘、五輪塔が出土した。

A　珠洲系陶器（第26・27図、第９表）

a　壷A・B（第26図１・２・４）

小型の壷である。紐轆轤成形による「R種」（小壷類）である（1989　吉岡康暢）。

壷A（第26図１・４）は素文長胴壷（R種C類）、壷B（第26図２）は櫛目波状文長胴壷（R種B類）にあたる。壷Aの４は肩がやや上部に張っているため珠洲系陶器編年図によるIII期ぐらいに相当し、２・３は４より肩の張りがやや球形になっており、IIIからIV期に相当するものと思われる。

b　壷C（第27図）

中形の壷である。いわゆる紐叩打成形による「T種」である。２・３は綾杉状のタタキメで碇形である。２は押花文が頸部直下にみられ、１は馬蹄形の押印文がみられる。これら押印文は類似するものは珠洲系陶器にはみられるが、同類のものは見受けられない。

珠洲系陶器編年図によると２・３はIII期前後、１はIV期からV期ぐらいに相当するであろうか。

c　片口鉢（第26図３）

無文であり非常に焼きが粗雑である。巻き上げ部分がはげ落ちている。珠洲系陶器編年のIII期に相当すると思われる。

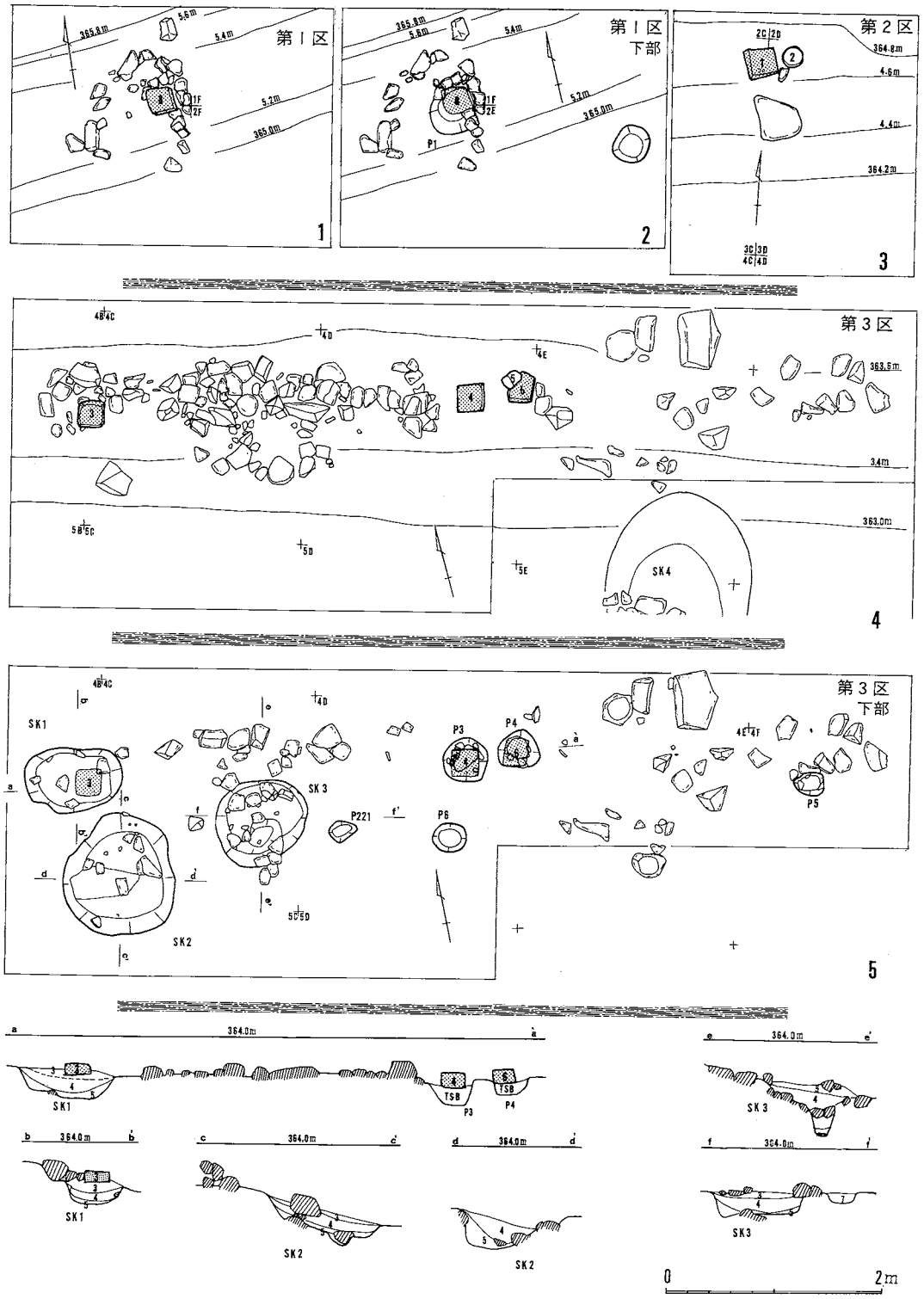
d　片口摺り鉢（第26図５）

卸目が細く、やや幅広い原体で施している。形態は体部が直線的に開く。珠洲系編年はIV期ぐらいに相当すると思われる。

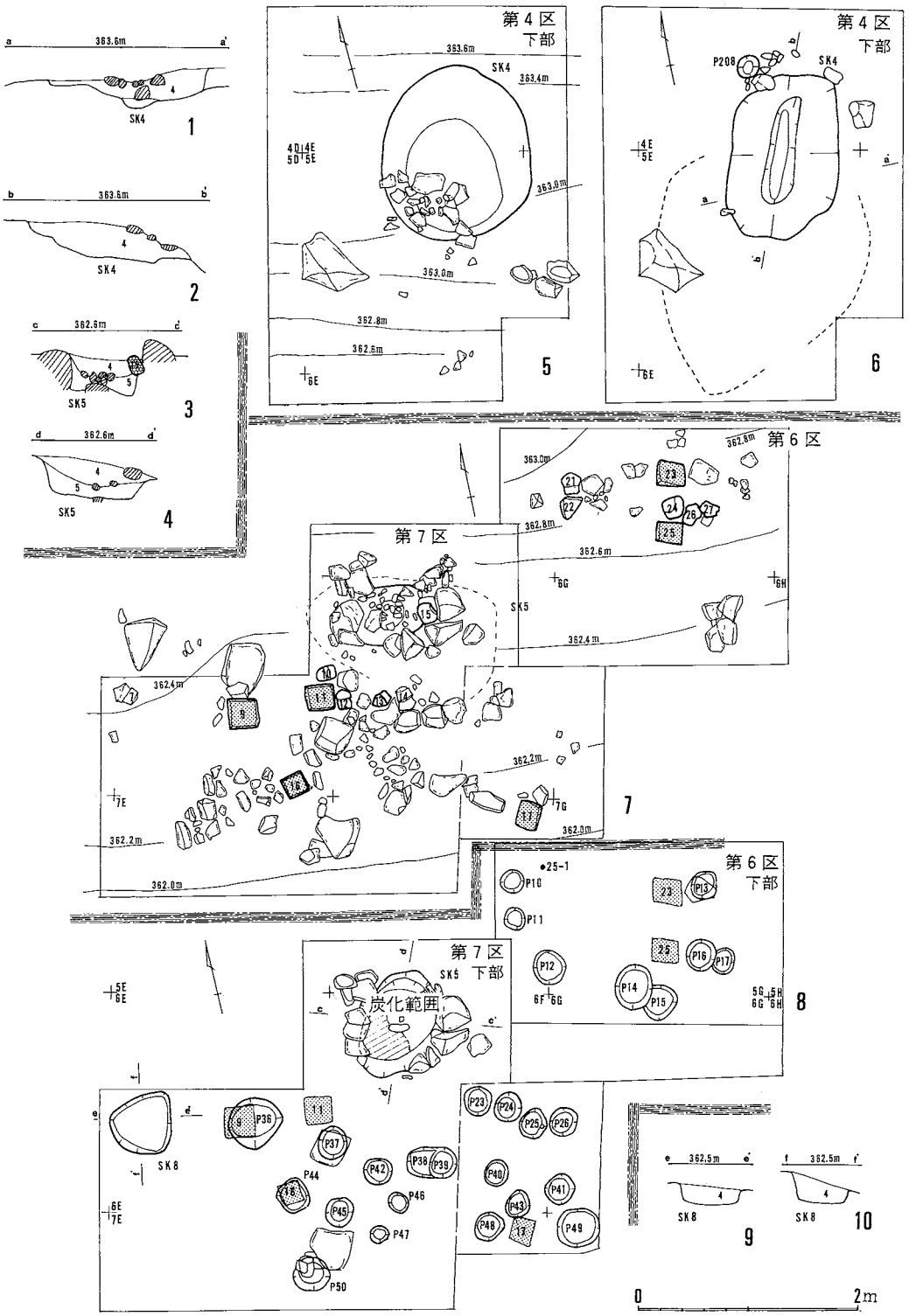
e　摺り鉢（第26図６・７）

６は口唇端部内側がやや円みを持つ。卸目は細くやや幅広の原体である。形態は直線的に開く。５と類似する時期のものと思われる。

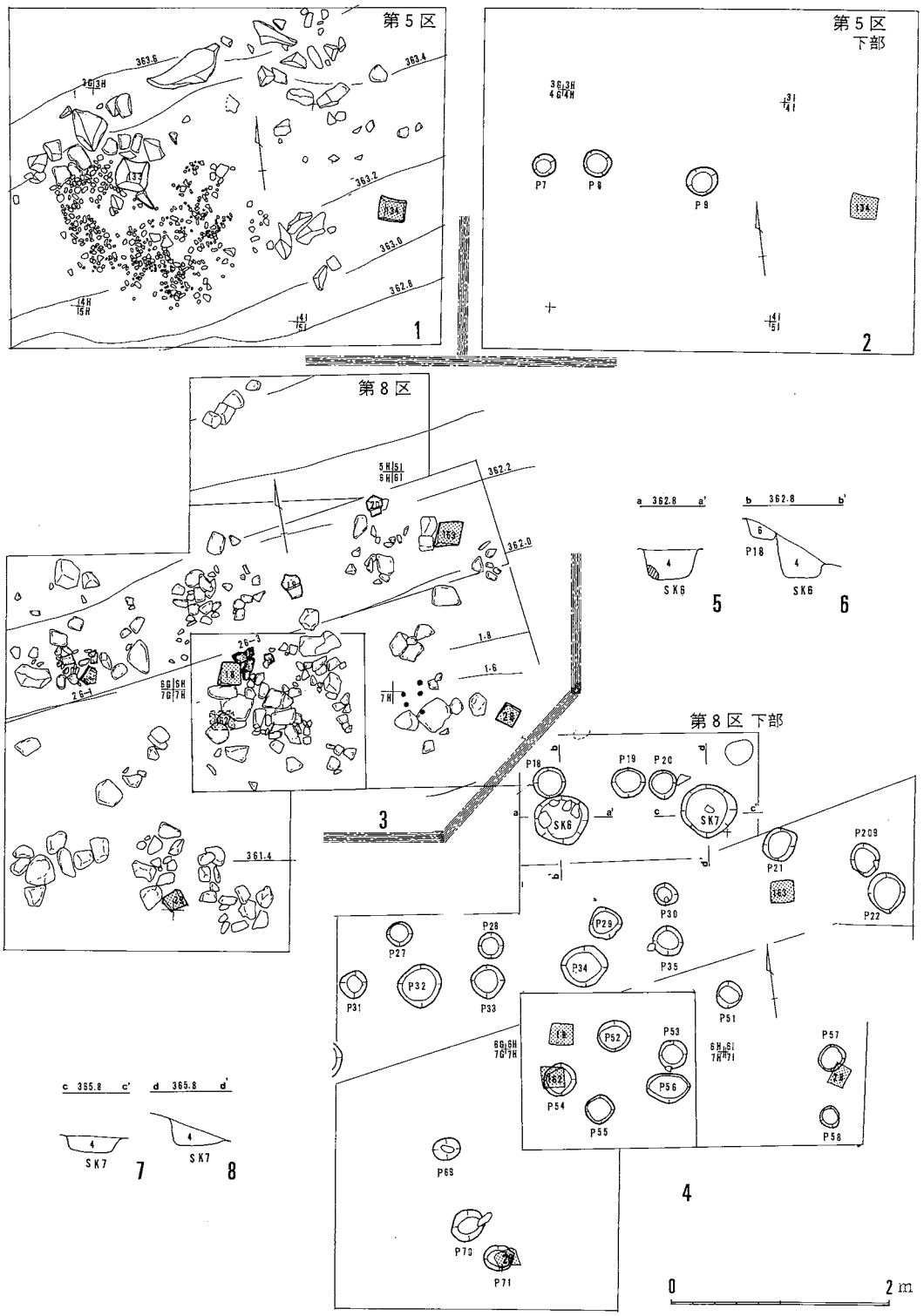
７は器体は直線的に開き、口唇内端部に広く面を取り櫛目波状帯を巡らせている。　珠洲系編年IV期に相当するものと思われる。



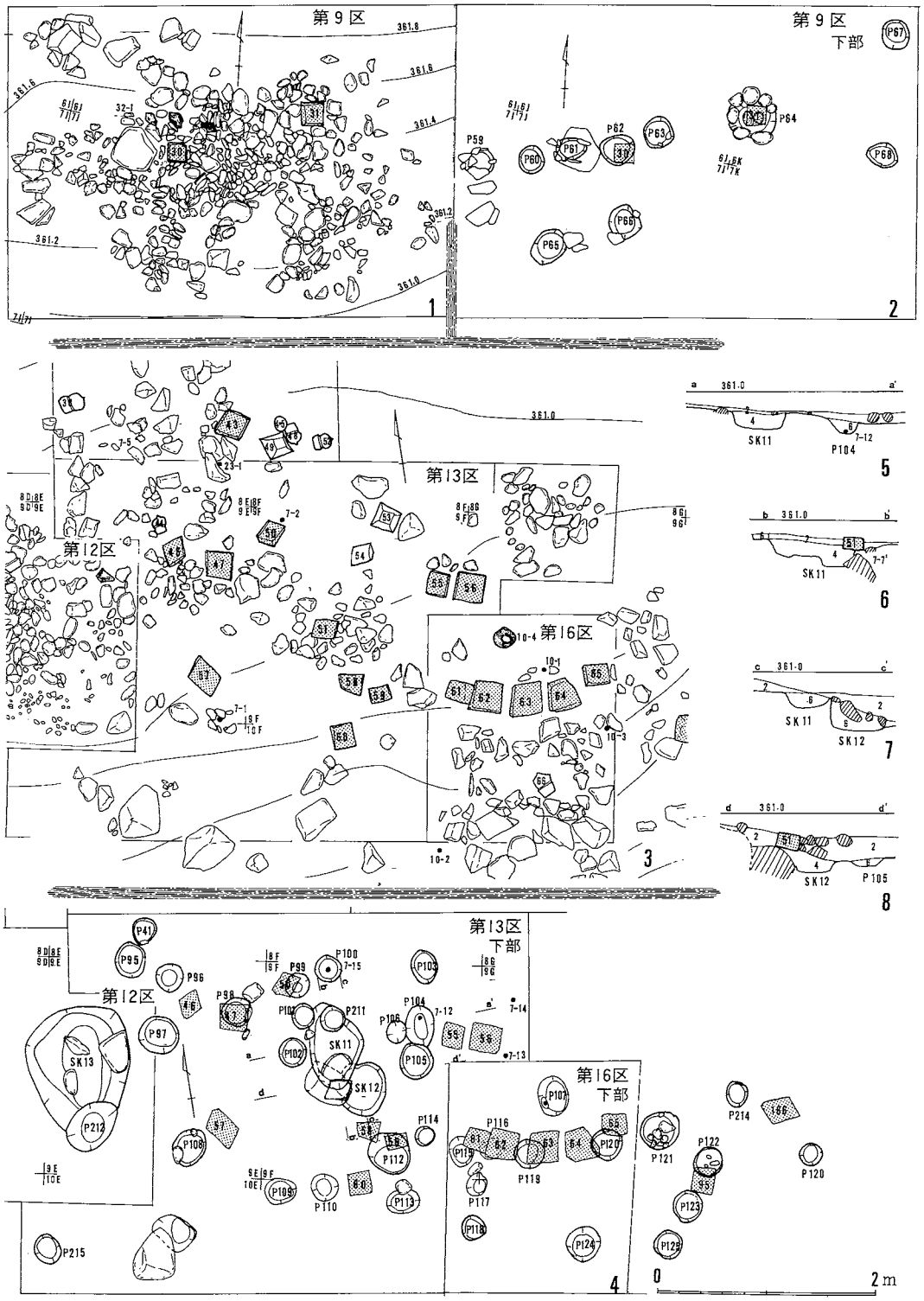
第15図　清水山第2地点遺構図(1)　S＝$\frac{1}{60}$



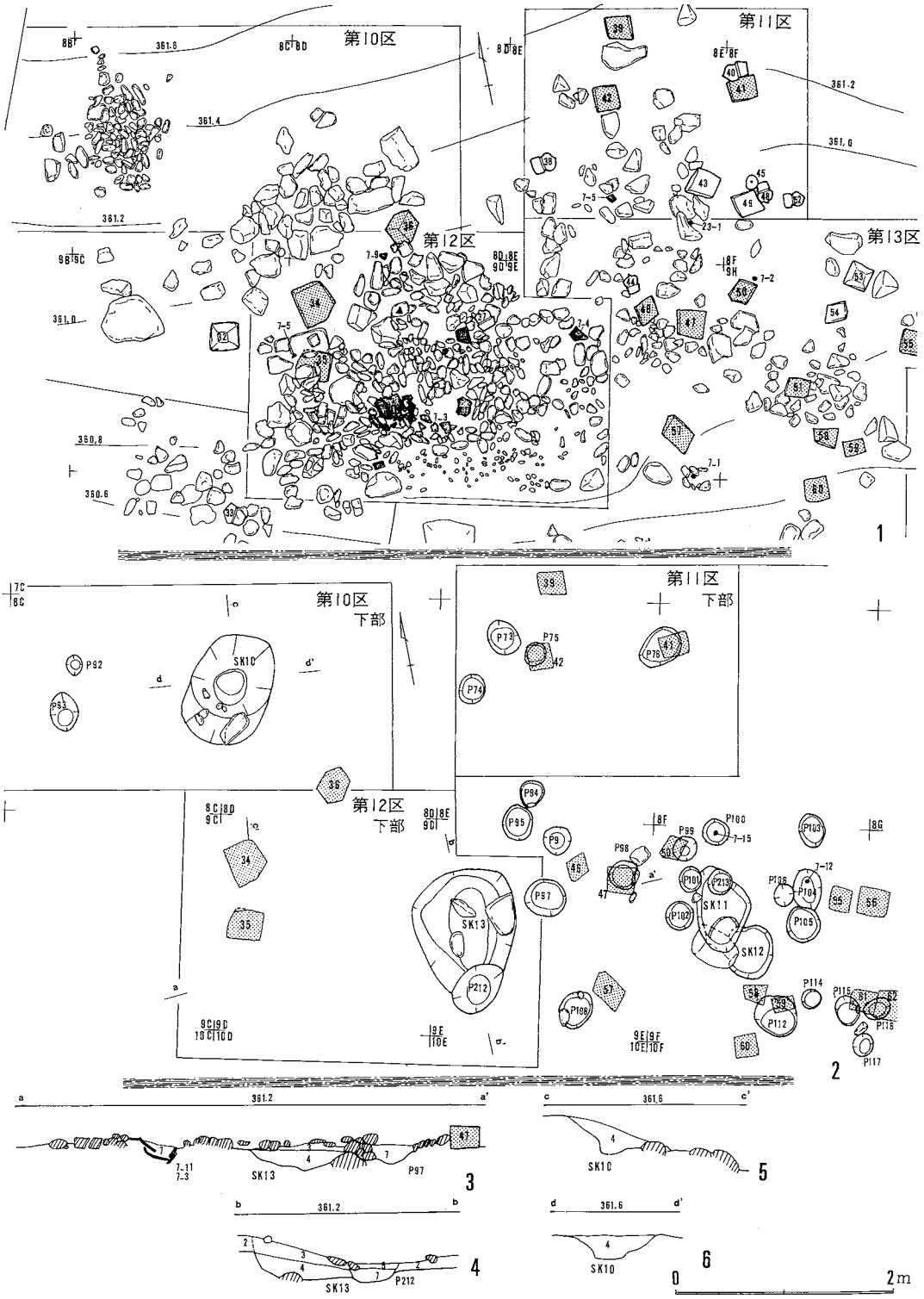
第16図　清水山第2地点遺構図(2)　S＝$\frac{1}{60}$



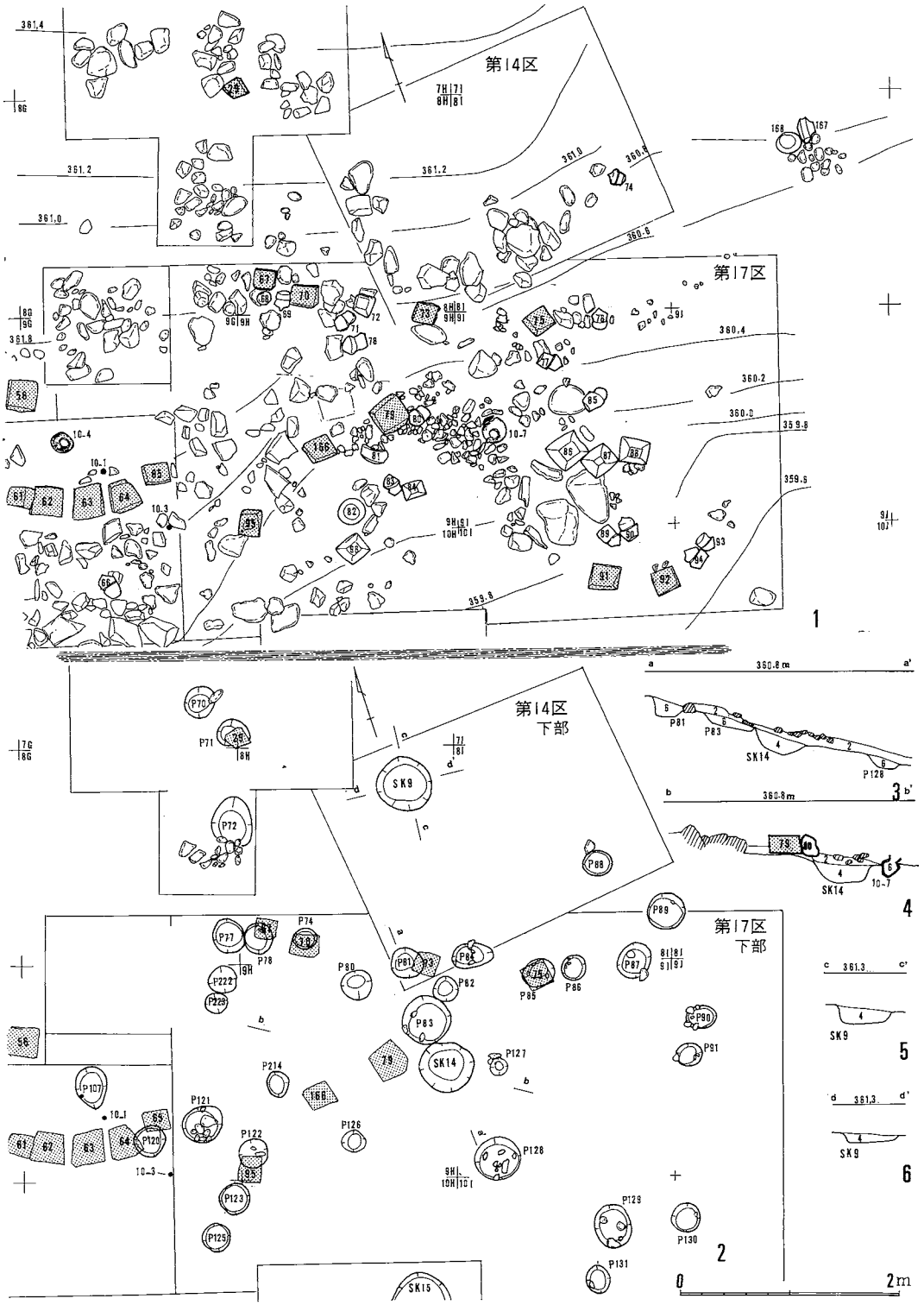
第17図　清水山第２地点遺構図（３）　S＝$\frac{1}{60}$



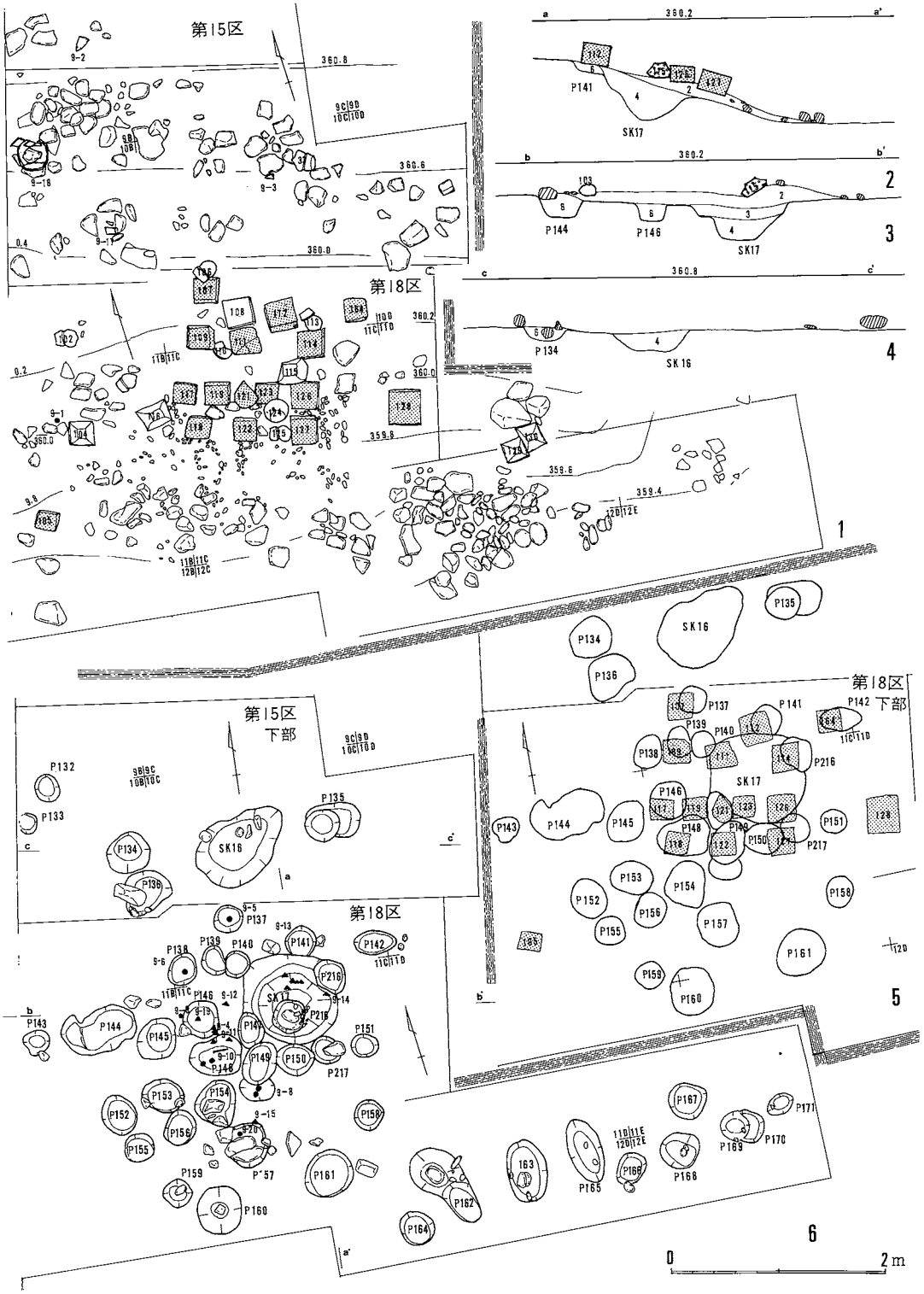
第18図　清水山第2地点遺構図(4)　S＝$\frac{1}{60}$



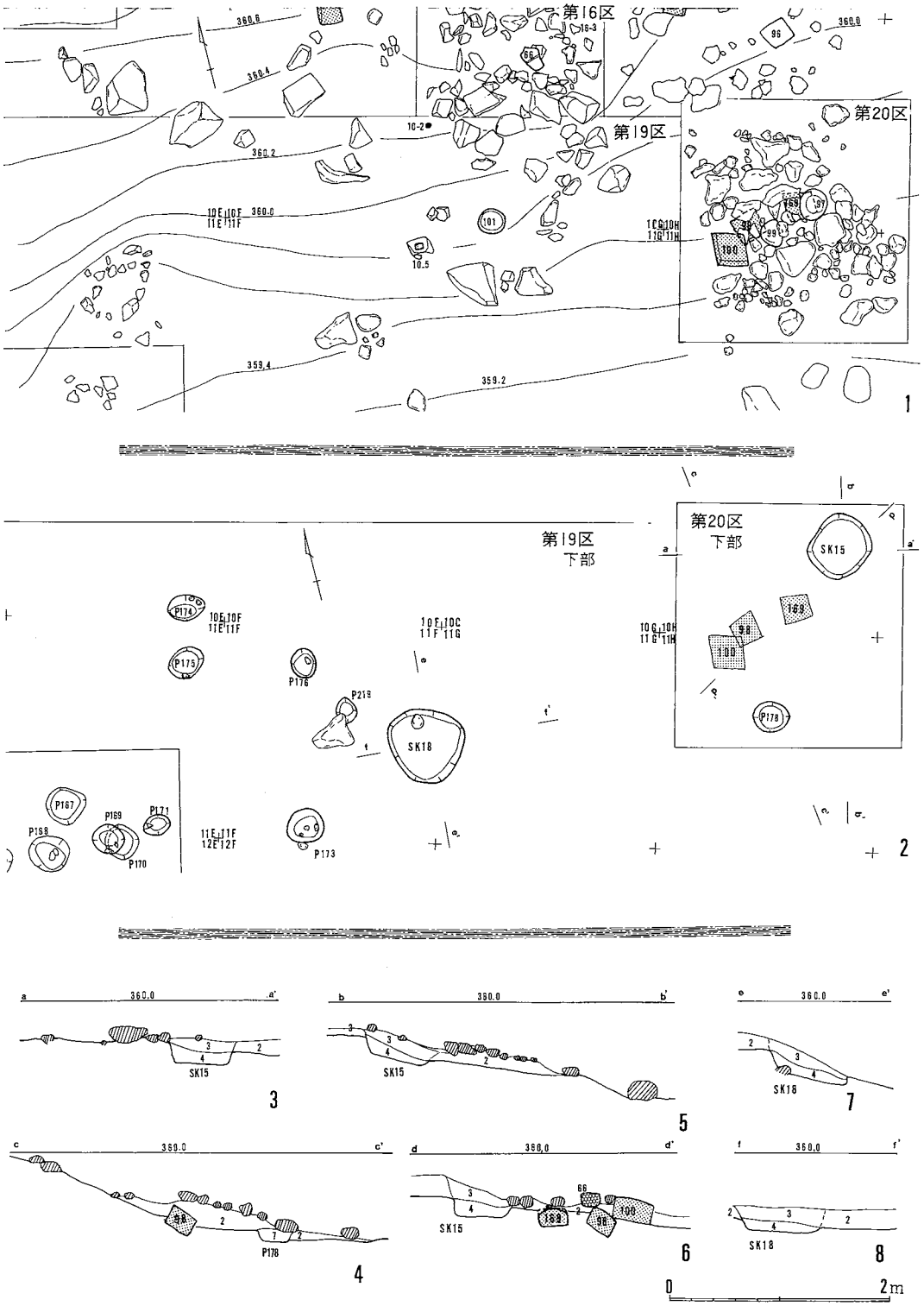
第19図　清水山第２地点遺構図（５）　S＝$\frac{1}{60}$



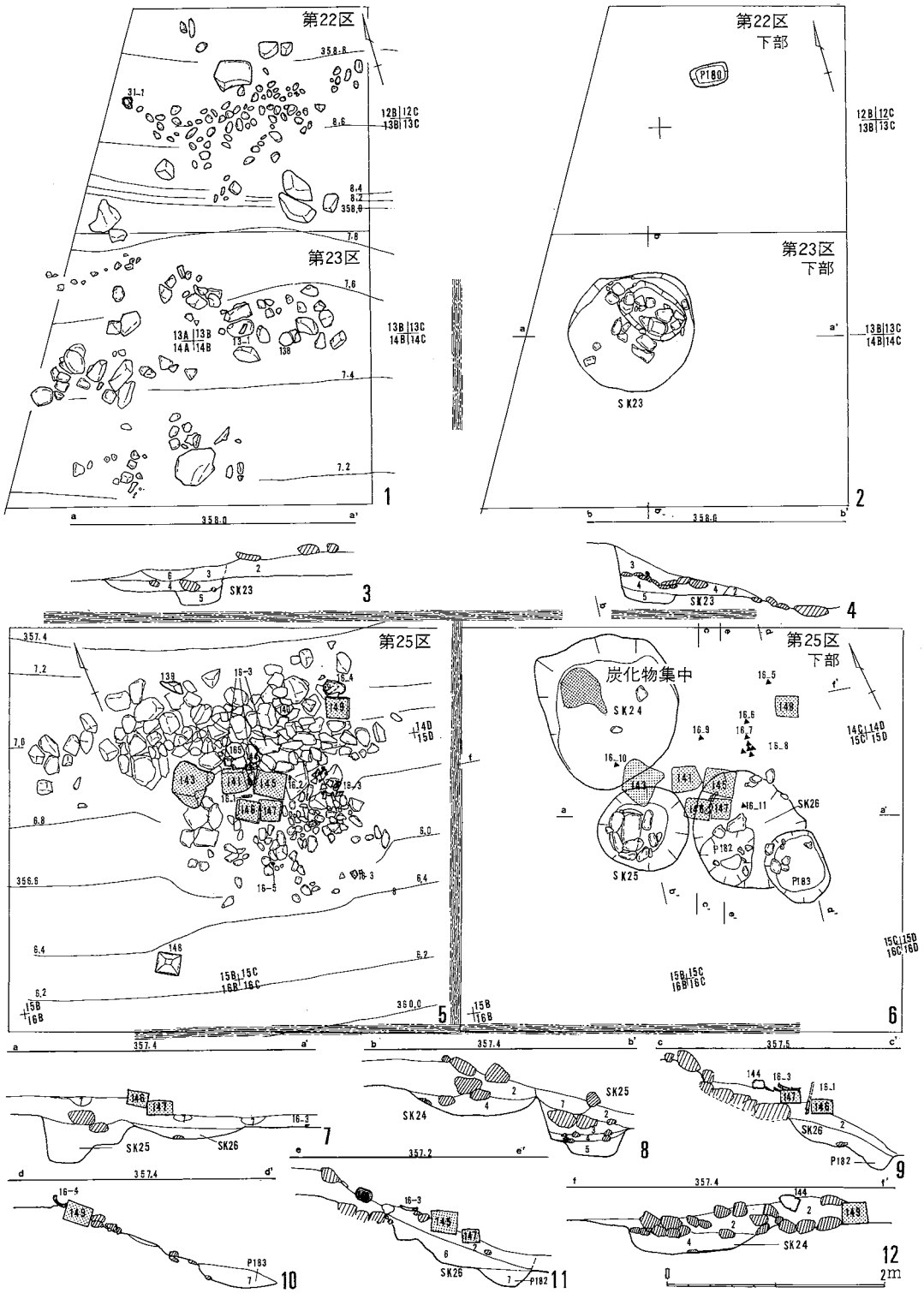
第20図　清水山第２地点遺構図（６）　S＝$\frac{1}{60}$



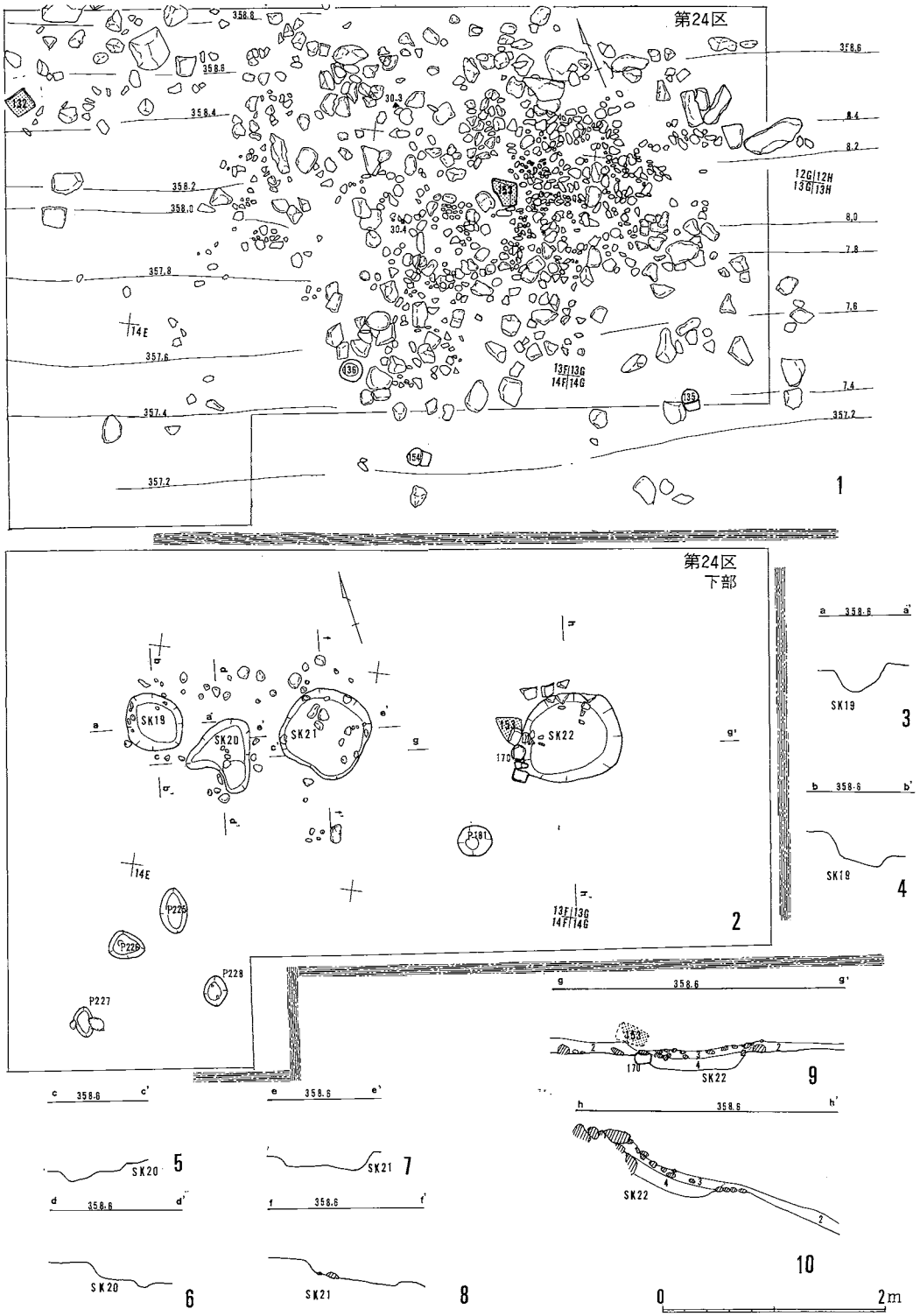
第21図　清水山第２地点遺構図（７）　S＝$\frac{1}{60}$



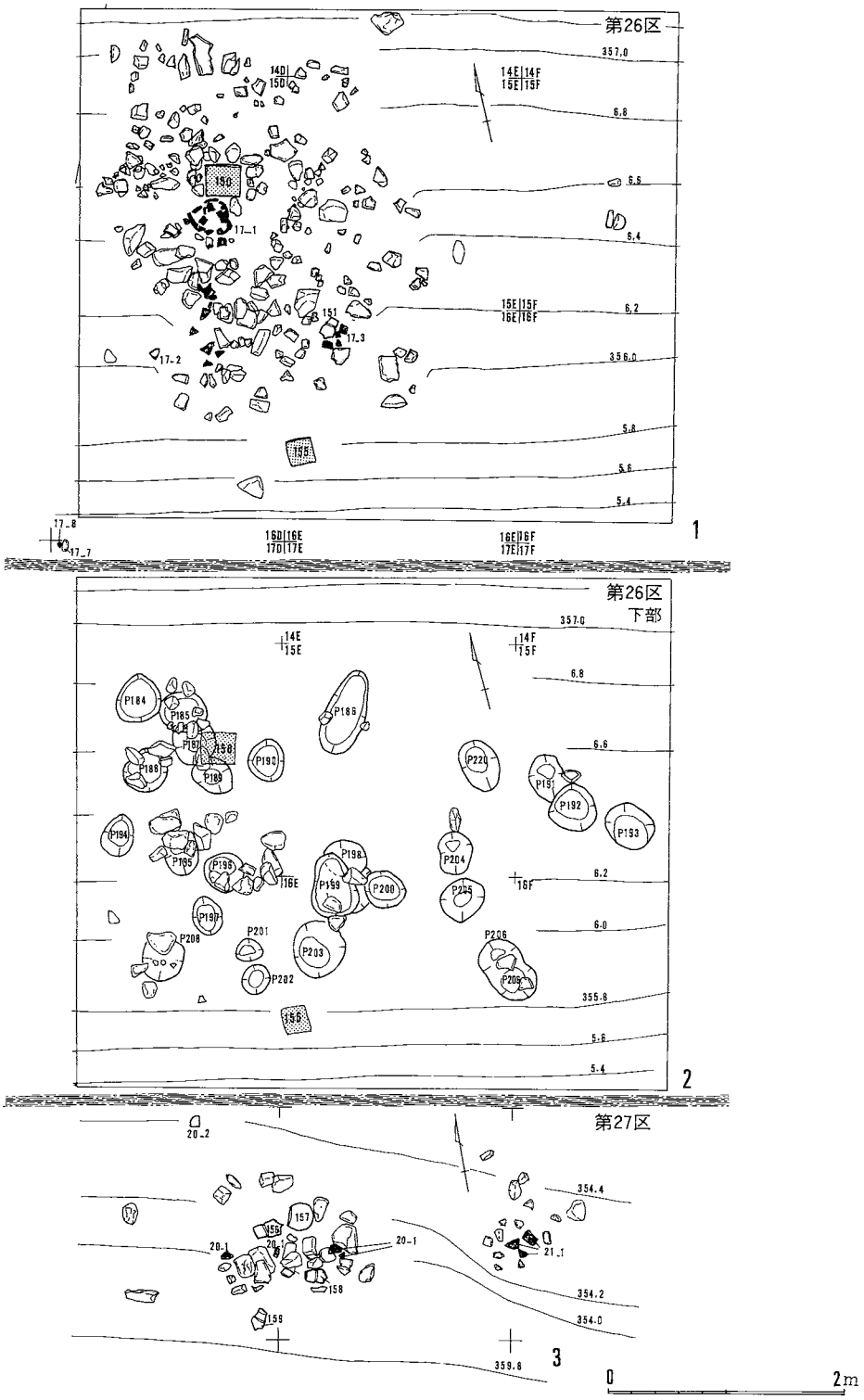
第22図　清水山第２地点遺構図（８）　S＝$\frac{1}{60}$



第23図　清水山第２地点遺構図（９）　S＝$\frac{1}{60}$



第24図　清水山第２地点遺構図(10)　S＝$\frac{1}{60}$



第25図　清水山第２地点遺構図(11)　S＝$\frac{1}{60}$

図　版	墓区域	特　徴	遺　　物	備　　考
15-1.2	1	B-ア		地輪を石囲い
15-3	2	A-エ		
15-4.5	3	A-ア		
16-1.2	4	ウ		
16-3.4	6	A-ア・イ	古銭(25-1)	
16-3.4	7	A-ア・イ		地輪群の斜面上にSK4
17-1.2	5	C-ア・ウ		前面に小石を方形に敷く
17-3.4	8	C-ア	須恵器片(26-1・3)古銭(32-32)	須恵器片で焼骨を囲む
18-1.2	9	C-ア	須恵器片(32-1)	集石や配石は川原石
18-3.4	11	C-ア	古銭(7-10、23-1)珠洲系陶器片(7-7)	
18-3.4	16	C-ア	珠洲系陶器(10-4)、古銭(10-1・3)	骨壺の前面に地輪列
19-1.2	10	C-ア・ウ	珠洲系陶器(7-5)	集石は川原石
19-1.2	12	C-ア	珠洲系陶器(7-3・4・8・9・11)釘(7-5)	骨壺の周囲は川原石集石。前面に小石を敷く
19-1.2	13	C-ア・ウ	古銭(7-1・2・12・13・14・15)	
20-1.2	14	E-イ		SK9の斜面下に方形の配石
20-1.2	15	C-ア・イ	珠洲系陶器(10-7)	骨壺の周囲に集石
21-1.2	17	C-ア・イ・ウ	珠洲系陶器(9-2・3・17・18)	片口鉢の上に石の蓋
21-1.2.3	18	C-ア・イ・ウ	古銭(9-1・5・7～9)釘(9-6・11-15)刀子(9-10)	地輪が整然と配置。前面に小石を敷く
21-1.2	20	C-ア・イ		地輪の上に又地輪がある。
21-1.2	21	D		集石は川原石
22-1.2	19	C-ア・イ・ウ	古銭(10-2)須恵器片(10-5)	上部地滑りで不明
23-3.4	25	C-ア・ウ	板碑(16-1)青磁(16-2)珠洲系陶器(16-3・4)カワラケ(16-12)釘(16-5～11)	SK26上部は川原石集石。
23-1.2	22	C-ア	カワラケ(31-1)	集石は川原石
23-1.2	23	D-ウ	須恵器片(13-1)	SK23の下面敷石
24-1.2	24	C-ア・イ・ウ	須恵器片(15-1)釘(30-3)	SK21・22上部川原石
25-1.2	26	C-ア・イ・ウ	珠洲系陶器(17-1～3)	地輪の前面に骨壺
25-3	27	F	磨製石斧(21-1)砥石(20-1)須恵器片(21-1)珠洲系陶器片(21-1)	斜面上部から転がったもの

第４表　中世墓址群区域別表

ＳＫ番号	火葬の有無	地区	東西	南北	深さ	備　　考
1	有	3	90	30	21	下部に石あり。地輪3下部
2	有	3	100	112	32	下部に石あり
3	有	3	84	76	19	下部に石あり
4	有	4	100	150	20	中央に溝あり
5	有	5	85	100	48	石囲い。下部に石あり。底面一部炭化。
6	焼土炭化物火葬骨混じり	6	48	45	38	
7	焼土炭化物火葬骨混じり	6	40	50	23	
8	焼土炭化物火葬骨混じり	7	57	56	27	
9	焼土炭化物火葬骨混じり	14	52	44	20	
10	有	10	95	100	37	中央底面ピット状。
11	焼土炭化物火葬骨混じり	13	50	80	15	SK12と併設。
12	焼土炭化物火葬骨混じり	13	40	50	14	SK11と併設。
13	有	13	93	130	24	ピット211、212と併設。
14	焼土炭化物火葬骨混じり	15	50	45	24	
15	焼土炭化物火葬骨混じり	20	57	50	23	
16	有	17	70	70	32	
17	有	18	86	86	47	地輪111、112、114、121、123、126の下部施設。釘(9-14)。
18	有	19	70	80	30	
19	有	24	50	52	28	
20	火葬骨のみ	24	60	70	15	
21	火葬骨のみ	24	85	85	14	
22	有	24	90	80	38	
23	有	23	116	110	50	下部に石あり。底面に小ピットあり
24	有	25	125	143	42	地輪143の下部施設
25	有	25	80	85	68	地輪143の下部施設。下部に石あり。
26	火葬骨多数	25	110	110	79	地輪145、146、147、板碑(16-1)の下部施設。釘(16-11)。ピット180,182,183を併設。

第５表　火葬土壙属性

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
1	50.0	52.0	25.0	1	
2	35.0	35.0	27.0	1	
3	40.0	40.0	27.0	3	
4	40.0	35.0	26.0	3	地輪4
5	28.0	24.0	21.0	3	地輪6
6	43.0	28.0	6.0	3	
7	20.0	19.0	14.0	5	
8	25.0	25.0	27.0	5	
9	29.0	24.0	25.0	5	
10	20.0	21.0	14.0	6	
11	20.0	22.0	15.0	6	
12	29.0	30.0	14.0	6	
13	26.0	22.0	15.0	6	大石の下部
14	34.0	41.0	18.0	6	
15	30.0	32.0	21.0	6	
16	29.0	30.0	14.0	6	
17	20.0	22.0	13.0	6	
18	30.0	27.0	18.0	8	
19	30.0	28.0	17.0	8	
20	25.0	36.0	15.0	8	
21	30.0	31.0	20.0	8	
22	35.0	37.0	7.0	8	
23	30.0	30.0	10.0	7	
24	25.0	27.0	15.0	7	
25	29.0	30.0	7.0	7	
26	24.0	25.0	7.0	7	
27	26.0	22.0	7.0	8	
28	25.0	23.0	9.0	8	
29	30.0	27.0	10.0	8	
30	22.0	22.0	10.0	8	
31	25.0	23.0	6.0	8	
32	40.0	38.0	3.0	8	
33	28.0	30.0	8.0	8	
34	43.0	36.0	17.0	8	
35	38.0	37.0	6.0	8	
36	50.0	45.0	10.0	7	地輪9。2ピット
37	30.0	28.0	6.0	7	大石の下部
38	45.0	27.0	13.0	7	
39	25.0	30.0	7.0	7	
40	21.0	24.0	10.0	7	
41	30.0	28.0	5.0	7	
42	26.0	25.0	12.0	7	
43	22.0	23.0		7	
44	33.0	34.0	6.0	7	地輪16
45	27.0	31.0	2.0	7	
46	19.0	19.0	11.0	7	
47	16.0	14.0	9.0	7	
48	27.0	26.0	20.0	7	

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
49	37.0	34.0	9.0	7	
50	44.0	28.0	2.0	7	
51	23.0	25.0	11.0	6	
52	29.0	29.0	9.0	8	
53	27.0	26.0	8.0	8	
54	28.0	31.0	14.0	8	地輪162
55	27.0	29.0	10.0	8	
56	50.0	32.0	3.0	8	
57	25.0	35.0	9.0	8	地輪28
58	18.0	21.0	8.0	8	
59	36.0	31.0	11.0	9	
60	24.0	23.0	12.0	9	
61	25.0	22.0	17.0	9	
62	32.0	28.0	21.0	9	
63	29.0	30.0	15.0	9	
64	30.0	30.0	6.0	9	地輪31。火葬骨なし石囲い
65	30.0	34.0	6.0	9	
66	30.0	36.0	20.0	9	
67	25.0	25.0	13.0	9	
68	20.0	29.0	15.0	9	
69	25.0	17.0	13.0	8	
70	38.0	26.0	12.0	8	
71	25.0	29.0	13.0	8	地輪29
72	45.0	37.0	14.0	8	
73	31.0	32.0	13.0	11	
74	25.0	31.0	5.0	11	
75	2.0	2.0	13.0	11	地輪42
76	40.0	32.0	5.0	11	地輪41
77	29.0	30.0	12.0	15	地輪70
78	26.0	30.0	12.0	15	地輪67
79	25.0	20.0	12.0	15	
80	28.0	27.0	17.0	15	
81	31.0	30.0	18.0	15	地輪73
82	20.0	20.0	12.0	15	
83	47.0	48.0	16.0	15	
84	34.0	22.0	9.0	15	
85	30.0	24.0	16.0	15	
86	24.0	22.0	12.0	15	
87	33.0	30.0	11.0	15	
88	28.0	21.0	9.0	14	
89	37.0	33.0	10.0	15	
90	28.0	21.0	8.0	15	
91	28.0	20.0	11.0	15	
92	16.0	19.0	8.0	10	
93	29.0	35.0	14.0	10	
94	25.0	29.0	5.0	13	
95	28.0	33.0	13.0	13	
96	28.0	25.0	11.0	13	

第6表　火葬骨埋設ピット表　(1)

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
97	38.0	38.0	20.0	13	
98	30.0	26.0	12.0	13	地輪47
99	20.0	22.0	7.0	13	
100	25.0	24.0	8.0	13	古銭(7—15)
101	21.0	25.0	4.0	13	
102	25.0	26.0	7.0	13	
103	24.0	33.0	10.0	13	
104	26.0	42.0	9.0	13	古銭(7—12)
105	36.0	30.0	6.0	13	
106	15.0	20.0	4.0	13	
107	29.0	40.0	14.0	16	
108	34.0	35.0	6.0	13	
109	30.0	21.0	6.0	13	
110	25.0	25.0	17.0	13	地輪62
111	35.0	33.0	15.0	13	
112	40.0	41.0	11.0	13	地輪58、59
113	30.0	22.0	5.0	13	
114	18.0	15.0	1.0	13	
115	22.0	28.0	9.0	16	地輪61
116	25.0	20.0	9.0	16	地輪62
117	18.0	19.0	8.0	16	
118	22.0	24.0	5.0	16	
119	32.0	25.0	14.0	16	地輪63
120	30.0	26.0	14.0	16	地輪64、65
121	40.0	34.0	11.0	15	
122	33.0	26.0	7.0	15	地輪95
123	29.0	30.0	14.0	15	
124	30.0	34.0	10.0	16	
125	25.0	26.0	7.0	15	
126	23.0	20.0	7.0	15	
127	16.0	15.0	14.0	15	土器埋設(10—7)
128	45.0	40.0	6.0	15	
129	39.0	42.0	17.0	20	
130	26.0	30.0	17.0	20	
131	23.0	26.0	14.0	20	
132	22.0	23.0	32.0	17	
133	15.0	18.0	1.0	17	
134	40.0	37.0	18.0	17	
135	52.0	32.0	27.0	17	
136	53.0	40.0	14.0	17	
137	26.0	26.0	16.0	18	地輪107、古銭(9—5)
138	27.0	30.0	14.0	18	古銭(9—6)
139	21.0	25.0	17.0	18	地輪138
140	22.0	25.0	17.0	18	地輪111
141	30.0	26.0	7.0	18	地輪112
142	40.0	35.0	5.0	18	地輪164
143	25.0	24.0	8.0	18	2ピット
144	70.0	45.0	21.0	18	

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
145	40.0	35.0	5.0	18	
146	34.0	36.0	22.0	18	地輪117、古銭(9—9)、釘(9—4、19)
147	20.0	35.0	6.0	18	地輪121
148	48.0	46.0	15.0	18	地輪118、古銭・刀子(9—10)、釘(9—11)
149	30.0	41.0	9.0	18	地輪122、古銭(9—8)、2ピット
150	35.0	30.0	5.0	18	地輪127、古銭(9—8)
151	25.0	22.0	18.0	18	
152	35.0	36.0	23.0	18	
153	41.0	28.0	14.0	18	
154	36.0	43.0	13.0	18	
155	30.0	26.0	12.0	18	
156	30.0	33.0	27.0	18	
157	43.0	25.0	17.0	18	古銭(9—20)、釘(9—15)、2ピット
158	30.0	28.0	9.0	21	
159	28.0	26.0	10.0	18	
160	42.0	44.0	18.0	18	
161	45.0	40.0	19.0	21	
162	45.0	40.0	12.0	21	2ピット
163	36.0	56.0	8.0	21	
164	33.0	30.0	18.0	21	
165	32.0	60.0	11.0	21	
166	30.0	26.0	21.0	21	
167	36.0	35.0	12.0	21	
168	38.0	32.0	21.0	21	
169	26.0	28.0	17.0	21	
170	30.0	35.0	12.0	21	
171	25.0	20.0	5.0	21	土器片あり
172	14.0	18.0	5.0	24	
173	35.0	30.0	12.0	19	
174	33.0	23.0	19.0	19	
175	28.0	30.0	11.0	19	
176	24.0	25.0	5.0	19	
177	34.0	24.0	10.0	24	
178	35.0	28.0	10.0	19	
179	24.0	40.0	19.0	24	
180	35.0	20.0	19.0	22	大石の下部
181	32.0	25.0	10.0	24	
182	50.0	50.0	23.0	25	
183	55.0	70.0	15.0	25	
184	39.0	42.0	12.0	26	
185	40.0	32.0	17.0	26	
186	75.0	35.0	23.0	26	
187	37.0	39.0	16.0	26	地輪150
188	40.0	33.0	12.0	26	

第7表　火葬骨埋設ピット表 (2)

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
189	34.0	41.0	15.0	26	地輪150
190	43.0	35.0	4.0	26	
191	32.0	40.0	12.0	26	
192	41.0	39.0	18.0	26	
193	42.0	42.0	13.0	26	
194	28.0	34.0	15.0	26	
195	32.0	37.0	12.0	26	
196	45.0	32.0	14.0	26	
197	32.0	28.0	18.0	26	
198	43.0	32.0	18.0	26	
199	40.0	55.0	9.0	26	
200	35.0	31.0	3.0	26	
201	24.0	25.0	11.0	26	
202	20.0	22.0	13.0	26	
203	45.0	50.0	11.0	26	
204	30.0	35.0	13.0	26	
205	36.0	38.0	12.0	26	
206	35.0	25.0	4.0	26	

ピット番号	東西(cm)	南北(cm)	深さ(cm)	墓地区	備　　考
207	40.0	30.0	4.0	26	
208	36.0	43.0	4.0	4	
209	27.0	30.0	14.0	8	
210	34.0	28.0	10.0	11	
211	38.0	34.0	12.0	12	
212	45.0	40.0	4.0	12	
213	24.0	24.0	5.0	13	
214	19.0	22.0	11.0	15	
215	25.0	25.0	6.0	13	
216	29.0	32.0	11.0	18	地輪114
217	26.0	25.0	9.0	18	
218	24.0	32.0	8.0	18	
219	19.0	24.0	12.0	19	
220	30.0	44.0	4.0	26	
221	25.0	20.0	2.0	2	
222	30.0	25.0	4.0	15	
223	20.0	19.0	4.0	15	
224	20.0	30.0	12.0	24	

第８表　火葬骨埋設ピット表　(3)

B　青磁片（第28図１、第９表）

破片が小さく文様の全体像がはっきりせず器形もはっきりしない。器厚は薄い。蓮弁文か。

C　古瀬戸陶器片（第28図２、第９表）

底部の高台の部分の破片である。釉は灰白色で胴部より懸垂すると思われる２条の細い沈線がある。器形は不明である。

D　カワラケ（中世土師器皿）（第28図３－５、第９表）

３・４は手づくねである。５は３・４の赤褐色のものに比べ白褐色のカワラケである。５は轆轤成形である。

E　須恵器（第28図７－16、第29図、第９～10表）

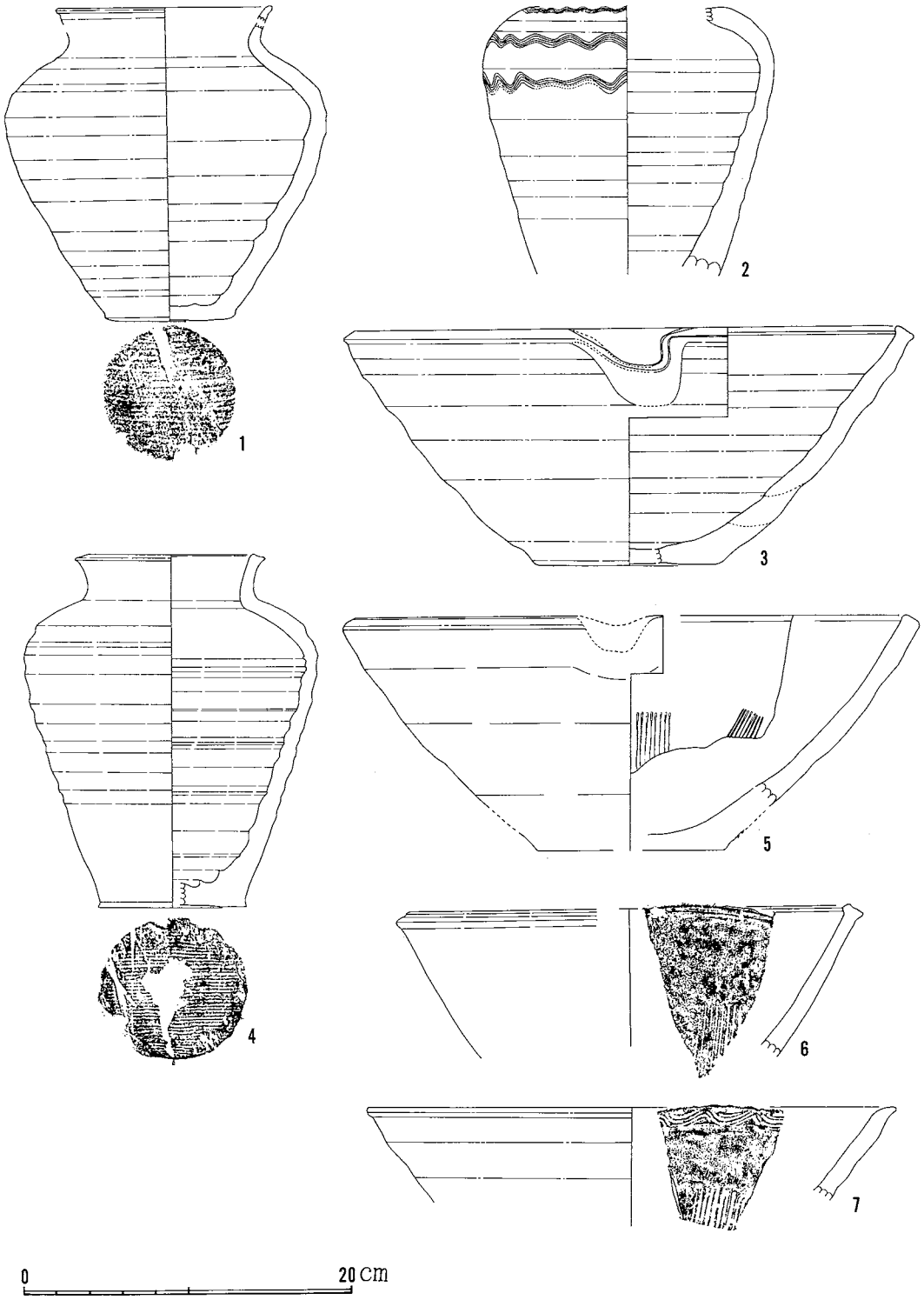
これら須恵器は奈良時代から平安時代にかけての破片であり、清水山第１地点や池田端など周辺の窯跡より拾ってきたものを、第２地点では火葬骨を埋設するときの容器変わりに用いていたものと思われる。

F　板碑（第30図１）

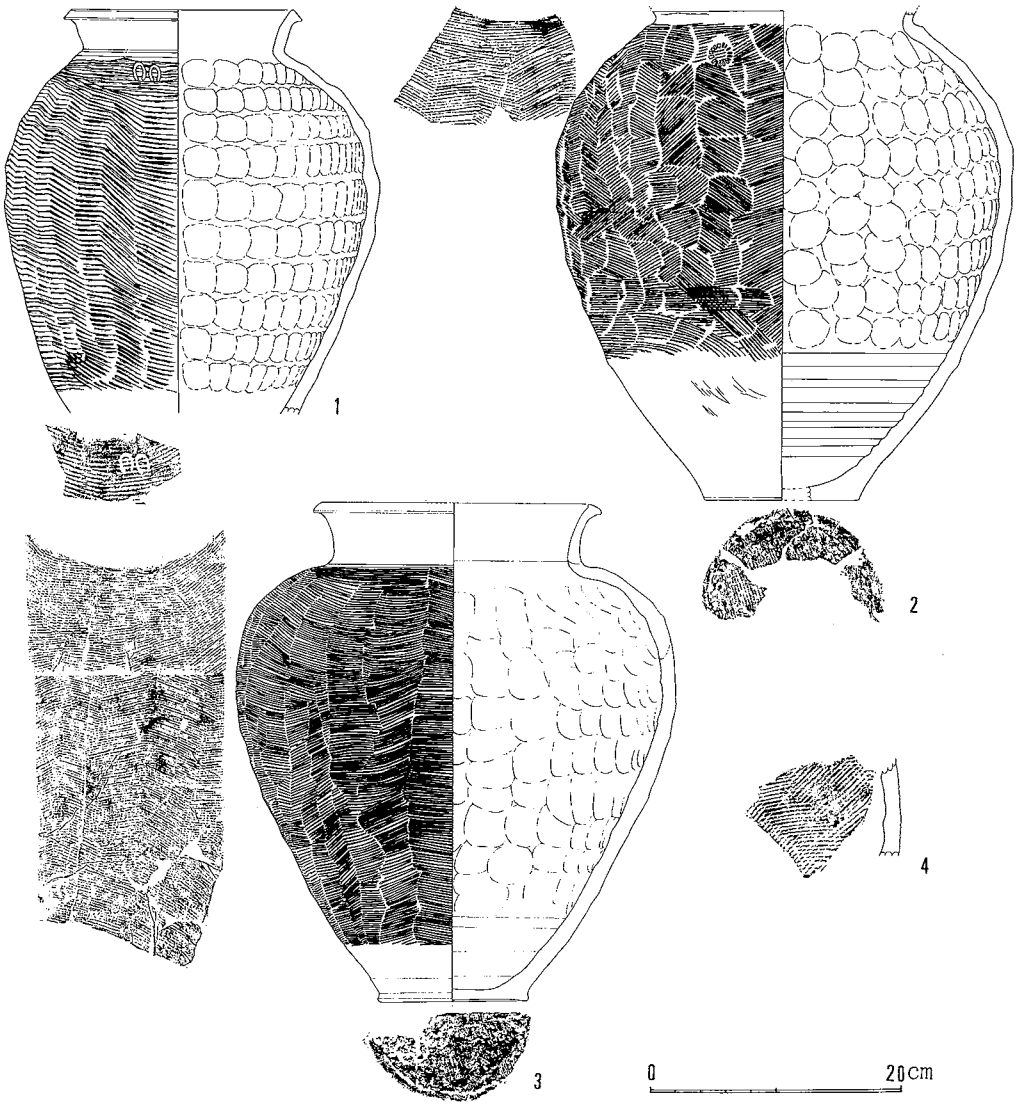
緑泥片岩製の武蔵型板碑である。長さ30cm幅11cmの小型の板碑で、頂角の一部が欠損している。頂上線の沈線がみられず、種子の「キリーク」の凡字が平彫りで彫られている。種子の大きさは縦7.5cm、幅5.5cmで長細い文字の形態である。種子の下には蓮座もなく紀年名も造立趣旨も彫られていない。表面は良く磨かれており、柄部にノミ加工の痕跡を残す。裏面は側縁部に剥離加工痕が残っており、上部と下部にノミ痕跡もみられる。出土地は25区。

G　砥石（第30図４）

須恵器の甕の破片を転用して砥石として用いたものである。表裏研ぎ痕と刃痕がみられる。一部に甕のタタキメ痕がみられる。出土地は26区。



第26図　清水山第２地点出土遺物（１）　S＝$\frac{1}{4}$



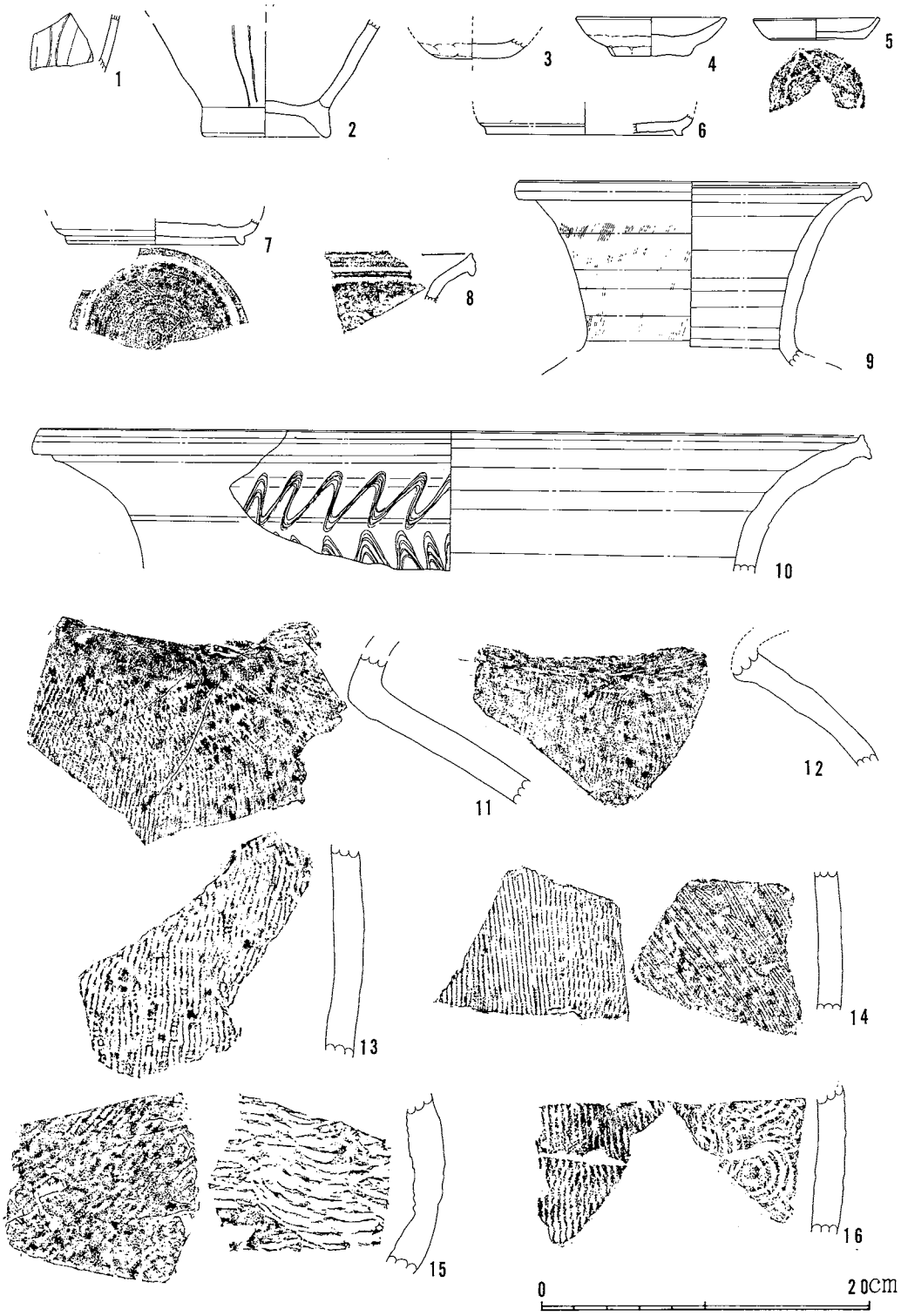
第27図　清水山第２地点出土遺物（２）　S＝$\frac{1}{6}$

F　古銭（第30図５－16）（第11表）（遺構図において出土位置は●で表示）

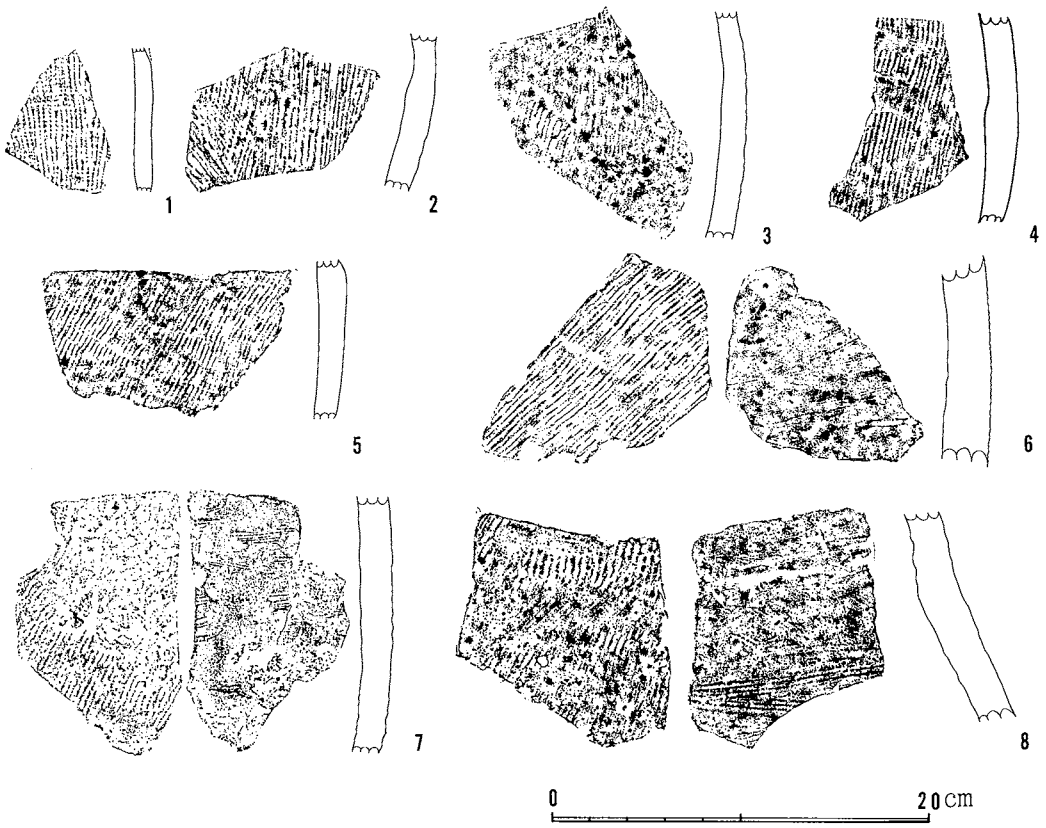
拓本が取れた古銭は12枚であるが、発掘では34枚の古銭が出土した。これら古銭は火葬骨と共に検出されており、ほとんどの古銭が火葬の最一緒に焼かれた物と思われ風化が激しい。唐銭の開元通寶（621年発行）から明銭の洪武通寶（1368年発行）までの古銭がみられ、皇宋通寶と元豊通寶の北宋銭が多く発見された。南宋銭は発見されなかった。私鋳銭は１点のみ表採で発見された。

G　刀子（第31図１、第12表）

長さ17.7cm幅1.5cmの刀子である。ピット148内に焼骨と元豊通寶・皇宋通寶の古銭と共に出土



第28図　清水山第２地点出土遺物（３）　S＝$\frac{1}{4}$



第29図　清水山第２地点出土遺物（４）　S＝$\frac{1}{4}$

している。その上部に地輪（118）が位置していた。

H　**鉄釘**（第31図２－25、第12表）（遺構図において出土位置は▲で表示）

釘は長さや太さによって、太く10cm以上の物（第31図６）、８cm前後の物（第31図１－５、11－25）、細く５cm前後の物（第31図７－10）に３分類される。これらは火葬骨と一緒に出土しており、火葬の際お棺に遺体が納められていたことを窺わせる物である。

第31図７の釘の一部に金箔が僅かに付着していた。ＳＫ24の上面で、地輪（143）脇で出土。

I　**五輪塔**（第32－37図、第13～第16表）

1　空風輪（第32－33図、第34図１－13）

空風輪は全点で51基出土している。空輪部分の先端の形態で６分類した。

（ア）栃実タイプ（32図１）、（イ）球形で頂部突起が僅かに尖るタイプ（32図３－８）、（ウ）肩の部分が張ってくるタイプ（32図２・９－13）、（エ）肩の部分に陵が入り頂部が三角形になるタイプ（32図14－20）、（オ）陵が入り頂部突起が僅かに尖るタイプ（33図１－20）、（カ）陵があり頂部先端が尖り立つタイプ（34図１－13）に分類される。

2　火輪（第34図14－22、第35図）

火輪は全点で25基出土している。火輪部分は笠の高さと軒の反りで４分類した。

図版番号	遺跡番号	出土区	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	口縁特徴	体部特徴	底部特徴	備　考
26-1	10-4	16	珠洲系陶器	壺A	12.8	6.6	15.4	緩い外反丸み有る口唇部	上半部が張っている		骨壺
26-2	16-4	25	珠洲系陶器	壺B					上半部波状櫛描き文		骨壺
26-3	9-18	17	珠洲系陶器	片口鉢	32.7	10.4	14.5				火葬骨入り石で蓋
26-4	10-7	15	珠洲系陶器	壺A	10.0	8.9	21.4	緩く外反する平縁	頸部下の上半部が張っている	静止糸切り	骨壺
26-5	7-3、30-1	12	珠洲系陶器	片口摺り鉢	33.0	11.5	14.3	やや内湾する平縁	内面8本の櫛歯文で疎に施文		
26-6	9-2	17	珠洲系陶器	摺り鉢	26.6			やや内湾する平縁	内面8本の櫛歯文で疎に施文		
26-7	7-8		珠洲系陶器	摺り鉢	32.0			やや外反口唇部内面に波状櫛描き文を巡らす	内面6本の櫛歯文で密に施文	静止糸切り	
27-1	17-1	26	珠洲系陶器	壺C	17.5			緩く外反する平縁	上半部に緩い膨らみをもつ頸基部より整然と右さがりのタタキメ。頸基部に2つの馬蹄形押印文。内面円形あて具痕		骨壺
27-2	7-11	12	珠洲系陶器	壺C		12.3			卵形に膨らみをもつ体部頸基部より綾杉タタキメ。内面円形宛て具痕。頸基部に押花文	静止糸切り	骨壺
27-3	16-3	25	珠洲系陶器	壺C	21.2	11.4	39.6	緩く外反する平縁	頸基部よりきつい膨らみをもつ。頸基部より細目の綾杉タタキメ。円形あて具痕	静止糸切り	骨壺
27-4	21-1	27	珠洲系陶器	壺C破片					紋杉タタキメ文		
28-1	16-2	25	青磁破片	?							蓮弁文
28-2	17-8	26	古瀬戸	底部破片		7.6			2条縦沈線有、白緑色釉	高台付	
28-3	10-5	19	土師器(カワラケ)	小皿					手づくね	周縁に指押え痕	
28-4	31-1	22	土師器(カワラケ)	小皿	8.8	4.6	2.4		手づくね	周縁に指押え痕	
28-5	16-12	25	土師器(カワラケ)	小皿	7.4	4.6	2.6		ロクロ成形	回転糸切り	
28-6	9-17	17	須恵器	高台付杯破片							
28-7	15-1	21	須恵器	高台付杯破片		10.6				「×」印	

第9表　中世墓址出土遺物属性(1)

図版番号	遺跡番号	出土区	種　別	器　種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	口縁特徴	体部特徴	底部特徴	備　考
28-8	4-1		須恵器	甕口縁部破片				有段で外反	頸部波状櫛描き文		
28-9	26-1	8	須恵器	壺口縁				有段で外反	頸部平行タタキメ擦消し調整		
28-10	26-3	8	須恵器	甕口縁	20.6			有段で外反	頸部波状櫛描き文		
28-11	26-3	8	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ		
28-12	5-2	7	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ		
28-13	7-7	12	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ		
28-14	7-4	12	須恵器	甕破片					胴部表タタキ内面メハケメ調整		
28-15	10-5	19	須恵器	甕破片					胴部表タタキ内面同心円タタキメ文		
28-16	21-1	27	須恵器	甕破片					胴部表タタキ内面同心円タタキメ文		
29-1	26-3	8	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文		
29-2	21-1	8	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文		
29-3	16-5	25	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文		
29-4	20-1	27	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文		
29-5	32-1	9	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文		
29-6	32-1	9	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文内面ハケメ調整		
29-7	26-3	8	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文内面ハケメ調整		
29-8	26-3	8	須恵器	甕破片					胴部平行タタキメ文内面ハケメ調整		

第10表　中世墓址出土遺物属性(2)

(ア) 笠の高さがなく軒部の反りが少ないタイプ (34図14)、(イ) 笠が高く軒部の反りが少ないタイプ (34図17－22、35図11・12)、(ウ) 笠が低く軒部の反りがあるタイプ (34図15－17、35図1－8、18)、(エ) 笠が高く軒部の返りがあるタイプ (35図9・10、13－17) に分類される。

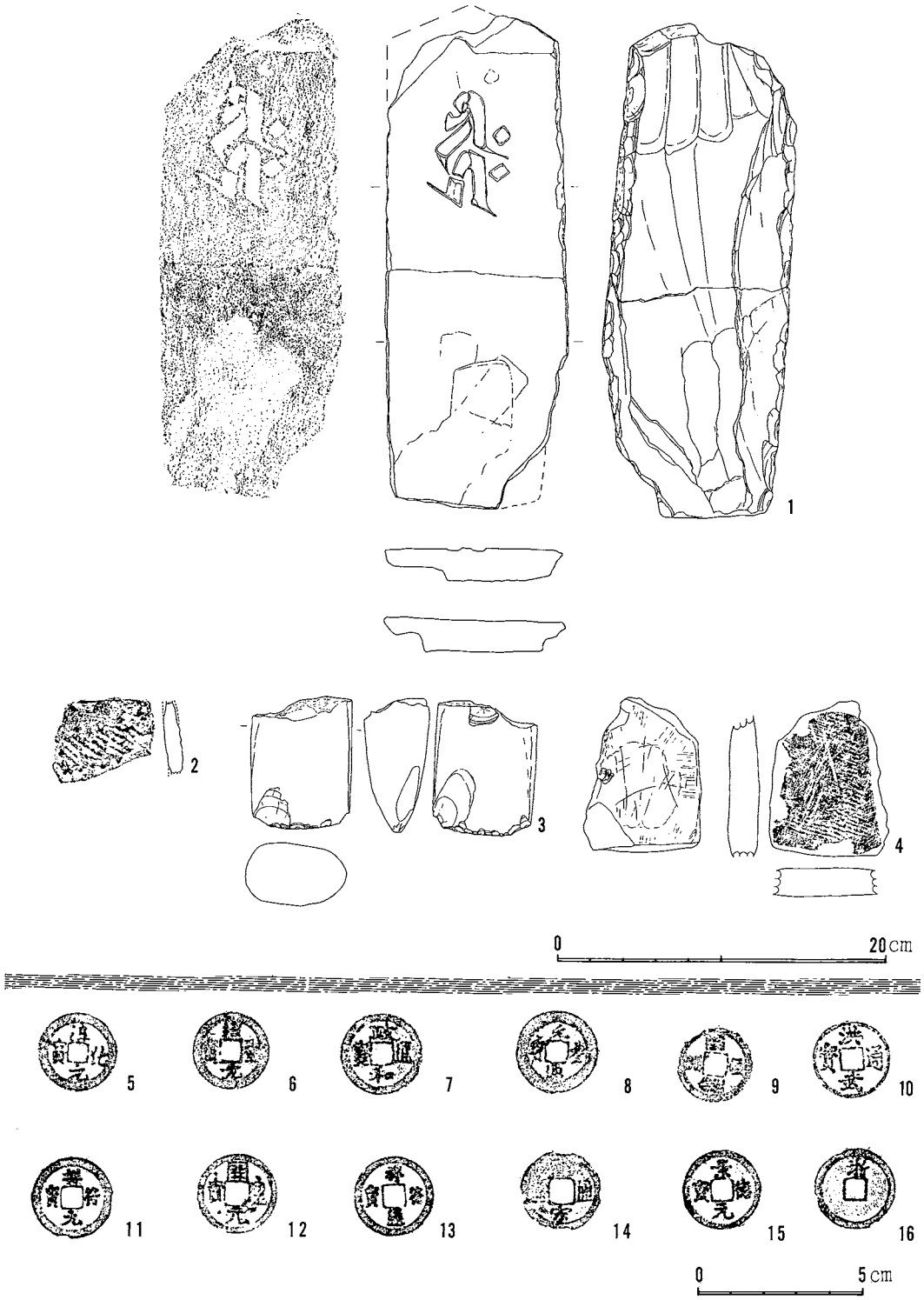
3　水輪 (第36図1－13)

水輪は全点で15基出土している。形態は球形の上部と下部を切り取りその部分に凹を設けたような形態である。

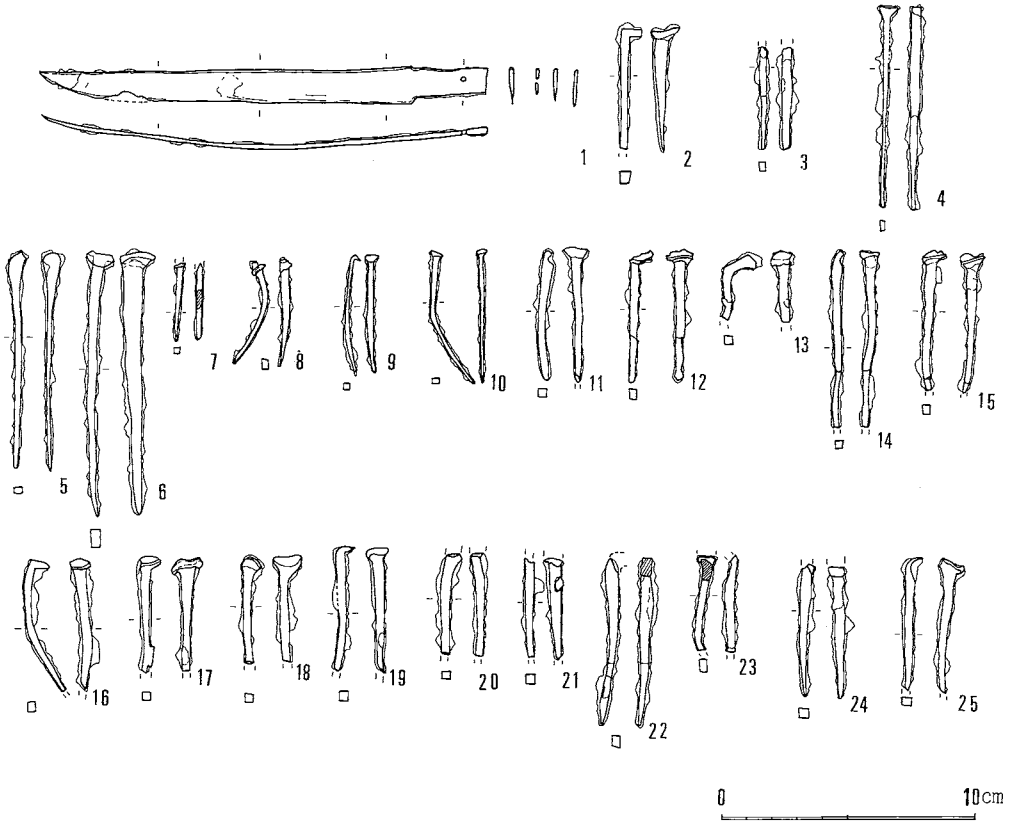
4　地輪 (第36図14・第37図1－12)

地輪は全点で79基出土している。36図14は焼骨を納骨するための凹が彫られている。形態は高さと横幅の差で4タイプに分類できる。

(ア) 横幅と高さの差が10cm以上で高さが低くく横幅が広いタイプ (第37図1、2)、(イ) 横幅と高さの差が7－9cmぐらいのやや高さが低くく横幅が広いタイプ (第37図3－5)、(ウ) 高さと横幅差が5－6cmタイプ (第37図6－8)、(エ) 高さと横幅の差が4cm以下 (第37図9－12) のほぼ差のないタイプに分類される。第37図13－17は (ア) と (イ) タイプの地輪を模式図として掲載した。13と17は (イ) タイプ、14－16は (ア) タイプである。



第30図　清水山第２地点出土遺物（５）　１～４（S＝$\frac{1}{4}$）
５～16（S＝$\frac{1}{2}$）



第31図　第２地点出土遺物（６）　S＝$\frac{1}{3}$

J　その他（第30図２・３）

30図２は縄文の土器片である。胎土に繊維が入っていたと思われる。須恵器片と共に火葬骨入りピットの付近で検出された。30図３は磨製石斧の刃部部分である。直刃である。縄文土器片も磨製石斧も中世遺構の覆土中に混入して検出された。

第５節　まとめ

１　縄文時代

清水山北斜面には縄文時代の土壙が４ヶ所発見された。第１地点ＳＫ２とＳＫ４は縄文時代前期のループ文の破片が出土し、土壙内に炭化物等検出されたことなどから、この期のキャンプサイトである可能性がある。狩猟の際、暖を取った場であろうか。中野市内では前期前半のループ文の発見された遺跡が少なく、この期の行動様式がはっきりしておらず、今後の周辺での同期遺跡発見例を待ちたい。

図版番号	出土区	遺物番号	遺物名	備考
30-5	13	7-13	淳化元寶	990年鋳造
30-6	13	7-1	紹聖元寶	1094年鋳造
30-7	16	10-1	政和通寶	1111年鋳造
30-8	6	25-1	元豊通寶	1078年鋳造
30-9	13	23-1	皇宋通寶	1039年鋳造
30-10	8	32-32	洪武通寶	1368年鋳造
30-11	8	32-32	祥符元寶	1008年鋳造
30-12	8	32-32	開元通寶	621年鋳造
30-13	8	32-32	祥符通寶	1008年鋳造
30-14	8	32-32	皇宋通寶	1039年鋳造。2枚出土
30-15	16	10-3	景徳元寶	1004年鋳造
30-16	16	10-3	洪武通寶裏（浙）	1368年鋳造。景徳元寶と2枚
	7	5-1	皇宋通寶	1039年鋳造
	7	5-1	元祐通寶	1086年鋳造
	13	7-2	熙寧通寶	1086年鋳造

図版番号	出土区	遺物番号	遺物名	備考
	13	7-10	皇宋通寶	1039年鋳造
	13	7-12	熙寧通寶	1068年鋳造
	13	7-14	洪武通寶	1368年鋳造
	13	7-14	?	
	13	7-15	治平元寶	1054年鋳造
	13	7-15	熙寧通寶	1068年鋳造
	13	7-16	天聖元寶	1023年鋳造
	16	10-1	政和通寶	1004年鋳造
	18	9-1	元祐通寶	1086年鋳造
	18	9-5	開元通寶	621年鋳造
	18	9-7	元豊通寶	1078年鋳造
	18	9-8	元豊通寶	1078年鋳造
	18	9-8	聖栄元寶	1001年鋳造
	18	9-9	元豊通寶	1078年鋳造
	18	9-20	嘉祐元寶	1056年鋳造
		表採	熙寧元寶	1068年鋳造
		表採	私鋳銭	

第11表　古　　銭

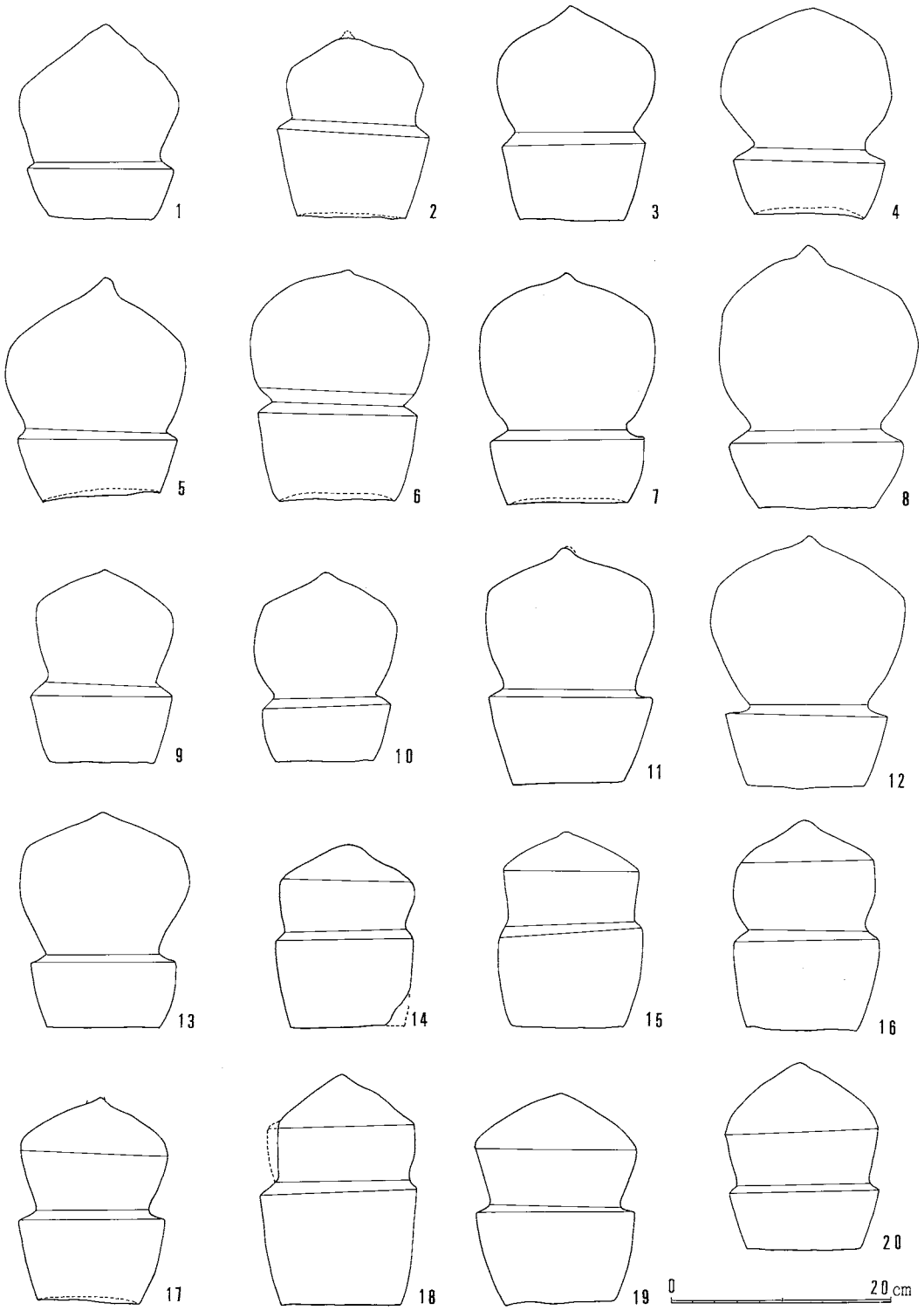
図版番号	出土区	遺跡番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚み(cm)	備考
31-1	18	9—10	刀子	17.7	1.5	0.1	ピット148内埋設
31-2	12	7—6	釘	4.8	0.5	0.4	先端欠損
31-3	23	30—3	釘	4.0	0.3	0.4	基部欠損
31-4	23	30—3	釘	8.2	0.2	0.4	
31-5	25	16—9	釘	8.7	0.3	0.2	
31-6	25	16—11	釘	10.7	0.4	0.7	
31-7	25	16—10	釘	3.0	0.2	0.3	金箔付着、基部欠損
31-8	25	16—2	釘	4.3	0.3	0.4	
31-9	25	16—5	釘	4.7	0.3	0.3	
31-10	25	16—8	釘	5.4	0.3	0.2	
31-11	25	16—8	釘	5.3	0.3	0.3	先端欠損
31-12	18	9—4	釘	5.3	0.3	0.4	先端欠損
31-13	18	9—4	釘	2.8	0.4	0.4	先端欠損
31-14	18	9—11	釘	7.2	0.3	0.3	先端欠損
31-15	18	9—12	釘	5.6	0.3	0.3	先端欠損
31-16	18	9—19	釘	6.4	0.3	0.4	先端欠損
31-17	18	9—19	釘	4.5	0.4	0.3	先端欠損
31-18	18	9—19	釘	4.3	0.3	0.3	先端欠損
31-19	18	9—19	釘	5.0	0.4	0.4	先端欠損
31-20	18	9—19	釘	4.0	0.4	0.3	先端基部欠損
31-21	18	9—19	釘	4.0	0.4	0.4	先端基部欠損
31-22	18	9-13	釘	6.8	0.3	0.4	先端基部欠損
31-23	18	9-13	釘	3.8	0.3	0.3	先端基部欠損
31-24	18	9-14	釘	5.4	0.4	0.3	基部欠損
31-25	18	9-15	釘	5.3	0.4	0.3	先端欠損

第12表　鉄製品属性

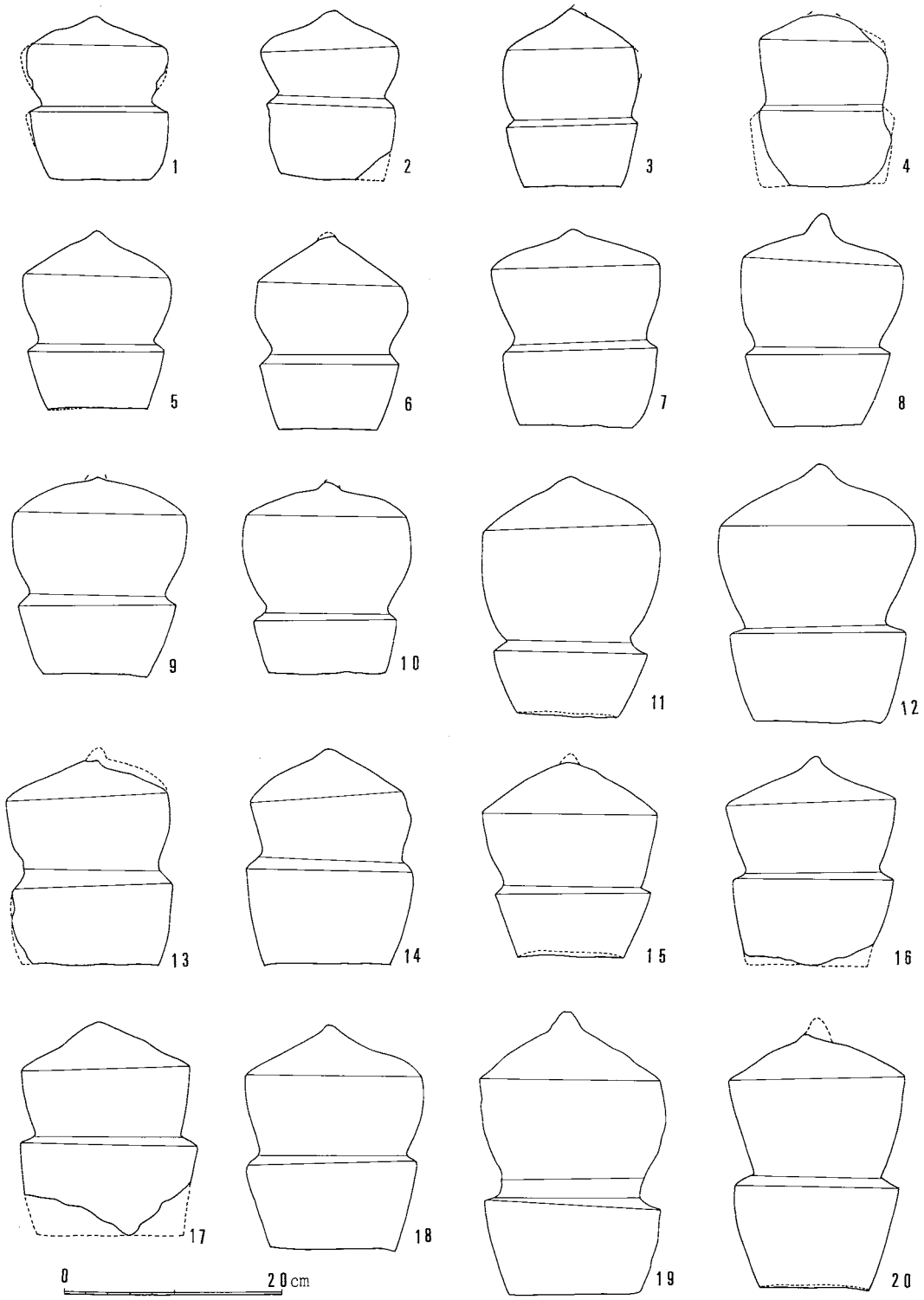
2　奈良時代

清水山古窯址では、篦切り後にナデ調整を行う坏が多い。このナデは、ミガキでもなくケズリでもなく、板状・篦状の工具を底面に対して鋭角にあるいは平行にナデ動かして底部を平らに調整している例がみられた。

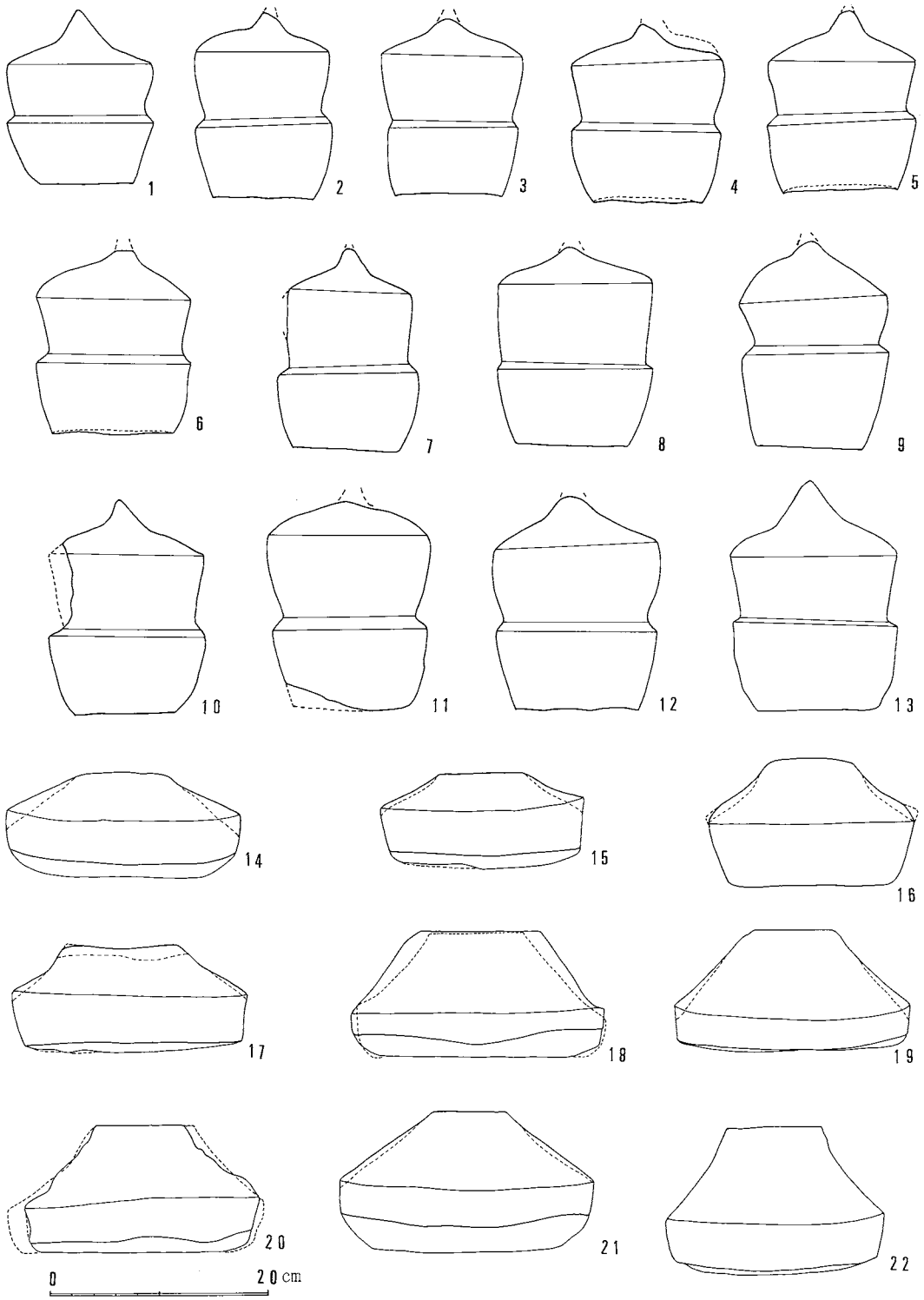
また清水山古窯址の灰原から出土した須恵器の特徴は、坏Aでは丸底のタイプといわゆる箱形



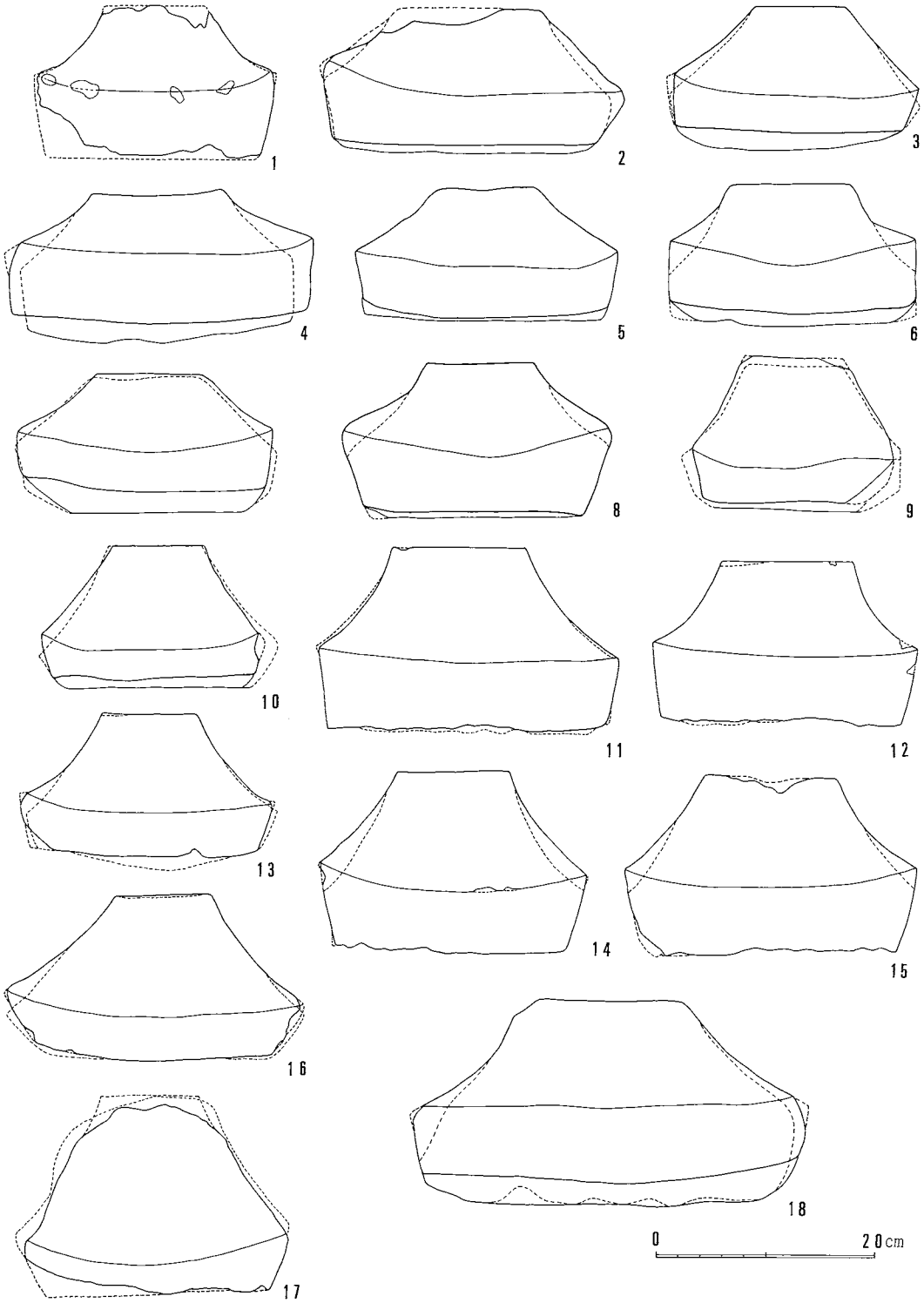
第32図　清水山第２地点出土遺物（７）　S＝$\frac{1}{6}$



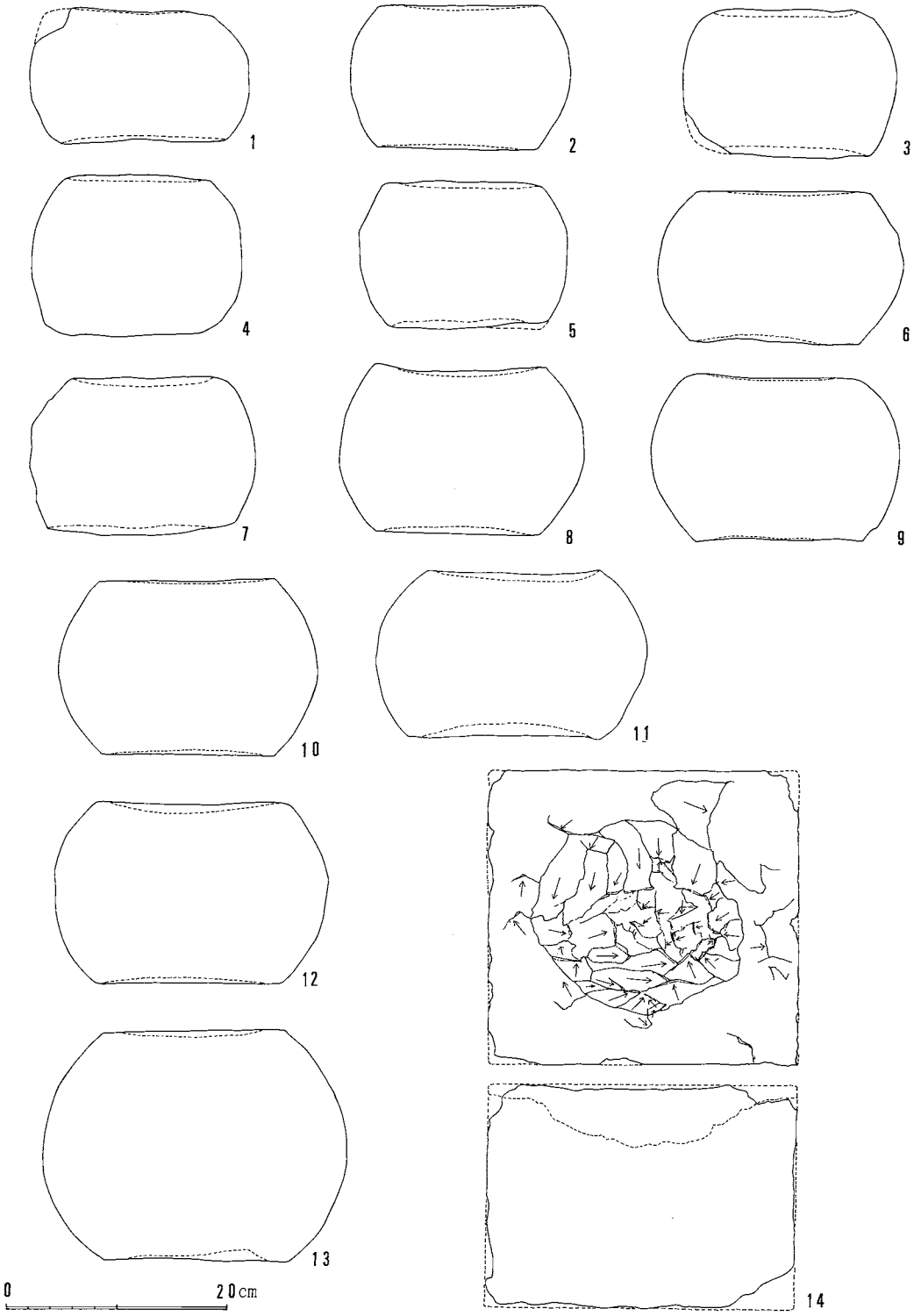
第33図　清水山第２地点出土遺物（８）　S＝$\frac{1}{6}$



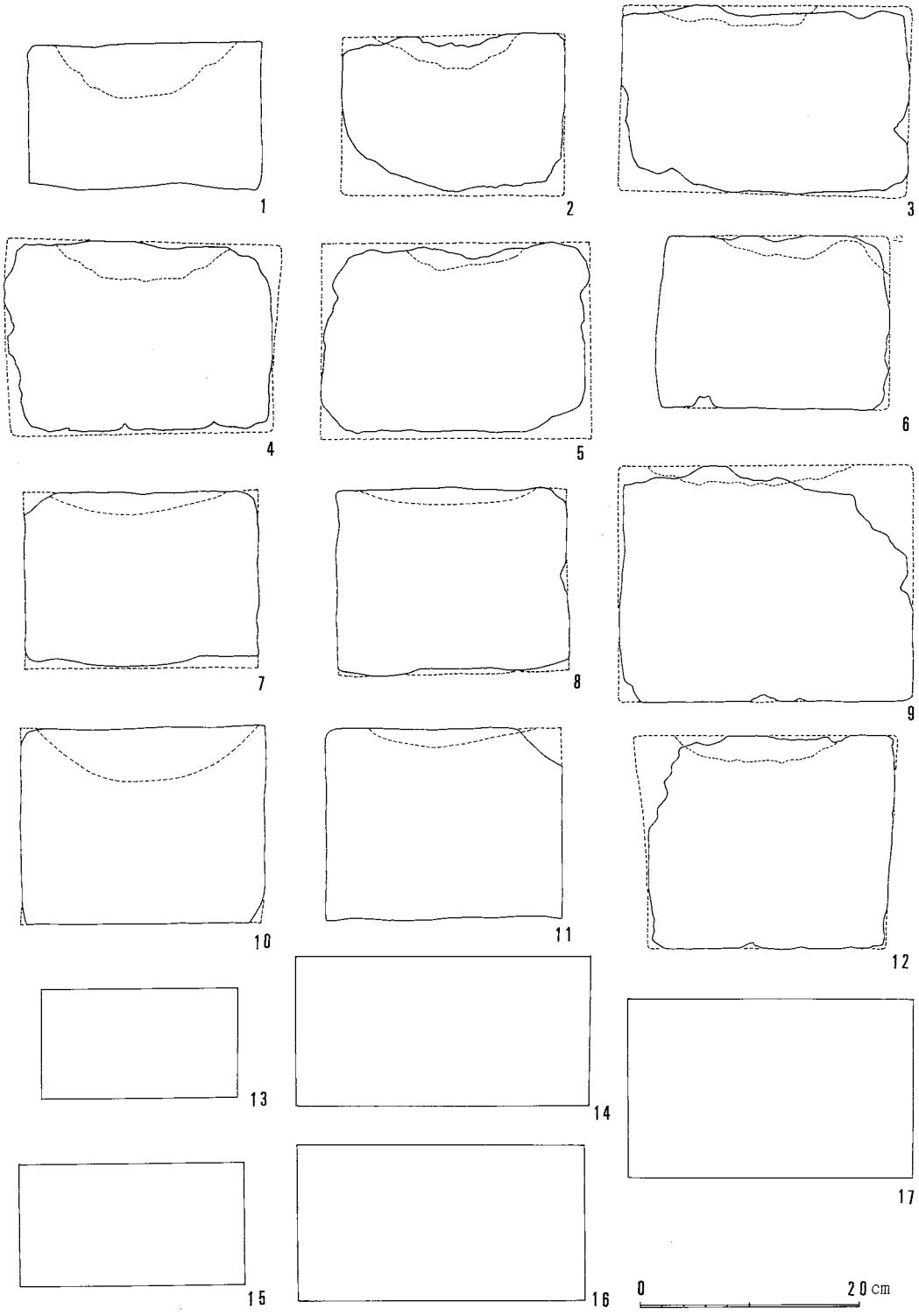
第34図　清水山第２地点出土遺物（９）　S＝$\frac{1}{6}$



第35図　清水山第２地点出土遺物(10)　S＝$\frac{1}{6}$



第36図　清水山第２地点出土遺物(11)　S＝$\frac{1}{6}$



第37図　清水山第２地点出土遺物(12)　S＝$\frac{1}{6}$　(13～17は摸式図)

図版番号	登録番号	出土区	種　別	石　材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備　考
	84		火輪	―	―					
	135	24	空風輪	安山岩	―					破片
	140	25	空風輪	安山岩						破片
	152	24	空風輪	―						
	170	24	空輪	安山岩						破片
	15	7	水輪	安山岩						ボロボロに風化
	81	15	水輪	安山岩						破片
	101	19	水輪	安山岩						破片
	180		水輪	安山岩						破片表採
	6	3	地輪	安山岩	ア	1	23.0	22.5	13.0	
	9	7	地輪	安山岩	イ	2	26.0	26.0	18.0	
	16	7	地輪	安山岩	エ	4	20.0	19.5	16.0	
	17	7	地輪	安山岩	ア	1	22.5	22.0	11.0	
	18	8	地輪	砂岩	イ	2	20.5	20.5	13.3	
	23	6	地輪	安山岩	ア	1	22.5	20.3	12.0	
	25	6	地輪	安山岩	イ	2	23.8	23.5	17.0	
	30	9	地輪	安山岩	イ	2	19.0	18.8	14.0	
	31	9	地輪	安山岩	イ	2	20.5	20.5	13.5	
	34	12	地輪	凝灰岩						ボロボロに風化
	36	12	地輪	安山岩	エ	4	22.4	22.5	18.7	
	39	11	地輪	安山岩	イ	2	22.5	20.5	13.5	
	41	11	地輪	安山岩	エ	4	20.0	20.0	17.5	
	46	13	地輪	安山岩	ウ	3	19.0	18.0	13.0	
	47	13	地輪	安山岩	エ	4	15.0	18.0	15.0	
	50	13	地輪	安山岩	ウ	3	17.8	18.0	13.3	
	51	13	地輪	安山岩	イ	2	20.5	19.5	13.5	
	55	11	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	21.0	15.0	
	56	13	地輪	安山岩	ア	1	25.5	24.8	14.5	
	57	13	地輪	安山岩	イ	2	22.5	22.0	14.0	
	58	13	地輪	安山岩	イ	2				
	59	13	地輪	砂岩	イ	2	21.5	22.5	15.5	
	60	13	地輪	安山岩	エ	4	12.8	23.0	14.0	
	61	16	地輪	安山岩	ウ	3	22.7	23.0	17.0	
	62	16	地輪	安山岩	ウ	3	26.0	26.0	20.0	
	63	16	地輪	安山岩	エ	4	25.0	27.0	23.0	
	65	16	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	24.5	19.5	
	67	15	地輪	安山岩	ウ	3	20.0	20.0	13.8	
	70	15	地輪	安山岩	ウ	3	22.0	22.2	15.0	
	73	15	地輪	安山岩	ウ	3	21.8	21.0	15.5	
	75	15	地輪	安山岩	イ	2	21.8	21.5	13.0	
	79	15	地輪	安山岩	ア	1	26.5	25.9	15.3	
	92	20	地輪	安山岩	イ	2	21.5	21.3	14.3	
	98	20	地輪	安山岩	エ	4	23.0	22.0	17.0	
	100	20	地輪	安山岩	イ	2	28.5	31.0	22.0	
	105	18	地輪	安山岩	ウ	3	19.0	18.0	14.5	
	107	18	地輪	安山岩	イ	2	23.8	23.8	14.7	

第13表　五輪塔属性(1)

図版番号	登録番号	出土区	種　別	石　材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備　考
	109	18	地輪	安山岩	イ	2	28.5	29.0	19.5	
	111	18	地輪	安山岩	ウ	3	25.5	24.5	16.0	
	112	18	地輪	安山岩	イ	2	25.0	26.0	18.0	
	114	18	地輪	安山岩	イ	2	23.0	23.5	14.0	
	118	18	地輪	安山岩	イ	2	21.5	22.0	15.5	
	119	18	地輪	安山岩	イ	2	22.8	21.5	16.0	
	122	18	地輪	安山岩	エ	4	21.5	21.5	19.0	
	126	18	地輪	安山岩	ウ	3	25.0	24.8	20.3	
	127	18	地輪	安山岩	イ	2	23.0	24.0	16.5	
	128	18	地輪	安山岩	ア	1	32.8	32.5	17.5	
	132		地輪		―					表採、風化破片
	134	5	地輪	安山岩	イ	2	21.5	21.0	13.5	
	141	25	地輪	安山岩	ウ	3	24.8	23.8	19.0	
	143	25	地輪	凝灰岩	―					
	146	25	地輪	安山岩	ア	1	20.5	19.5	10.5	
	149	25	地輪	安山岩	エ	4	22.0	21.5	19.5	
	150	26	地輪	安山岩	イ	2	27.0	27.0	19.5	
	153	24	地輪	安山岩	イ	2	26.0	25.5	17.0	
	155	27	地輪	安山岩	イ	2	22.0	21.0	14.0	
	162	8	地輪	安山岩	エ	4	20.0	19.0	16.0	
	163	8	地輪	砂岩	ウ	3	20.0	19.0	15.0	
	164		地輪	安山岩	エ	4	24.0	24.5	20.0	表採
	166		地輪	安山岩	ウ	3	20.5	20.7	14.3	表採
	169	20	地輪	安山岩	ウ	3	24.5	23.0	17.0	
32- 1	13	7	空風輪	安山岩	ア	1	14.3	13.3	17.5	
32- 2	131		空風輪	安山岩	ウ	3	12.5	13.9	16.2	表採
32- 3	77	15	空風輪	安山岩	イ	2	14.3	12.9	19.4	
32- 4	103	18	空風輪	安山岩	イ	2	15.2	13.6	18.6	
32- 5	165	15	空風輪	安山岩	イ	2	16.4	14.1	19.6	
32- 6	40	11	空風輪	安山岩	イ	2	16.3	14.6	20.9	
32- 7	154	26	空風輪	安山岩	イ	2	15.9	14.0	20.6	
32- 8	106	18	空風輪	安山岩	イ	2	18.1	15.8	24.9	
32- 9	45	11	空風輪	安山岩	ウ	3	12.3	12.7	17.4	
32-10	20	8	空風輪	安山岩	ウ	3	12.9	11.7	17.0	
32-11	102	18	空風輪	安山岩	ウ	3	15.3	14.9	21.2	
32-12	26	6	空風輪	安山岩	ウ	3	17.5	14.6	21.9	
32-13	52	11	空風輪	安山岩	ウ	3	15.3	13.1	19.4	
32-14	144	25	空風輪	安山岩	エ	3	12.1	12.6	16.5	
32-15	183		空風輪	安山岩	エ	3	12.4	13.2	17.9	
32-16	89	15	空風輪	安山岩	エ	3	12.3	13.2	18.8	
32-17	37	12	空風輪	安山岩	エ	3	13.3	13.2	18.4	
32-18	85	15	空風輪	安山岩	エ	3	12.6	14.3	20.9	
32-19	181		空風輪	安山岩	エ	3	14.7	14.5	19.0	表採
32-20	71	15	空風輪	安山岩	エ	3	13.9	13.7	16.8	
33- 1	93	15	空風輪	安山岩	オ	4	12.7	12.6	14.8	
33- 2	76	15	空風輪	安山岩	オ	4	12.6	11.6	11.5	
33- 3	66	16	空風輪	安山岩	オ	4	12.4	12.1	16.2	
33- 4	184		空風輪	安山岩	オ	4	11.5	11.3	15.8	表採

第14表　五輪塔属性(2)

図版番号	登録番号	出土区	種　　別	石　　材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備　　考
33- 5	159	27	空風輪	安山岩	オ	4	13.5	12.5	16.1	
33- 6	5	3	空風輪	安山岩	オ	4	13.8	12.7	17.5	
33- 7	19	8	空風輪	安山岩	オ	4	15.4	14.1	17.9	
33- 8	27	6	空風輪	安山岩	オ	4	14.4	13.2	19.4	
33- 9	21	6	空風輪	安山岩	オ	4	15.5	14.3	18.0	
33-10	138	23	空風輪	安山岩	オ	4	14.6	13.1	17.4	
33-11	125	18	空風輪	安山岩	オ	4	16.1	14.1	21.8	
33-12	113	18	空風輪	安山岩	オ	4	17.6	16.0	23.5	
33-13	38	11	空風輪	安山岩	オ	4	14.9	14.6	18.6	
33-14	83	15	空風輪	安山岩	オ	4	14.3	15.1	19.6	
33-15	14	7	空風輪	安山岩	オ	4	16.1	14.3	17.4	
33-16	110	18	空風輪	安山岩	オ	4	15.5	14.6	19.0	
33-17	33	17	空風輪	安山岩	オ	4	15.3	16.1	18.4	
33-18	48	11	空風輪	安山岩	オ	4	16.2	15.6	20.3	
33-19	156	27	空風輪	安山岩	オ	4	16.9	15.3	25.7	
33-20	78	15	空風輪	安山岩	オ	4	16.0	14.9	23.1	
34- 1	74	14	空風輪	安山岩	カ	4	13.3	13.4	15.9	
34- 2	94	15	空風輪	安山岩	カ	4	12.2	12.4	16.7	
34- 3	10	7	空風輪	安山岩	カ	4	12.9	11.7	15.9	
34- 4	120	18	空風輪	安山岩	カ	4	13.9	13.6	16.1	
34- 5	158	27	空風輪	安山岩	カ	4	14.2	13.4	16.1	
34- 6	12	7	空風輪	安山岩	カ	4	14.2	14.0	16.9	
34- 7	7	7	空風輪	安山岩	カ	4	15.1	14.6	20.9	
34- 7	182		空風輪	安山岩	カ	4	10.4	12.9	18.2	
34- 8	80	15	空風輪	安山岩	カ	4	14.0	14.2	18.0	
34- 9	90	15	空風輪	安山岩	カ	4	13.4	13.1	18.7	
34-10	151		空風輪	安山岩	カ	4	12.5	14.3	19.5	
34-11	44	13	空風輪	安山岩	カ	4	14.3	14.1	18.5	
34-12	69	15	空風輪	安山岩	カ	4	15.4	14.7	19.2	
34-14	104	18	火輪	安山岩	ア	1	21.2		9.4	
34-15	54	13	火輪	安山岩	エ	3	18.6		8.7	
34-16	176		火輪	安山岩	エ	3	18.7		11.6	
34-17	96	15	火輪	安山岩	エ	3	21.4		8.7	
34-18	137	24	火輪	安山岩	イ	2	23.0		11.5	
34-19	174		火輪	安山岩	イ	2	21.5		11.0	
34-20	142		火輪	安山岩	イ	2	21.2		10.5	
34-21	139	25	火輪	安山岩	イ	2	23.4		12.8	
34-22	167		火輪	安山岩	イ	2	19.7		13.2	
35- 1	177		火輪	安山岩	ウ	3	11.1		14.0	
35- 2	86	15	火輪	安山岩	ウ	3	27.3		13.2	
35- 3	87	15	火輪	安山岩	ウ	3	22.3		13.1	
35- 4	115	18	火輪	安山岩	ウ	3	26.2		13.5	
35- 5	130	21	火輪	安山岩	ウ	3	23.7		11.8	
35- 6	53	13	火輪	安山岩	ウ	3	22.3		13.1	
35- 7	49	13	火輪	安山岩	ウ	3	23.0		12.6	
35- 8	116	18	火輪	安山岩	ウ	3	24.2		14.1	
35- 9	72	15	火輪	安山岩	エ	3	18.3		13.9	
35-10	129	21	火輪	安山岩	エ	3	19.7		12.9	

第15表　五輪塔属性(3)

図版番号	登録番号	出土区	種　別	石　材	形態	時期	横(cm)	縦(cm)	高さ(cm)	備　考
35-11	108	18	火輪	安山岩	イ	2	27.3		17.0	
35-12	88	15	火輪	安山岩	イ	2	24.0		15.0	
35-13	148	25	火輪	安山岩	エ	3	21.9		14.3	
35-14	43	11	火輪	安山岩	エ	3	24.3		16.7	
35-15	133	5	火輪	安山岩	エ	3	26.5		16.7	
35-16	32	17	火輪	安山岩	エ	3	26.7		15.0	
35-17	121	18	火輪	安山岩	エ	3	23.5		18.2	
35-18	171		火輪	安山岩	ウ	3	34.6		18.3	表採
36- 1	68	15	水輪	安山岩			19.5		11.6	
36- 2	168		水輪	安山岩			19.7		13.0	表採
36- 3	178		水輪	安山岩			18.8		14.7	表採
36- 4	136	24	水輪	安山岩			18.8		14.7	
36- 5	179		水輪	安山岩			18.6		13.3	表採
36- 6	22	6	水輪	安山岩			21.8		13.8	
36- 7	99	20	水輪	安山岩			20.0		14.2	
36- 8	2	2	水輪	安山岩			21.9		14.5	
36- 9	24	6	水輪	安山岩			22.2		15.0	
36-10	124	18	水輪	安山岩			23.1		15.6	
36-11	82	15	水輪	安山岩			24.3		15.3	
36-12	97	20	水輪	安山岩			24.5		16.4	
36-13	157	27	水輪	安山岩			27.4		21.0	
36-14	145	25	地輪	安山岩	イ	2	28.0	26.5	20.3	凹みあり
37- 1	160		地輪	安山岩	イ	2	21.1	20.4	13.5	表採、凹あり
37- 2	29	8	地輪	安山岩	イ	2	20.0	20.5	14.7	凹あり
37- 3	8	11	地輪	安山岩	イ	2	25.8	25.5	17.2	凹あり
37- 4	95	15	地輪	安山岩	イ	2	24.0	25.0	17.5	凹あり
37- 5	64	16	地輪	安山岩	イ	2	24.1	24.5	17.7	凹あり
37- 6	42	11	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	19.3	15.6	凹あり
37- 7	35	12	地輪	安山岩	ウ	3	21.0	22.5	16.0	凹あり
37- 8	117	18	地輪	安山岩	ウ	3	20.8	19.4	16.5	凹あり
37- 9	161	8	地輪	安山岩	ウ	3	26.5	24.7	21.1	凹あり
37-10	91	15	地輪	安山岩	エ	4	21.2	21.5	17.8	凹あり
37-11	11	7	地輪	安山岩	エ	4	20.1	21.5	17.4	凹あり
37-12	123	18	地輪	安山岩	エ	4	23.7	23.5	19.4	凹あり
37-13	28	8	地輪	安山岩	イ	2	17.8	16.0	10.0	凹あり
37-14	4	3	地輪	安山岩	ア	1	26.5	26.5	13.5	
37-15	3	3	地輪	安山岩	ア	1	22.5	19.5	11.0	
37-16	147	25	地輪	凝灰岩	ア	1	26.0	20.0	14.0	
37-17	1	2	地輪	安山岩	イ	2	26.0	24.5	16.2	

第16表　五輪塔属性(4)

のタイプとその中間のタイプがみられ、中間タイプが坏Aのほとんどを占めている。坏蓋は返しがなく天井部と口縁の立ち上がり部の接点の陵がはっきりするものが多くみられる。30cmを越える大形の高台付き盤がみられる等、8世紀第2四半世紀前後（1988　笹沢浩）の特徴を示していると思われる。大量の破片が出土しているものの灰原のこともあり、接合・分析に要した時間数が少ないためもあり、器形のはっきりするものが少なかった。

清水山古窯址群は、今回の調査で灰原の広がりを調査できたが、詳細は長野県埋蔵文化財センターの調査報告を待ちたい。

3　中世

集団墓群が清水山の南斜面から検出された。斜面中腹以上に帯状（幅２～３ｍ）やある程度の大きさに段切りがなされ、墓が構築される。五輪塔、集石、配石によるものなど、墓の形態は様々であった。また、同一カ所に次々に埋葬が行われているために、一つの墓（一人分）を単位として把握することは困難であった。いくつかの形態を含んでいるが、複数の墓がまとまりをもって群を形成している。これを便宜的に区画と呼称しているが、この区画が26以上確認された。また、五輪塔の地輪は79基、集石や配石墓の下部に検出される焼骨の埋葬されたピットは226、骨臓器は７、地輪の凹部に焼骨が認められるもの13基がある。また、複数人の焼骨が埋葬されたと考えられる土壙があり、それを考慮すると、調査区全体では少なくとも240体を越える埋葬が行われていたと考えられる。

骨臓器に使用されていた珠洲系陶器は安岡編年第Ⅲ～Ⅴ期にその製作年代が求められる。板碑は紀年銘がないためはっきりしないが、長野市周辺の類例から14世紀前半の年代を与えることができよう。したがって、集団墓の成立期の上限は13世紀、下限については明きらかでないが近世以降の遺物は確認できないことから、近世までは継続しなかったと考える。その中心期は14世紀から15世紀と考えたい。

骨臓器や五輪塔の凹に埋葬された例はいうまでもなく一つの墓である。これ以外のものは焼骨を埋葬した上に集石や配石が構築され一つの墓になっていたと考えられる。しかし、埋葬の度に五輪塔や集石などが新たに加えられると同時に古い墓は攪乱された。やがて、こうした新たな埋葬時に河原石や古い五輪塔をもちいて区画を設け、複数の墓が区画内に並存する形態になったと思われる。

区画は斜面上方向に開くコの字形で横幅３ｍ、奥行き２～３ｍほどあり、小石が前面部に敷き詰められ、複数の五輪塔や集石が配置されている。区画の背面は段切りの斜面となる。段切り斜面との境には土止めようと思われる配石が認められる例もある。おそらく、区画は前面からみると段切りの斜面を背後に段状な高まりを持っていたものであろう。

また、区画の下部や近接して、火葬した土壙が認められた。これらの上部には集石が認められた。火葬土壙は径50～100cmの円形に近く、深さは10～70cmとまちまちであったが、径の大きなものほど浅い傾向にある。周囲を山石で囲むもの、底部に石が敷き詰められるもの、土壙底部に細い溝が認められるものなどがある。

遺体はいったん、墓に近い土壙で火葬され、遺骨が拾い集められて、五輪塔や集石の下部に埋設されている。骨蔵器や地輪の凹に埋葬された以外はピットや土壙に埋設されているが、これらは有機質の袋や木製の容器（鉄釘の出土から）に納められていたものと思われる。

副葬されたものと思われる古銭が出土している。いわゆる六文銭の風習につながるものではなかろうか。また、区画や集石には河原石が用いられている。これらは近くにはなく、河原から採集する必要がある。民俗例で知られるように、丸石に霊力があると考えられていたことを示して

いるのではなかろうか。

区画には複数の遺体が埋葬されていることは先に述べたが、これは一定に場が常に埋葬される区域として意識され、継続されていたことを示している。今回の調査区では26カ所のこうした区画が認められる。同一区画に埋葬された人々の関係が問題になろう。考古学的にはこれらの人々の関係を知ることができなかったが、同一地点が常に意識され、しかも区画されていることから、何らかの関係を認めざる得ないと考える。これらが、中世社会のどのような単位集団を表象しているか、興味深い。同時に、こうした単位から構成される集団墓を形成した集団がどのようなものであったか、今後の課題である。

最後に、板碑の出土状況にふれておきたい。板碑は隣接する五輪塔の間に、直立して検出された。五輪塔との関係は不明瞭であるが、五輪塔と並立していたのではなかろうか。並立する五輪塔と板碑の下部には火葬土壙と複数の遺体が埋葬されたと思われ土壙がある。

引用文献

1988　笹沢浩　古代の土器　『長野県史』考古資料編第１巻（４）

1989　吉岡康暢　第１部珠洲の名陶　『珠洲の陶器』　珠洲焼資料館

1993　鶴田典昭他　「清水山古窯址」　長野県埋蔵文化財センター年報1992年度

1993　中野市教育委員会　「沢田鍋土遺跡」

第６節　結語

清水山古窯跡遺跡から中世の集団墓域が検出されたことは予想外であった。市内では数例の中世墓の調査例はあるが、今回の調査のように、広い範囲を調査した事例はない。おそらく、県下にも例がなく、全国的に見ても希な例の一つではなかろうか。近年、中世遺跡の発掘調査が盛んに行われ、中性史研究に大きな貢献をはたしている。ここに報告する調査事例もこうした研究に寄与できれば幸いである。

今回の調査で清水山における中世集団墓のあり方を十二分に究明できたとするには、はなはだ心許ない。しかし、集団墓のほぼ全体の八割を調査し、その内容を十分とはいえないが明らかにし得たことは大きな成果であった。分析をとおして、この集団墓は幾つかのグループに分けられること、240以上遺体が埋葬されたこと、中世全般をとおして継続されたことなどが明らかにされた。　こうした集団墓を形成した人々はどこに住み、どの様な階層の人々であったのか。なぜ、いくつかのグループに分けられるのか。まだまだ解決しなければならない多くの課題が山積みされている。しかし、今回の調査成果をさらに分析し、周辺地域の中世遺跡の調査結果を集積する

ことにより、本地域における中世が明らかにされる可能性があると考えて良いであろう。

中野市は本遺跡をはじめ高梨氏館跡等、多くの中世遺跡が確認されている。これらの遺跡を丹念に調査を重ねることにより、中野市の歴史に新たな一頁を書き加えることができるのではなかろうか。調査に加わった一員として、本報告書が活用され、そうした研究の一助と成れば幸いである。

最後に、本調査をすすめるにあたり、陰に日向にご協力いただいた多くの皆様にあつく御礼申し上げる。また、国学院大学教授千々和到氏、長野市立博物館学芸員小山丈夫氏には、板碑や五輪塔をはじめ多くの点についてご教示いただいた。珠洲系陶器については、石川県埋蔵文化財センターの垣内光次郎氏よりご教示をいただいた。あつく御礼を申し上げます。

1．清水山第１地点
遠景
（北方向より）

1

2．清水山第１地点
ＳＫ３断面
（北方向より）

2

3．清水山第１地点
ＳＫ４断面
（北方向より）

3

PL 2

1

1．清水山第１地点
ＳＫ４出土状況
（西方向より）

2

2．清水山第１地点
Ｄ４灰原出土状況

3

3．清水山第１地点
通称すり鉢出土状況

1．清水山第２地点
遠景
（南西方向より）

1

2．清水山第２地点
作業風景
（南方向より）

2

3．清水山第２地点
第３区墓域
出土状況

3

1

1．清水山第２地点
第３区墓域
下部施設
（SK１～SK３）

2

2．清水山第２地点
第７区墓域
出土状況
（西方向より）

3

3．清水山第２地点
第７区墓域
ＳＫ５検出状況

1．清水山第２地点
第５区墓域
出土状況

1

2．清水山第２地点
斜面中腹遺物
出土状況
（東方向より）

2

3．清水山第２地点
第16区墓域
骨蔵器出土状況

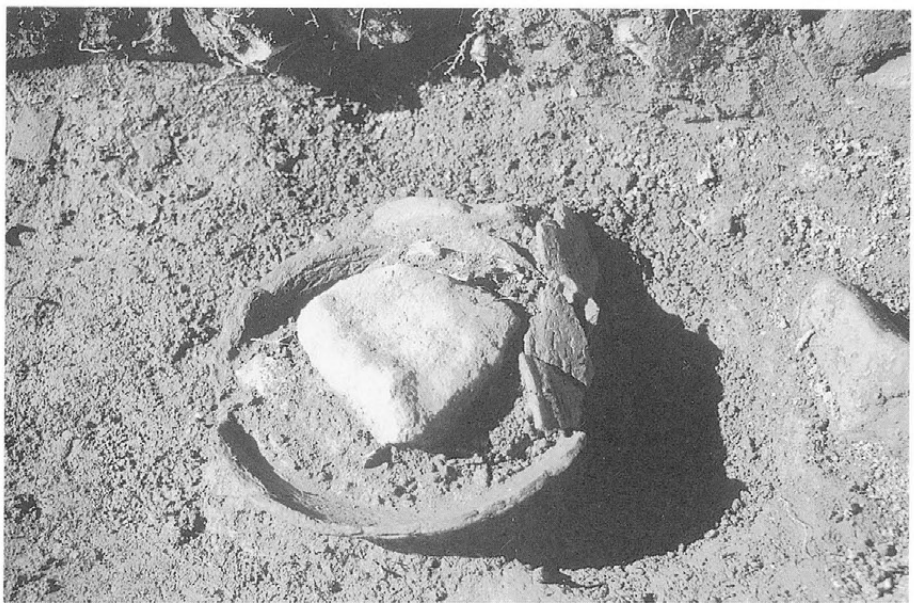
3

1

1．清水山第２地点
第17区墓域
骨蔵器出土状況

2

2．清水山第２地点
第12区墓域
出土状況



3

3．清水山第２地点
第15区墓域
片口鉢出土状況

1．清水山第２地点
第18区墓域
出土状況

1

2．清水山第２地点
第18区墓域
刃子、火葬骨
出土状況
（ピット146）

2

3．清水山第２地点
第９区墓域
出土状況

3

1．清水山第２地点
第25区墓域
下部施設
（ＳＫ25）

1

2．清水山第２地点
上方第25区墓域
下方第26区墓域
骨蔵器出土状況
（東方向より）

2

367.0m
366.0m
365.0m
364.0m
363.0m
362.0m
361.0m
360.0m
359.0m
358.0m
357.0m
356.0m
355.0m
354.0m
A B C D E F G
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
A B C D E F G H I J K
火薬庫
盛土
基本杭A
杭B
杭C
基本杭D
基本杭M
杭N
杭G
凡例
空風輪
火輪
水輪
地輪
基本杭座標
杭 A X 80515.786 Y −16145.575
D X 80520.949 Y −16146.447
E X 80511.911 Y −16146.997
M X 80520.469 Y −16138.479
0 1 2 3 4 5m

清 水 山 古 窯 跡

（古窯址群）（中世墓址群）

発掘調査報告書

平成６年３月25日　印刷
平成６年３月31日　発行

編集　中野市教育委員会
発行　中野市三好町１－３－19

印刷　蔦友印刷株式会社